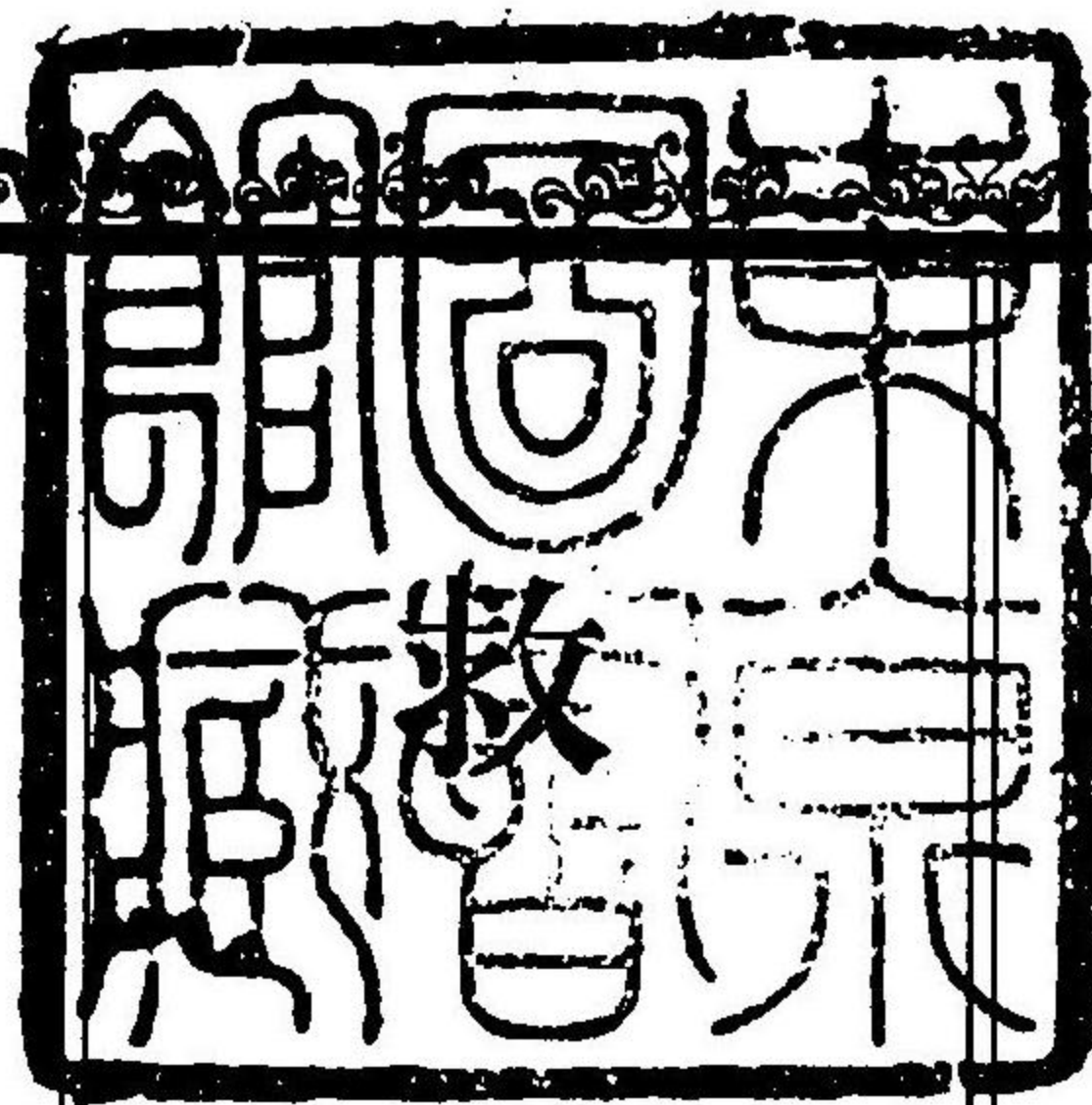


No. 10839



明治學院教授 博士アメルマン著
明治學院教授 井深梶之助譯

拯學全

明治廿一年
六月

明治學院藏版



序言

此書ハ原ト明治學院神學生ノ爲ニ撰ミタル者ナレトモ廣ク世人ガ生命ノ道ニ付テ聖經ノ教理ヲ了解スルノ一助トナサンガ爲ニ世ニ公ニシタリ、此聖經ノ教理ヲ明示スルハ即チ著者ノ目的ニシテ此書ハ徹頭徹尾神ノ言ニ基ケル者ナリ、然レモ亦之ヲ編成スルニ當テ參考引用シタル所ノ神學書少シトセス、其重ナル者ハ兩博士ホツヂ氏博士スミス氏博士クロホルド氏ノ書ナリトス、就中最モ有益ナルハクロホルド氏ノ「贖罪ニ關スル聖經ノ教理」ト題セル一書ナリ、凡ソ神學生タル者ハ須ク之ヲ一讀スベシ願クハ凡テ此書ヲ讀ム人ハ之ニ由テ神ガ吾人ノ爲ニ完全

自由ノ救拯ト永遠不朽ノ生命トヲ備ヘ給ヘル其無限ノ愛
ノ廣大ナル眞理ヲ一層明白ニ了解センコトヲ是レ著者ノ祈
ル所ナリ

一千八百八十八年六月東京明治學院

著者識

救拯學目次

第一章	救拯ノ方法	一	丁數
第二章	救拯ノ方法ヲ一個ノ契約トシテ論スベ キ所以	六	
第三章	此契約ニ關スル諸說	十	
第四章	恩惠ノ契約ト行ノ契約ノ關係	十六	
第五章	恩惠ノ契約ノ對手ト條款	廿二	
第六章	恩惠ノ契約ノ中保及保證人	卅三	
第七章	恩惠ノ契約ノ時期	四十一	
第八章	神子ノ成肉	五十一	
第九章	キリストハ惟一ノ中保ナリ	八十三	
第十章	中保ノ働	百一	

第十一章

キリストノ豫言職

百十

第十二章

キリストノ祭司職

百二十五

第十三章

復和

百四十八

第一

キリストノ死ハ贖罪ノ犠牲ナリ

百五十二

第二

此犠牲ハ神人兩性ヲ兼有シタル我儕ノ

中保ガ自ラ甘ジテ獻ゲタル者ナリ

百六十二

第三

此犠牲ニ由リテキリストハ恩惠ノ契約

ニ於テ父ト約束シタル事ヲ成就シ給ヘ

百六十三

第四

キリストハ此犠牲ニ由テ凡テ神ノ律法

ト公義ガ人類ノ罪惡ニ對シテ要求スル

處ヲ満足セシメタリ

百六十五

第五

キリストノ苦難及ビ死ハ我儕罪人ニ代

テ受タル者ナリ

百九十四

第六

キリストノ苦ト死ハ罪ノ刑罰ト同ニ非

ズ之ニ匹敵スル耳

二百四

第七

キリストノ生涯ノ完全ナル從順ハ其中

保ノ行ノ一部分ナリ

二百九

第八

キリストノ中保ノ行ト苦ハ我儕ヲ聖潔

ニスル者ナリ

二百十二

第九

キリストノ中保ノ行ハ完全ナリ

二百十六

第十

キリストノ中保ノ利福ハ福音ニ於テ凡

ノ人ニ自由ニヘラル

二百十九

第十四章

諸説

二百廿三

第一	致命説	同
第二	キリストノ死ハ只其復活ニ必要ナル預備ニ過ギズトノ説	二百廿五
第三	キリストノ死ハ我儕ノ模範ナリトノ説	二百廿六
第四	キリストノ死ハ神ノ性徳ヲ顯ハサン爲ナリトノ説	二百廿九
第五	キリストノ死ハ神ノ愛ヲ顯ハサン爲ナリトノ説	二百三十
第六	キリストハ終迄全ク神ノ命令ニ從ヒ之ニ由テ人ヲ救フノ權ヲ得タリトノ説	二百三十三
第七	モリス氏ノ説	二百三十六

第八	アルホルド氏ノ説	二百四十四
第九	ヨングブシ子ル氏等ノ説	二百四十六
第十	贖ハ神カ天地ヲ治ムルノ必要ニ應ゼンガ爲ナル説	二百五十一
	贖ノ目的	二百五十八
第十五章	キリストノ王職	二百七十五
第十六章	キリストノ謙卑	二百八十九
第十七章	キリストノ高擧	三百一
第十八章	聖靈人ニ救ヲ得セシムルノ行爲	三百十六
第十九章	受召	三百十七
第二十章	更生	三百三十二
第二十一章	信仰	三百四十八
第二十二章	悔改	三百六十五

第二十三章	義トセララル、事	三百七十七
第二十四章	子ト爲ル事	四百九
第二十五章	聖メラル、ノ事	四百十九
第二十六章	善行	四百四十三
第二十七章	聖徒ノ耐忍	四百四十九

救拯學



第一章 救拯ノ方法

救拯學ハ人類ノ救拯ニ關スル神ノ目的、救主ノ「ヘルツナ」行爲、聖靈ガ人類ニ救ヲ得セシムル其行爲及ビ所謂恩惠ノ方法ノ事ヲ論ズル者ナリ

救拯學ニ當テ我儕ハ須ラク全知全能ナル神ハ睿智廣大ナル方法ニ由テ天地萬物ヲ宰治シ給フ事ヲ記憶スベキ也、定旨第三丁以下天地創造論第七章第八章及ビ其他ノ所ニ於テ論シタル所ナリ、抑我儕ガ神、人、罪惡、救拯等ニ關スル聖經ノ諸教理ヲ網羅シテ一ノ和合シタル神學組織ヲ爲スヲヲ得ルハ實ニ此實事ニ因ル也、且基督教會ニ於テ種々教理上ノ異說アル所以ハ此神ノ方法ノ一部分ニ關シテ教師等ガ其意見ヲ

異ニスルカ故ナリ、殊ニ人類ノ救拯ニ關スル意見ハ其救ヘル、
ヲ要スル所ノ罪惡ノ意見如何ニ由テ異同アリ、然レモ神學ノ講
究ハ先ヅ救主キリストノ事ノ講究ヲ以テ始ムベシト主張スル
者ハキリストニ關スル其意見如何ニ由テ罪惡ノ意見ヲ異ニス
ベシ、我儕ハ聖經ノ大旨ハ即チ神ガ大慈大愛ヲ以テ罪アル人類
ノ爲ニ設ケ給ヘル救拯ヲ顯スニ在ルコトヲ確信スル者ナリ、然レ
モ人若シ救拯ノ必要ヲ知り且其要スル所ノ救拯ノ何物タルヲ
知ラント欲セバ先ヅ己ノ罪アルコトヲ知ラザル可ラザルガ故
ニ論理ノ順序ニ於テ此等ノ大事ヲ論ズルニハ救拯ノ事ヲ論ズ
ル前ニ先ヅ人ノ罪惡ノ事ヲ講究セザル可ラズ、然レモ此二事ハ
其一ヲ了解スルニ非レバ其他ヲ了解ス可ラズ、其一ヲ知テ而シ
テ後ニ始テ能ク其他ヲ知ルベシ即チ罪惡ノ事ヲ研究シテ始テ
其救拯ノ如何ニ洪大ナラザル可ラザルコトヲ知り救主キリスト

ソ「ペルツナ」ト行爲トヲ研究シテ始テ神ガ救拯ノ道ヲ設ケ給ヘ
ル所ノ人類ノ罪惡ノ如何ニ甚シキヤヲ知ルベキ也、蓋此二事ノ
研究ハ相須チ相補テ始テ全キヲ得ル者也、我儕ハ即チ此論理ノ
順序ニ循テ先ヅ罪惡ノ事ヲ論ジタレバ是ヨリ進テ救拯ノ事ニ
論及セン
是迄講究シタル所ニ由テ我儕ハ左ノ事ヲ發見シタリ
(第一) 神ノ榮光即チ神性固有ノ美德ヲ顯ハスハ即チ宇宙萬物
ノ最大目的ニシテ神ハ此目的ヲ達セン爲ニ宇宙萬物ヲ創造シ
且之ヲ攝理スルノ方法ヲ定メ給ヒシ事
(第二) 神ハ人ヲ聖潔ナル者又己ノ像ニ象テ創造シ而シテ之ヲ
人類ノ始祖萬民ノ代表者ト做シテ之ニ命ヲ授ケ其命ヲ守レバ
彼ト其子孫後裔ニ生命ヲ與ヘ之ニ背ケバ死ヲ與ント約束シ給
ヒシ事

(第三) アダムノ墮落ニ由テ其子孫後裔悉ク有罪定罪思難ノ有様ニ陥リ自ラ之ヲ脱スル能ハザル事

(第四) 此墮落セル人類中ヨリ神ハ或者ヲ選擇シテ其性質ヲ改メ其罪ヲ赦シ之ニ永生ヲ與ヘ而シテ自餘ノ人類ヲバ其自ラ罪ヲ犯シ自ラ汚スニ任セテ終ニ其罪ヲ罰セント定給ヒシ事

(第五) 此或者ガ救拯ニ選擇セララル、所以ハ一ニ神ノ聖旨ニ在テ其選擇セラレタル人ニ於テ毫モ善アルコトヲ預知セラレタルガ故ニ非ル事(人性論第十四、十五章、神之定旨第十七、丁ヨリ二十三、丁)

是ヨリ進ムニ隨テ我儕ハ左ノ事ヲ發見スベシ
(第一) 神ハ己ノ選擇シタル者ヲ救ハン爲ニ己ノ子ヲ世界ニ降シテ人ト爲シタリ、是レ其自ラ人トシテ又他ノ人ニ代テ全ク神ノ律法ヲ守リ且罪ノ罰ヲ受ン爲ナリ、是レ惟ニ世ノ罪ヲ贖フノ

ミナラズ永遠ノ義ト生トヲ備ヘンガ爲ナリ

(第二) 聖靈其通常ノ行爲ニ於テハ各人ト偕ニ在ト雖其必救ノ能ヲ施スハ獨被選者ニ止ル事

(第三) 凡テ神ガ救拯ニ選擇シ給ヘル者ハ必ズ(幼稚ニシテ死スルニ非レバ)神ノ眞理ヲ知リキリストヲ信シ終ニ至ル迄聖潔ノ生命ヲ守ル事

凡テ此等ノ事ヲ聚合シ且此順序ニ循テ排列セル者ヲ以テ聖經ニ啓示セラレタル神ノ選大不易ナル方法ノ大要トス、此方法ハ創世ノ始ヨリ定メラレテ凡テ創造攝理贖罪ノ行爲ヲ包含ス、或ハ之ヲ名ケテパウロノ方法ト云フ何トナレバ他ノ聖經記者ヨリモ彼最モ好ク之ヲ敘述シタレバナリ、或ハ又アウガステンノ方法ト名ク何トナレバ初代教會ノ他ノ著者等ヨリモ彼最モ好ク之ヲ論シタレバナリ、是レ即チ初代教會ノ大抵維持シタル所

ノ方法ナリ、トレントノ大會議ニ於テ之ヲ拒絕シタレ、是レ當時教會ハキリストノ教會ヨリハ寧ロ羅馬法王ノ教會トナリタルガ故ナリ、教法改革者等ハ此方法ヲ取リタルガ故ニ歐米兩洲ハプロテスタント教會ノ信仰箇條ニハ大抵之ヲ包含セリ、是ヨリ此書ニ於テ辨明スベキ部分ヲ除テハ此方法ハ我儕既ニ之ヲ證明シタリ、尙一層詳カニ其證據ヲ研究セント欲スル者ハ博士チャールスホッヂ氏組織神學第二卷三百三十四丁乃至三百五十三丁ヲ參考セバ益スル所多カルベシ

第二章 救拯ノ方法ヲ一個ノ契約トシテ

論ズベキ所以
是レ第一此方法ノ性質タルヤ三「ベルソナ」ニ於テ契約ト云フ語ヲ以テ最も能ク表明スベキ約束ヲ要スル事ニ由テ顯ハル、也、

此方法ニ於テ父ナル神ハ其子ヲ世界ニ遣ハシ之ヲ人ノ代表者トナシ又人ヲ救ハン爲ニ或事ヲ行ハシメ而シテ之ト或契約ヲ立テ子ナル神ハ世界ニ降りテ人ノ爲ニ此等ノ事ヲ行フコトヲ承諾シ而シテ己ノ爲又人ノ爲ニ約束ノ褒賞ヲ得、聖靈ナル神ハ子ナル神ノ行爲ノ利益ヲ人ニ與フル者トシテ顯ハル、¹ヲ發見スベシ、是レ即チ契約ニ必要ナル所ノ凡ノ部分ヲ含有セル者也、加之聖經ハ此ノ如キ契約アル事ヲ明白ニ教フル也

(第一) 耶利三十一ノ三十一ヨリ三十四ニ曰エホバ曰給フ視ヨ我イスラエルノ家トユダノ家トニ新シキ契約ヲ立ル日來ラン、此契約ハ我が彼等ノ先祖ノ手ヲ取テエジプトノ地ヨリ之ヲ導キ出セシ日ニ立シ所ノ如キニ非ズ、我彼等ヲ娶リタレドモ彼等ハ其我が契約ヲ破レリトエホバ曰給フ、然レド彼日ノ後ニ我がイスラエルノ家ニ立ン所ノ契約ハ是レナリ、即チ我が律法ヲ

彼等ノ衷ニ置キ其心ノ上ニ録サン、我ハ彼等ノ神トナリ、彼等ハ我ガ民トナルベシトエホバ日給フ、人各々其隣ト其兄弟ニ教ヘテ汝エホバヲ識レト復言ハシ、其ハ小ヨリ大ニ至ル迄悉ク我ヲ知ルベケレバ也、希伯來書著者ハ第八章ニ此等ノ語ヲ引キキリストノ祭司ノ職ヲ論ジキリストヲ新約ノ中保ト稱シタリ

(第二) 創世十七ノ二ヨリ七ニ神ガアブラハムト立タル契約ノ事アリ而シテ加拉三ノ八ニパウロ此契約ヲ指シテ福音ト呼リ

(第三) 以賽四十二ノ六ニイザヤキリストノ事ヲ語テ曰我エホバ公義ヲ以テ汝ヲ召シタリ、我汝ノ手ヲ取り汝ヲ護リ汝ヲ民ノ契約トシ異邦人ノ光トナシ云々

(第四) キリストハ父ヨリ命令ヲ受タル事ヲ語給ヘリ、約翰十ノ十七、十八ニ曰我ガ父我ヲ愛スツハ我再ビ命ヲ得ンガ爲ニ命ヲ捨ルガ故ナリ、我ヨリ之ヲ奪フ者ナシ、我自ラ之ヲ捨ルナリ、我之

ヲ捨ルノ能アリ、又能ク之ヲ得ルノ能アリ、吾父ヨリ我此命令ヲ受タリ(路加二十二ノ十九、約翰三ノ十七參考)

(第五) キリストハ父ヨリ委任セラレタル行ヲ成就シタリト云ヒ而シテ之ヲ以テ父ノ約束ノ成就シタル証據トナセリ、約翰十七ノ一ヨリ五ニ曰イエス此言ヲ語畢テ天ヲ仰ギ曰ケルハ父ヨ時至リヌ、汝ノ子汝ノ榮ヲ顯ハサンガ爲メニ汝ノ子ノ榮ヲ顯ハシ給ヘ、是レ汝我ニ賜ヒシ所ノ者ニ我永生ヲ予ンガ爲凡ノ者ヲ治ムル權威ヲ我ニ賜ヒタレバ也、永生トハ唯獨ノ眞神ナル汝ト其遣ハシ、イエスキリストヲ知ル是レ也、我汝ノ榮ヲ世ニ顯ハシ汝ノ我ニ委シ所ノ行ハ我之ヲ成セリ、父ヨ今我ヲシテ汝ト偕ニ榮ヲ得サセ給ヘ、即チ世ノ始ヨリ先ニ汝ト偕ニ有シ所ノ榮ヲ得サセ給ヘ

(第六) 又キリストハ其人民ト己ノ將ニ受ントスル榮光ハ即チ

父ヨリ褒賞トシテ與ヘラル、者ナリト明言シ給ヘリ、約翰十七ノ六ヨリ十二曰汝世ヨリ選テ我ニ賜ヒシ人々ニ我汝ヲ顯ハセリ、彼等ハ汝ノ物ニシテ汝之ヲ已ニ我ニ賜フ、彼等又汝ノ道ヲ守レリ、彼等今汝ノ我ニ賜ヒシ者ハ皆汝ヨリ出ント知ル、ソハ我汝ガ我ニ賜ヒシ言ヲ彼等ニ予ヘタレバ也、彼等之ヲ受ケ又我ガ汝ヨリ出シ事ヲ誠ニ知り且汝ノ我ヲ遣シ、事ヲ信シタリ、我彼等ノ爲ニ祈ル、我ガ祈ルハ世ノ爲ニ非ズ、汝ノ我ニ賜ヒシ者ノ爲ナル耳、夫レ彼等ハ汝ノ物ナレバ也、凡テ我ガ物ハ汝ノ物汝ノ物ハ我ガ物ナリ、且我彼等ニ由テ榮ヲ受ク(腓力二ノ六ヨリ十一參考)(第七)キリストヲ新約ノ中保ト稱シ(希伯九ノ十五)又最モ善キ契約ノ保證人ト稱シタリ(希伯七ノ二十二)

第三章 此契約ニ關スル諸説

諸説各異同アリト雖左ノ數項中ニ悉皆之ヲ包含スルコトヲ得ベシ、曰恩惠ノ契約ハ神ト人トノ間ニ立ラル、者トスル事、人ハ其墮落ニ由テ神ノ恩惠ト神ノ像トヲ失ヒ罪惡思難ノ境遇ニ陥リタリ、而シテ神若シ之ガ爲ニ救ノ道ヲ設ケ給フニ非レバ此境遇ニ於テ亡ビザルヲ得ズトスル事、神ハ其墮落セル人類ヲ矜恤シ己ノ子ヲ世界ニ遣ハシテ人ト爲シ且凡テ人類ノ救拯ノ爲ニ必要ナル事ヲ行ハシメ又其ガ爲ニ苦マレメント決定シタリ、而シテキリストノ此贖罪ノ行ニ基テ神ハ凡テ其道ニ從フ者ニハ救ヲ與ント約束シ給ヘリトスル事、此概略ハ神ハ恩惠ノ契約ニ由テ行ノ契約ニ由ルヨリモ得易キ方法ヲ以テ永生ヲ與ヘ給フ事ヲ含ム也

第一 ベレジ阿斯派ノ輩ハ行ノ契約ト恩惠ノ契約ニ區別ナシ惟其要ムル所ノ從順ノ程度ニ於テ差別アル耳トス、其説ニ曰神

ハアダムニ完全ノ從順ヲ要メ給ヘリ何トナレバアダムハ能ク完全ノ從順ヲ盡シ得ベキ境遇ニ在タレバナリ然レモ今ニ至テハ人既ニ其境遇ニ在ラズ、故ニ神ハ唯人ノ不完全ナル境遇ニ在テ爲シ得ベキ程ノ從順ヲ要メ給フ耳ト、此說ニ由レバ此契約ハ神ト人トノ間ニ立ラシタル者ニシテ契約ヲ守レバ生命ヲ得ベク此契約ノ要ムル所ハ不完全ナリト雖人ノ爲シ得ベキ所ノ信實ノ從順ナリトスル也

第二アルミニアン派ノ說ハ人性ノ敗壞ヲ識認スル事ニ於テ前說ト異ナル所アリ、ペレジアス派ハ人性ノ敗壞ヲ拒ム者ナリ、此ノ如ク其說異ナルガ故ニ舊アルミニアン派ノ輩ハ人ガ神ニ從順ヲ致スニハ超性的ノ恩惠ヲ要スト論ヲタリ、但此超性的ノ恩惠ハ凡人ノ人ニ與ヘラル、者ト爲セリ、然レモ其實此說ハ前說ト異ナラザルナリ何トナレバ前說ト同ク此契約ハ神人間ニ立ラ

レ之ヲ守レバ生命ヲ得ベキ者トナシ且其要ムル所ノ者ハ人ノ能クスベキ所ノ者トスレバ也

第三 アルミニアンメソヂスト派ノ說ハ更ニキリストノ行ヲ貴ビ且重生ニ於テモ聖靈ノ感化必要ナリトス、然レモ彼等ハキリストノ行ハ凡人ノ人ニ同一様ノ關係ヲ有スル者ニシテ凡人ヲシテ福音ノ要求ニ從ハシムルニ足レル恩惠ヲ得セシムル者ナリトス、故ニ此說ニ由レバ各人ノ救ハル、ト救ハレザルトハ其人自ラノ行ニ由ル、即チ其人ガ凡人ト共ニ與ヘラレタル所ノ恩惠ヲ用ウル方法如何ニ由ル、其人若シ此恩惠ヲ正當ニ用レバ増ス神ノ恩惠ヲ受テ重生スベシ、而シテ尙續テ之ヲ正當ニ用レ非テ止マザレバ遂ニハ救ハルベシト說ケリ、要スルニ此說モ其實行ノ契約タルヲ免レザルモノナリ

第四 方今ルーテル派ノ輩ハキリストハ均ク凡人ノ爲ニ死

レ救ハ凡テ福音ヲ聽テキリストヲ信ズル者ニ與ヘラレ信仰ハ
 神ノ賜ナルガ故ニ人ハ自ラキリストヲ信ズルノ能ナシト雖神
 ノ恩惠ニ抵抗スルノ能アリト主張ス、此説ニ由レバ凡テ福音ヲ
 聞ク者ハ故意ニ神ニ逆フニ非レバ悉ク救ハル、也
 要スルニ此等ノ諸説ト第一章ニ陳述セル救拯ノ方法トハ左ノ
 重要ナル差別アリ

第一 此等ノ諸説ニ由レバ恩惠ノ契約ハ均ク萬人ニ關ハル者
 トシ我儕ノ説ニ由レバ唯實ニ救ハル、者ノミニ關ハルトス

第二 此等ノ諸説ニ由レバ人ノ救ハル、ト救ハレザル、トハ其
 人ノ定ムル所ナリ、我儕ノ説即チ聖經ノ明白ナル教ニ由レバ是
 レ人ノ定ル所ニ非ズシテ獨リ神ノ定旨ニ由ルトス

第三 此等ノ諸説ニ由レバアダムトキリストノ間ニ聖經ニ於
 テ立ル如キ比例ヲ立ルコト能ハズ、アダムハ一ノ行ニ由テ萬人

ヲ罪アル者トナシタリ、然レモキリストハ一人モ救ハズ唯萬人
 若シ救ハレント欲セバ救ハル、コトヲ得ヘキ道ヲ聞キタル耳、
 又此等ノ諸説ニ由レバキリストノ義ノ歸セラル、ト云フコト
 ナシ

茲ニ一ノ注意ヲ要スルコトアリ即チ所謂恩惠トハ如何ナル意
 義ナル乎之ヲ了解スルコト緊要ナリ、或ハ之ヲ其功ナクシテ受
 ン慈愛ノ義ニ用井或ハ其功ナクシテ受ル賜又ハ恩寵ノ義ニ
 用井或ハ又人ニ於テ之ヲ受ベキ功ナシト雖キリストノ功德ニ
 由テ賜ハル所ノ聖靈ノ能ノ義ニ用井タルコトアリ、凡テ此等ノ
 意義ヲ以テ救拯ノ方法ハ正當ニ恩惠ノ契約ト名ルコトヲ得ベ
 シ、抑此契約ハ唯神ノ烈怒義罰ヲ受ル、外ナキ人類ヲ神ガ愛ミ
 給フニ出ルモノナリ、此契約ハ人ノ行ヲ報賞トシテ生命ヲ與ン
 ト約束スルニ非ズ、但慈愛ノ賜トナスナリ、且其報賞ハ人ノ自然

ノ才能ニ由テ得ベキニ非ズ但其功ナクシテ受クル所ノ賜トシテ與ヘラル、聖靈ノ能ニ由テ受ベキ耳
此事極テ重要ナルガ故ニ縱令少シク重複スルト雖次章ニ於テ恩惠ノ契約ト行ノ契約ノ關係ヲ詳論セン

第四章 恩惠ノ契約ト行ノ契約ノ關係

我儕ハ既ニ人類創造ノ後、神ハ人類ノ始祖又代表者タル者ト一ノ契約ヲ立給ヘル事ヲ示シタリ、通常之ヲ名ケテ行ノ契約ト云フ、契約ニ由レバ始祖若シテ神ノ命令ヲ守レバ之ヲ守ルノ報賞トシテ子孫後裔ニ至ル迄悉ク永生ヲ受ベカリシナリ、又我儕ノ始祖ハ此命令ヲ守ラザリシガ故ニ此永生ヲ失ヒ且其子孫タル人類ハ本來ノ聖性ヲ失ヒ罪ニ定メラレ永罰ヲ受クベキ者ト爲レル事ヲモ辨ジタリ

俗聖經ノ教ニ由レバ三一ノ神即チ父、子、聖靈ハ世界創造ノ前ヨリ早ク既ニ此人類ノ墮落ト患難ヲ先見シ其無限ノ慈愛ヲ以テ人類ノ爲ニ救ノ道ヲ設ケ給ヘリトス、人既ニ己ノ行爲ニ由テ永生ヲ得ルノ力ナキガ故ニ其他ニ之ヲ購フ者アリ、而シテ恩賜トシテ之ニ予ヘラル、コトトナレリ、父ナル神ト子ナル神ハ人類ヲ愛シ給フノ餘リ、父ナル神ハ子ナル神ヲ世界ニ遣ハシ凡テ人類ノ罪ヲ贖フニ必要ナル事ヲ行ハシメ而シテ凡テ之ガ爲ニ必要ナル祐助ヲ加ヘ且其功ニ因テ其人民ニ永生ト公義ヲ予ント約束シ、子ナル神ハ世界ニ降テ此行ヲ成サンコトヲ承諾シ給ヒタリ、是故ニ神ノ法ニ於テ凡テ人類ノ救ニ關スル所ノ部分ヲ指シテ恩惠ノ契約ト稱ス
此恩惠ノ契約ヲ詳論スルニ當テ我儕ハ須ラク此二ノ契約ノ事情ト關係トニ就テ左ノ事ヲ考フベシ

第四章

第一 行ノ契約ノ立ラレタル時ニハ人ハ完全無欠ノ者ナリシガ恩惠ノ契約ノ啓示セラレシ時ニハ人既ニ墮落シテ罪アル者トナレリ、之ヲ能ク了解シテ記憶スルコト緊要ナリ、然ラザレバ恩惠ノ契約ノ何物タルヲ知ルコト能ハザルベシ、人類ハ既ニ愆ト罪ニ死シ(以弗二ノ一)生レナガラニシテ怒ノ子トナリ(同二ノ三)望ナク又世ニ在テ神ナキ者ナリキ(同二ノ十二)

第二 行ノ契約ノ目的ハ人ヲシテ其聖善ノ性質ト神ノ恩寵トヲ永遠ニ維持セシムルニ在リ、恩惠ノ契約ノ目的モ亦又此外ニ出ズト雖人類ノ境遇既ニ一變シタルガ故ニ此目的ヲ達スルノ方法モ亦一變セザル可ラス、何トナレバ人既ニ墮落シタルガ故ニ神ノ公義ト聖善トニ背カズシテ復ビ神ニ歸依シ其恩寵ヲ蒙ルノ方法ヲ企圖シ又ハ其行ヲ爲スコト能ハザレバナリ、前ノ場合ニ於テハ人固ヨリ完全ニシテ唯其完全ヲ維持セバ可ナリシ

ガ後ノ場合ニ至テハ人既ニ罪ヲ犯シ罰ヲ受クベキ者ト爲タルガ故ニ復ビ神ノ恩寵ト聖善トニ歸依スルコト必要トナリシ也

第三 行ノ契約ニ就テ神ノ宣給ヘル所ノ事ハ必ズ成就セザルヲ得ス、縱令如何ナル方法ヲ以テ人類ヲ救ヒ之ニ永生ヲ與フルノ道ヲ設ケ給フトモ神ノ永遠ノ眞理ト公義ノ要求ハ全ク應ゼザルヲ得ズ、縱令人ニ於テ變更アリトモ神ニ於テ變更アル可ラズ、然ラハ罪ノ罰ハ必ズ之ヲ負フ所ノ者無カル可ラズ、神ノ律法ハ必ズ遵守セラレザル可ラズ、加之ナラズ人既ニ一變シテ本來ノ聖潔ニ代テ罪惡敗壞ノ者ト爲タルガ故ニ之ヲシテ神ガ設ケ給フ所ノ救ヲ受ルニ堪ル者タラシメンニハ其罪惡ノ性質ヲ更ニ又一變シテ其罪惡敗壞ヲ蟬脱セシメザル可ラズ、然リ而シテ神ハ恩惠ノ契約ニ於テ無限ノ慈悲仁愛ヲ以テ墮落セル罪人ノ爲ニ其自ヲ得ルコト能ハザル所ノ救ヲ得ルノ道ヲ顯ハシ給ヘ

ルナリ、而モ之ニ由テ神ノ至尊ナル成全ノ徳ヲ一モ害スルコト
ナク反テ之ニ由テ其盛徳ヲシテ更ニ光輝ヲ發セシメ給ヘリ、何
トナレバ此ニ於テ始テ其最モ嚴格ナル公義ハ行ノ契約ニ於テ
之ヲ容ル、ノ餘地ナカリシ所ノ最モ寛容ナル慈愛ト和合スル
コト顯ハルレバ也

第四 行ノ契約ニ於テハ我儕ノ始祖ハ天下萬民ノ代表者ニシ
テ我始祖ガ墮落セル時ニ萬民悉ク墮落シタルナリ、恩惠ノ契約
ニ於テモ亦人類ノ代表者ナカル可ラズ、而シテ神ノ子其代表者
トナリ人類ノ爲ニ神ノ律法ヲ守リ且彼等ノ爲ニ刑罰ヲ受給ヘ
リ、固ヨリ此代表者ノ關係ノ基ク所ニ至テハ彼ト是ト同カラズ、
行ノ契約ニ於テハアダムハ人類ノ始祖タルノ故ヲ以テ此關係
ヲ有シ、恩惠ノ契約ニ於テハ肉體トナレル神ノ子即チ救主ヲ信
ズルニ因テ此關係ヲ生ズルナリ

第五 夫レ人ハ自ラ己ノ罪惡汚穢ヲ脱スルコト能ハズ又自己
ノ力ヨリモ一層大ナル力ニ由テ新生スル迄ハ救主ヲ信ズルコ
ト能ハズ、故ニ父子ノ神ハ聖靈ヲ遣ハシテ人ノ心ニ此信仰ヲ起
シ而シテ其生ヲ新ニシ且潔メ給フ也

第六 由是觀之、恩惠ノ契約ハ聖父聖子聖靈ノ三「ペルソナ」ニ由
テ設ケラレ且實行セラルベキ救拯ノ方法ナリ、即チ父ナル神ハ
子ト聖靈ヲ遣ハシ子ナル神ハ父ニ由テ遣ハサレ而シテ人ニ代
テ凡テ其救ニ必要ナル所ノ事ヲ行ヒ聖靈ナル神ハ父ト子ニ遣
ハサレ而シテ其救ヲ人ニ得セシメ給フ也

第七 我儕ハ又此ニ恩惠ノ契約ハ神ガ前ニ行ノ契約ニ由テ人
ニ生ヲ與ント企圖シテ失敗ヲ取リタルガ故ニ其欠典ヲ補ハン
ガ爲ニ設ケラレタル者ニ非ルコトヲ記憶スベシ、行ノ契約ニ欠
典アルニ非ズ、即チ完全ノ法ナリ、然ルニ人其命ニ背キタルガ故

ニ行ハレザリシ耳、神ハ無始永遠ヨリ人類ノ惡逆墮落ヲ先見シ
 而シテ既ニ恩惠ノ契約ニ由テ人類ヲ復ビ聖善ト生命ニ歸ラシ
 ムルノ道ヲ設ケ給ヒシナリ、然ラバ則チ恩惠ノ契約ハ行ノ契約
 ヨリモ前ニ設ケラレタル者ナリ、何トナレバ創世ノ先ヨリ既ニ
 設ケラレタル者ナレバナリ、但此兩契約ノ啓示ニ於テ前後ノ順
 序アル耳、神ノ叙慮ニ於テハ兩契約共ニ無始永遠ヨリ存シタリ
 シガ事情創世ノ後ニアラザレバ行ノ契約ハ立ツベカラズ、人類
 墮落ノ後ニ非レバ恩惠ノ契約ハ顯ハス可ラザル也

第五章 恩惠ノ契約ノ對手ト條款

恩惠ノ契約ノ對手ハ父ナル神ト子ナル神ナリ、聖靈ナル神ハ此
 契約ノ利益ヲ人ニ得セシメ給フト雖契約ノ對手トシテハ聖經
 ニ顯ハレズ、父ナル神ハ全キ三一ノ神ノ分ツベカラザル主權ヲ

代表シ、子ナル神ハ神人間ノ中保トナリテ凡テ其選民ヲ代表シ
 給フナリ、蓋此事ハ各人ノ爲スベキ行ヲ考フルニ隨テ明瞭ナラ
 シ

第一 子ナル神ニ就テ約定セラレタル事ハ其實ニ人類ノ罪ヲ
 贖ハン爲ニ行ヒ給ヒシ所ノ事ニ由テ顯ハル

一 人類ト成リ女ヨリ生レ律法ノ下ニ服シ給フベキ事、加拉四
 ノ四、五ニ曰然レモ期既ニ至ルニ及デ神其子ヲ遣ハシ給ヘリ、彼
 ハ女ヨリ生レ且律法ノ下ニ服シタリ、是レ律法ノ下ニアル者ヲ
 贖ヒ我儕ヲシテ子タルコトヲ得シメンガ爲ナリ

二 凡テ行ノ契約ニ於テ人ノ行フベカリシガ行フヲ得ザリシ
 所ノ事ヲ行給フベキ事即チ神ノ律法ヲ全ク守給フベキ事、詩篇
 四十ノ八ニ曰我が神ヨ我ハ聖意ニシタカフ事ヲ樂ム、汝ノ法我
 心ノ衷ニアリ、以賽四十二ノ二十一ニ曰エホバ己ノ義ナルガ故

ニ大ニシテ貴キ律法ヲ賜フヲヨロコビ給ヘリ、馬太五ノ十七、十八ニ曰我律法ト預言者ヲ廢ル爲ニ來レリト意フ勿レ、我來テ之ヲ廢ルニ非ズ成就セン爲ナリ、我誠ニ汝等ニ告ン天地ノ盡ザル中ニ律法ノ一點一畫モ遂盡サズシテ廢ルコトナシ(約翰八ノ二十九、同九ノ四、五參考)

三 人類ガ己ノ罪ニ由テ犯シタル所ノ律法ノ刑罰ヲ全ク一身ニ負給フベキ、事約翰十ノ十七、十八ニ曰我が父我ヲ愛スソハ我再ビ生ヲ得ンガ爲ニ生ヲ捨ルガ爲ナリ、我ヨリ之ヲ奪フ者ナシ、我自ラ之ヲ捨ルナリ、我之ヲ捨ルノ權能アリ、又能ク之ヲ得ルノ權能アリ、我父ヨリ我此命令ヲ受タリ、後哥林五ノ二十一ニ曰神罪ヲ知ラザル者ヲ我儕ノ代ニ罪人トナセリ、是レ我儕ヲシテ彼ニ在テ神ノ義トナル事ヲ得シメンガ爲ナリ、加拉三ノ十三ニ曰キリスト已ニ我儕ノ爲ニ誼ハル、者トナリテ我儕ヲ贖ヒ律法

ノ誼ヨリ脱レシメ給ヘリ(以賽五十三章、以弗五ノ二參考)

子ナル神ハ凡テ此等ノ事ヲ行ヒ給ヘリ、約翰十七ノ四ニ曰我汝ノ榮ヲ世ニ顯ハシ汝ノ我ニ委シ所ノ行ハ我之ヲ成セリト、又此約翰第十七章中ニ子ナル神ガ其行ヲ成就シタル事ニ基テ信徒ノ爲ニ救ト榮トヲ父ヨリ要求シ給フヲ見ルベシ

第二 父ニ就テ約定セラレタル事ハ左ノ事ニ由テ顯ハル

一 父ナル神ハ子ナル神ノ爲ニ凡テ其行ニ必要ナル準備ヲ爲シ給ヘリ、以賽十一ノ二ニ曰其上ニエホバノ靈止ラン、是レ智慧聰明ノ靈、謀略才能ノ靈、知識ノ靈、エホバヲ畏ル、ノ靈ナリ(希伯十ノ五參考)

二 子ナル神ヲ世界ニ遣シ給ヘリ、約翰三ノ十七ニ曰神其子ヲ世ニ遣ハシ給ヘルハ世ノ罪ヲ定メントニ非ス、彼ニ由テ世ヲ救ハンガ爲ナリ、同四ノ三十四ニ曰イエス彼等ニ曰ケルハ我ヲ遣

ハシ、者ノ旨ニ遵ヒ其工ヲ成畢ル是レ我ガ糧ナリ、第一約翰四ノ九ニ曰神ハ其生給ヘル獨子ヲ世ニ遣ハシ我儕ヲシテ彼ニ由テ生ヲ得シム是ニ於テ神ノ愛我儕ニ顯ハレタリ(約翰十七ノ二十一、二十三、二十五參考)

三 其行ニ於テ彼ヲ扶給ヘリ、以賽四十二ノ一ヨリ六ニ曰我扶ル我僕、我心喜ブ我撰人ヲ見ヨ、我我靈ヲ彼ニ與ヘリ、彼ハ衰ヘズ與瞻セズ我エホバ公義ヲ以テ汝ヲ召シタリ、我汝ノ手ヲトリ汝ヲ護リ汝ヲ民ノ契約トナシ異邦人ノ光トナレ云々、路加二十二ノ四十三ニ曰天使天ヨリ彼ニ現ハレテ力ヲ添ヌ

四 聖子ノ爲ニ亦或約束ヲ爲給フ也、即チ(一)神タル人トナシテ之ヲ崇ムル事ヲ約束シ給フ、腓力二ノ六ヨリ十一ニ曰彼ハ神ノ體ニテ居シカモ自ラ其神ト匹ク在ル所ノ事ヲ乘難キ事ト思ハズ反テ己ヲ虛シ僕ノ貌ヲ取テ人ノ如クナレリ、既ニ人ノ如キ形

狀ニテ現ハレ己ヲ卑シ死ニ至ル迄順ヒ十字架ノ死ヲサヘ受ルニ至レリ、是故ニ神ハ甚シク彼ヲ崇メテ諸ノ名ニ超ル名ヲ之ニ予ヘ給ヘリ、此ハ天ニアル者地ニアル者及ビ地ノ下ニアル者ヲシテ悉クイエスノ名ニ由テ膝ヲ屈メシメ且諸ノ舌ヲシテ悉クイエスキリストハ主ナリト言著ハシテ父ナル神ニ榮ヲ歸セシメン爲ナリ(二)又彼ヲ中保トシテ天地萬物ノ上ニ大權ヲ與ント約束シ給フ、詩篇百十ノ一ニ曰エホバ我主ニ曰フ我汝ノ敵ヲ汝ノ承足トナスマデハ我ガ右ニ坐スベシ、約翰五ノ二十二、二十三ニ曰夫レ父ハ誰ヲモ審カズ、審判ハ凡テ子ニ委子タリ、是レ凡人ヲシテ父ヲ敬フ如ク子ヲモ敬ハシメンガ爲ナリ、子ヲ敬ハザル者ハ之ヲ遣ハシ、父ヲ敬ハズ(詩篇八十九ノ三、四、以賽五十五ノ四、路加一ノ三十三、三十四參考)(三)凡テ此恩惠ノ契約ニ由テ神ノ人民ノ爲ニ備ヘラレタルコトヲ實行スル事ヲ彼ニ委子給ヘ

リ、馬太二十八ノ十八ヨリ二十ニ曰天ノ中地ノ上ノ凡ノ權ヲ我ニ賜ハリ云々、約翰十七ノ二ニ曰是レ汝我ニ賜ヒシ所ノ者ニ永生ヲ予ンガ爲凡ノ者ヲ治ムル權威ヲ我ニ賜ヒタレバ也(約翰一ノ十二、十三、行傳二ノ三十三參考)

五 神ハ其人民ノ爲ニ或事ヲ子ニ約束シ給フ、即チ(一)大衆ヲシテ救ヲ受シメント約束シ給フ、以賽五十三ノ十一ニ曰彼己ガ靈魂ノ煩勞ヲ見テ心タラハン我義シキ僕ハ其智識ニヨリテオホクノ人ヲ義トシ又彼等ノ不義ヲ負シ、馬太八ノ十一ニ曰多ノ人々東ヨリ西ヨリ來テアブラハムイサクヤコブト借ニ天國ニ坐セン(詩篇二ノ八參考)(二)彼等ニ永生ヲ與ント約束シ給フ、詩篇八十九ノ二十九ニ曰我父其裔ヲ永遠ニ存ヘ云々、提多一ノ二ニ曰イッヘリ諛ナキ神ノ創世ノ前ニ約束シ給ヒシ永生ヲ望メリ(以賽三十五ノ十、耶利三十一ノ三十三、三十四參考)

神學博士チヤールスホツヂ及ビ其他ノ或神學者ハ救拯ノ方法ハ二ノ契約ニ由テ顯ハサレタリトス、其契約ヲ名ケテ恩惠ノ契約及贖罪ノ契約ト云フ、彼等ノ說ニ由レバ贖罪ノ契約ハ無始永遠ヨリ父ナル神ト子ナル神トノ間ニ立ラレ子ハ父ノ命ニ從ヒ且苦ヲ受ント約束シ、父ハ子ニ一種ノ人民ヲ與ヘ而シテ彼ニ由テ其人民ニ永生ト凡ノ靈福ヲ與ント約束シタリト云フ、彼等ノ所謂恩惠ノ契約ナル者ハ神ト其選民ノ間ニ立ラレタル者トシキリストトハ唯其中保及ビ保證人タルノ關係ヲ有スル耳ニシテ契約ノ對手ニハ非ストス、蓋此說ヲ取ル者ハ之ニ由テ人ノ救拯ニ關スル聖經ノ眞理ヲ一層明瞭ニスルヲ得ベシト信ズル也

然レモ我儕ハ此說ニ從フコト能ハズ何トナレバ凡テ聖經ノ教理ヲ一個ノ契約ノ下ニ和合組織スルコトヲ得ルニ之ヲ區別シテ二個ト爲スハ必要ナラズ、而シテ其必要ナキニ契約ノ數ヲ増

スハ錯雜誤謬ノ本トナレバ也
 恩恵ノ契約ノ各信徒ト立ラル、コトハ我儕モ亦之ヲ確信シテ
 貴重ノ真理トナス、然レモ其故如何トナレバキリスト我儕ノ代
 表者トナリ我儕ニ代テ此契約ヲ立給ヒタレバナリ、語ヲ更テ之
 ヲ言ヘバ此契約ハキリストニ在ル我儕ト立ラレタル者ナレバ
 也

新約ニキリストヲ名ケテ第二ノアダムト云リ、前哥林十五ノ四
 十五ト四十七ニ曰始ノ人アダムハ生命アル魂トナリ、終ノア
 ムハ生命ヲ予フル靈トナルトアル如シ……第一ノ人ハ地ヨ
 リ出テ土ニ歸キ第二ノ人ハ天ヨリ出タル主ナリト、第一ノア
 ムノ如クキリストモ亦其家族ニ代テ契約ヲ立タル也、第一ノア
 ダムト此契約アル故ヲ以テ凡テ其家族即チ萬民ハ罪ニ陥リ、第
 二ノアダムト契約アル故ヲ以テ凡テ其家族即チ凡ノ信徒ハ救

ハル、也、羅馬五ノ十九ニ曰夫レ一人ノ逆ニ由テ多ク罪人トセ
 ラレシ如ク一人ノ順ニ由テ多ク義トセラルベシ(十二節以下二
 十一節參考)

凡テ信徒タル者ハ此契約ニ由テ各々直接ニ神トノ關係ニ入ル
 コト疑ヲ容レズ、然レモ是レ唯キリストヲ經テ然ル耳、神ハイニ
 スキリストヲ經ズシテハ決シテ罪人ヲ待遇シ給ハザルナリ、約
 翰三ノ十八ニ曰彼ヲ信ズル者ハ罪ニ定メラレズ信ゼザル者ハ
 既ニ其罪定レリソハ神ノ生給ヘル獨子ノ名ヲ信ゼザルニ因ル、
 羅馬八ノ一ニ曰是故ニイエスキリストニ在ル者ハ罪セラル、
 コトナシ(詩篇五十ノ五、以賽五十五ノ三)

一身ヲキリストニ托シキリストヲ信ズル罪人ハキリストヲ經
 テ神ト契約ヲ結ビタル者ト云フコトヲ得ベシ何トナレバ聖經
 ニ信徒トキリストトノ一致ヲ夫婦ノ配偶ニ比シタレバナリ、キ

リストハ新郎ニシテ教會ハ新婦ナリ、而シテ神ノ恩惠ニ由テ罪人ハキリストニ從ヒ仕フルニ至ルナリ、キリストハ恩惠ノ契約ノ中保トシテ之ヲ救ハント約束シ給フ也、約翰十ノ十二日我が來ルハ羊ヲシテ生ヲ得且豊カナラシメン爲ナリト、罪人ハ甘心シテキリストニ從ヒ百事ヲ之ニ托シ且キリストノ意ヲ以テ己ノ意トシテ之ニ從ハント誓フ也、詩篇百十ノ三ニ曰汝ノ權能ノ日ニ汝ノ民ハ聖ナル美ハシキ衣ヲ着ケ心ヨリ喜ビテ己ヲ獻グシ、約翰一ノ十二ニ曰彼ヲ接ケ其名ヲ信ゼシ者ニハ權ヲ賜ヒテ此ヲ神ノ子トナセリ(哥羅一ノ十二ヨリ十四)

然ラバ則チ此契約ハ凡ノ信徒ノ代表者タルキリストト立ラレタル者或ハキリストニ在ル凡ノ信徒ト立ラレタル者ニシテダビデノ堅固ナル恩惠或ハ萬物ニ於テ立ラレタル永遠不易ノ契約トハ其レ之ヲ謂フ也(以賽五十五ノ三、後撒母二十三ノ五參考)

希伯六ノ十七ヨリ十九參照)

第六章 恩惠ノ契約ノ中保及保證人

第一 恩惠ノ契約ノ中保及保證人ハ即チ神ノ子キリストナリ、キリストガ恩惠ノ契約ノ中保タル事ハ其此契約ノ對手ノ一方タル事ト相反セザルナリ、盖甲乙二人ノ間ニ立ラレタル契約ハ第三ノ人ニ關係シ而テ其契約ノ要求及約束ハ其第三ノ人ニ特別ノ關係ヲ有スルコトヲ得ベク且其第三ノ人ノ利益ハ其契約ノ双方ノ對手中ノ一方ガ特別ニ眷顧スル所タルコトヲ得ベシ、此ノ如クキリストハ恩惠ノ契約ノ對手ノ一方ニシテ凡テ此契約ノ條約ヲ守ルノ責アリト雖又其中保タルナリ何トナレバ

(第一) 神人間ノ無二ノ中保即チ代求者並和睦者トシテ父ナル神ト此契約ヲ結ビタレバナリ

(第二) 中保トシテ其人民ニ代リテ凡テ此契約ノ要求スル所ヲ成セバナリ

(第三) 又中保トシテ其人民ニ契約ノ利益ヲ施セバナリ

第二 新約中ニキリストヲ指シテ中保ト稱シタル所四アリ而シテ其四ヶ所皆キリストガ人ノ爲ニ得タル所ノ利益ヲ指シテ之ヲ用井、其中三ヶ所ハ特別ニキリストガ此等ノ利益ヲ得タル其方法ヲ指セル者ナリ

其明文ノ第一ハ即チ前提摩二ノ五ナリ曰夫レ神ハ一位ナリ又神ト人トノ間ニ一位ノ中保アリ即チ人ナルイエスキリストト、是即チキリストハ神ト人トノ間ニ於テ惟一無二ノ中保タルコトヲ明言セル者ナリ、其他ノ明文ハ次ノ三所ナリ、希伯八ノ六ニ曰然レド今彼ハ愈レル約束ニ基キテ立ラレタル契約ノ中保トナル是ノ如ク彼ハ勝レタル職ヲ得タリ、同書九ノ十五ニ曰是故

ニ彼ハ新約ノ中保トナレリ是レ始ノ契約ノ時ニ犯セル罪ヲ贖フベキ死アルニ由テ召サレタル者ノ窮ナキ世嗣ノ約束ヲ得ンガ爲ナリ、同書十二ノ二十四ニ曰新約ノ中保ナルイエス及ヒ灑グ所ノ血ナリ此血ノ云フ所ハアベルノ血ノ云フ所ヨリハ最モ愈レリト此等ノ本文ニ於テ此契約ヲ新キ契約又勝レル契約ト稱ス、蓋キリストガ永遠ノ恩恵ノ契約ニ就テ提起シタル施行ノモ一セガ同契約ニ就テ提起シタル施行ノ不完全ナルニ反シテ更ニ新ニ且完全ナルコヲ表明セル者ナリ、キリストハ此永遠ノ契約ノ祭司タル中保ニシテ己ノ人民ノ罪惡ノ爲ニ己ノ身ヲ犠牲ニ供シタリトアリ、黙示十三ノ八ニモキリストヲ世ノ始ヨリ殺サレタル羔ト呼ベリ、此等ノ明文ニ由テ觀レハキリストハ即チ此契約ノ一方ノ對手ニシテ且其中保タルコト明白ナリ

第三 新約中ニキリストヲ指シテ保證人ト稱シタルハ惟一回

ナリ、希伯七ノ二十二ニ曰スノ如クイエスハ最モ善キ契約ノ保
 證人トナレリト、上ニ擧タル明文ニ於ル如ク此本文モ永遠ノ恩
 惠ノ契約ニ就テイエスノ提起シタル施行ノ同契約ニ就テモ
 セノ提起シタル施行ニ反シテ新シク且完全ナルコトヲ表明セ
 ル者ナリ、夫レ保證人トハ他人ニ代テ其當ニ成スベキ事ヲ自ラ
 必ズ成サント保證スル者ナリ、キリストヲ我儕ノ保證人ト言フ
 ハ即チ此意義ナリ、希伯來書著者ハキリストノ祭司職ヲ稱揚シ
 就中獻祭代求ヲ以テ其重ナル務トナセリ、キリストハ神ニ對シ
 テ我儕ノ保證人ニシテ我儕ガ神ニ對シテ負フト雖自ラ償還ス
 ルコト能ハザル所ノ從順ト困苦ノ負擔ヲ償還シ給フナリ、是ニ
 由テキリストハ即チ此契約ノ對手ノ一ニシテ且其保證人タル
 コト明白ナリ

我儕ハキリストハ神ニ對シテ我儕ノ保證人ナリト言ヘリ、人或

ハ問ンキリストハ我儕ニ對シテ神ノ保證人ニ非ズヤト、然リキ
 リストハ其人民ニ對シテ神ノ誠ナル保證人ナリ、即チ後哥林一
 ノ二十ニ凡テ神ノ約束ハ彼ノ中ニ是トナリ又彼ノ中ニア
 ントナリ我儕ニ由テ神ノ榮ノ顯ハル、ニ及ブトアルガ如シ、然
 レモキリストガ斯ク我儕ニ對シテ神ノ保證人トナリ給フハ其
 我儕ノ爲ニ凡ノ義ヲ成ス事ニ於テ神ニ對シテ我儕ノ保證人ト
 爲給フガ故ナルコトヲ忘ル可ラズ

第四 人或ハ問ン若シ恩惠ノ契約ハ父タル神ト子タル神ノ間
 ニ立ラレタル者ニシテ凡テ其契約ニ於テ要求セラレ、所ハ子
 之ヲ成スニアリト言ハ、人ノ信仰ハ其救ニ必要ナリト云フ所
 以何如ト、實ニ人ハ信ゼザレバ救ハル、コト能ハズ(我儕ハ小兒
 ノ事ヲ云フニ非ズ)又凡テ信ズル者ハ救ハルベシ、然ラバ則チ信
 仰ハ人ノ所爲タリ人ノ本分タリ、然レモ亦聖經ニ信仰ヲ神ノ恩

賜ト爲シ又聖靈ノ所爲ト爲セル所アリ、然ラバ則チ信仰ハ恩惠ノ契約ニ由テ我儕ニ賜ハル所ノ諸利益ノ一ナリト知ルベシ、信仰ノ救ニ必要ナル所以ハ信ズル事ニ於テ功績アル故ニ非ズ、但其所爲即チ信仰ハ我儕ヲキリストト一體ナラシメ而シテ我儕ヲ神ト契約的ノ關係ニ入ラシムレバナリ

第五 キリストノ特別ノ恩惠ハ契約ノ施行ニ於テ左ノ如ク顯ハル、ナリ、凡テキリストノ從順ト困苦ニ由テ買ハレタル恩惠ノ契約ノ利益ハ悉皆其恩賜トシテ其人民ニ施サシメン爲ニ其手ニ委託セラレタルナリ、其利益ハ唯ニキリストニ由テ買ハレタル耳ナラズキリストニ由テ其人民ニ與ヘラル、ナリ、凡テ此等ノ利益ハ我儕ニ取テハキリストノ賜ナリ、其中或者ハキリストニ對シテハ我儕ノ義務ナリ、斯クキリストハ我儕ニ就テ其與フル所ノ者ヲ要求シ然シテ後ニ我儕ノ從順ノ褒賞トシテ更ニ

多ク之ヲ與ヘ給フナリ、例セバ約翰一ノ十六ニ我儕皆彼ニ滿タル其中ヨリ受テ恩寵ニ恩寵ヲ加ヘラルトアルガ如シ、キリストハ我儕ニ信仰ヲ要求シ而シテ其靈ノ感化ニ由テ我儕ノ衷ニ信仰ヲ起サシメ又悔改ヲ要求シ而シテ其靈ニ由テ我儕ヲ新ニシ且悔改セシメ給フナリ、而シテ我儕ハ一ノ賜ヲ使用シ其褒賞トシテ他ノ賜ヲ受ケ終ニ聖靈ノ感化ニ由テ天ノ嗣業ヲ受ルニ堪ユル者ト爲サラル、也(羅馬五ノ三ヨリ五)

第六 此ノ如ク恩惠ノ契約ノ施行ヲ解スル事ハ唯ニ聖經ニ合フ耳ナラズ凡テ眞ノ信徒ノ經驗ニ符合セリ、我儕神ニ祈ル時ハ常ニ其恩化ト聖靈ノ恩賜ヲ祈リ而シテ神ヲ讚美スル時ニハ凡テ我儕ノ受ル所ノ利益ヲバ神ノ賜トシテ其榮ヲ神ニ歸スル也
第七 且我儕ハ信仰ニ由テキリストヲ執ヘ殊ニ我儕ノ爲ニ凡ノ事ヲ爲サント許諾シタル保証人ト爲スナリ

第八 キリストハ不信者ノ爲ニハ恩恵ノ中保ニ非ス、凡テ信者
 ハイエスキリストニ由テ父ト契約的ノ關係ニ入ルナリ(第五章
 ノ終ヲ見ヨ)唯彼等ノミ此契約ニ由テキリストニ接續スルナリ、
 不信者ハ此契約ニ由テ更ニキリストニ接續スルコトナシ、然レ
 正福音ハ萬民ニ宣傳セラレ救ハ凡テ信セントスル者ニ與ヘラ
 ルベキナリ、路加二十四ノ四十七ニキリストハ悔改ト罪ノ救ハ
 エルサレムヨリ始リ萬國ノ民ニ宣傳セラル、コトハ神ノ方法
 ノ一部分(即チ恩恵ノ契約ニ於テ備ヘラレタル事項)ナリト教ヘ
 給ヘリ

第七章 恩恵ノ契約ノ時期

恩恵ノ契約ハ何時ヨリ施行セラレタル乎トノ疑問ニ對シテハ
 我儕ノ答左ノ如シ

第一 此事ノ始テ聖經ニ見ハタルハ始祖墮落ノ直後ニ與ヘラ
 レタル約束ノ中ニ包有シ載セテ創世記三ノ十五ニアリ曰我汝
 ト婦ノ間及ビ汝ノ裔ト婦ノ間ニ怨恨ヲ置ン、彼ハ汝ノ頭ヲ碎キ
 汝ハ彼ノ踵ヲ碎カン

第二 キリストガ此契約ヲ施行ン給フハ天地創造ノ時ヨリ始
 マルコト聖經ニ由テ明白ナリ、例セバ約翰一ノ三ニ曰萬物彼ニ
 由テ造ラル造ラレタル者ニ一トシテ彼ニ由ラテ造ラレシハナ
 シ、前哥林八ノ六ニ曰一人ノ主即チイエスキリストアリ萬物之
 ニ由リ我儕モ之ニ由レリ、又最モ明白ナルハ哥羅一ノ十四ヨリ
 二十ナリ曰我儕其子ニ由テ贖即チ罪ノ赦ヲ得ルナリ、彼ハ人ノ
 見ルコトヲ得ザル神ノ狀ニシテ萬ノ造ラレシ物ノ先ニ生レシ
 者ナリ、ソハ彼ニ由テ萬物ハ造ラレタリ、天ニアルモノ地ニアル
 モノ人ノ見ルコトヲ得ルモノ人ノ見ルコトヲ得ザル者或ハ位

第七章

アル者或ハ主タル者或ハ政ヲ執ル者或ハ權威アル者萬物彼ニ由テ造ラレタリ、且ツノ造ラレタルハ彼ガ爲ナリ、彼ハ萬物ヨリ先ニアリ萬物彼ニ由テ存ツコトヲ得ルナリ、教會ハ彼ノ身體ニシテ彼ハ其首ナリ、彼ハ元始ニシテ凡ノ事ニ就テ長トナラン爲死ノ中ヨリ首ニ生レシ者ナリ、ソハ父凡ノ德ヲ以テ彼ニ滿シメ其十字架ノ血ニ由テ平和ヲナシ萬物即チ地上ニアル者天ニアル者ヲシテ彼ニ由テ己ト和ガシムル事ハ是レ其聖旨ニ適フ事ナレバ也、此本文ニ由テ觀レバ神ノ永遠ナル子ハ恩惠ノ契約ノ中保トシテ神ガ其凡ノ盛德ヲ滿シメ而シテ其滿タル盛德ヲ彼ニ由リ創造懺理贖罪ノ行爲ニ於テ顯ハシ給フコトハ神ノ聖旨ニ適ヘル所ナリトシテ示サル、ナリ

恩惠ノ契約ノ施行セラレ始メタル時期ニ就テハ他ノ問題トノ關係ニ由テ人々ノ意見一ナラズ、例セバ浸禮派ノ人ハアブラハ

ムト立ラレタル契約ハ唯ユダヤ國民ニ關スル契約ニシテ今日ノ教會ニハ關係ナキ者トス、然レモ是ハ畢竟小兒ニ關スル彼等ノ異說ニ原因セル者ノ如シ、彼等ハ小兒ハ自ラ事理ヲ辨シ信仰ヲ起スニ至ラザレバ教會員タル能ハズ又之ニ「バプテスマ」ヲ施ス可ラズト主張ス、然レモアブラハムト立ラレタル契約ニ於テハ小兒モ其中ニ包容セラレ且契約ノ微即チ割禮ヲ受ベキ者ナリシ事明白ナリ、故ニ彼等ノ說ニ由レバアブラハムト立ラレタル契約ヲ恩惠ノ契約トハ別種ノ契約ト做シ且恩惠ノ契約ノ施行ハキリストノ時ニ始レリトスルヲ必要トス、ロマ教徒モ亦恩惠ノ契約ノ施行ハキリストノ時ニ始レリト云フ、然レモ是レ彼等ガ聖禮典ノ異說ヲ維持センガ爲ナリ、彼等ノ說ニ由レバ新約ノ聖禮典ハ凡テ之ヲ享ル者ニ恩惠ヲ傳フト云フ、即チ「バプテスマ」ヲ受ケ主ノ聖餐ニ陪スル者ハ必ズ新生シ且救ハルト云フ、然

レモユダヤ人中ニ舊約ノ禮典ヲ受ケナガラ神ニ棄ラレタル者
 許多アリシコト明白ナルガ故ニ彼等ハ舊約ノ禮典ト新約ノ禮
 典ノ間ニ差別アル事即チ舊約ノ禮典ハ唯恩惠ヲ表スルニ止マ
 リ新約ノ禮典ハ實ニ恩惠ヲ傳フル者ナリト主張ス、ロマ教徒ノ
 説ニ由レバ新約ノ禮典設立前ニ生存セル者ハ救ハレタルニ非
 ズ滅ビタルニモ非ズ唯或處ニ遣ハサレテキリストガ十字架ニ
 釘ラレタルノチ彼等ヲ救ハン爲ニ行キ給フ迄ハ其處ニ留メラ
 レタル也ト云フ(前彼得一ノ三ト十九)
 然レモ我儕ハ古今ノ別ナク恩惠ノ契約ハ常ニ同一ナルコトヲ
 主張スル者ナリ、契約ノ中保ハ即チ常ニ同一ナリ、人ガ神ニ嘉納
 セラル、理由モ亦常ニ同一ナリ、契約ノ約束モ亦常ニ同一ナリ、
 第一 中保ハ同一ナリ 創世記三ノ十五ト希伯來書二ノ十四、
 十五ヲ參照スレバキリストト約束ノ婦ノ裔トノ同一ナルヲ知

ルベシ、創世三ノ十五ニ曰又我汝ト婦ノ間及ビ汝ノ苗裔ト婦ノ
 苗裔ノ間ニ怒恨ヲ置シ、彼ハ汝ノ頭ヲ碎キ汝ハ彼ノ踵ヲ碎カン、
 希伯二ノ十四ト十五ニ曰夫レ諸子ハ偕ニ肉ト血トヲ具フレバ
 彼モ同ク之ヲ具フ、是レ死ヲ以テ死ノ權威ヲ有ル者即チ惡魔ヲ
 滅シ且死ヲ畏レテ生涯絆ガル、者ヲ放タン爲ナリ、創世記二十
 二ノ十八ト加拉太三ノ十六トヲ參照スレバキリストト天下萬
 民ノ由テ祝福ヲ受クベキアブラハムノ裔トハ即チ同一ナルコ
 トヲ知ルベシ、創世記二十二ノ十八ニ曰又汝ノ子孫ニ由テ天下ノ
 民皆福祉ヲ得ベシ、汝我ガ言ニ遵ヒタルニ由テ也ト、加拉太三ノ
 十六ニ曰夫レ約束ハアブラハムト其裔トニ立給ヒシ者ニシテ
 多ノ人ヲ指シテ裔ト言ヘルニ非ズ唯一人ヲ指シテ汝ノ裔ト言
 ヘルナリ、是レ即チキリストナリ、又以賽四十二ノ六ニ我エホバ
 公義ヲ以テ汝ヲ召シタリ我汝ノ手ヲトリ汝ヲ護タリ汝ヲ民ノ

契約トシ異邦人ノ光トナシ、(以賽五十三ノ五ヲ見ヨ)馬拉三ノ一ニ契約ノ使ト稱シタル所ノメツシヤハ即チ新約ニ謂フ所ノ神ト人トノ間ノ中保タリ、行傳十ノ四十三ニ曰凡ノ預言者モ凡ツ其名ヲ信ズル者ハ其名ニ由テ罪ノ赦ヲ受クベシト彼ニ就テ證セリ、前提摩二ノ五ト六ニ曰夫レ神ハ一位ナリ又神ト人トノ間ニ一位ノ中保アリ即チ人ナルキリストイエスナリ彼萬人ニ代リ己ヲ棄テ贖トナセリ時至ラバ證スベシ

第二 人ガ神ニ嘉納セラレ、理由モ亦同一ナリ、約束ノ贖主ヲ信ズル事ハ常ニ救ニ必要ナリキ、哈巴二ノ四ニ曰義人ハ其信仰ニ由テ生クベシト、而シテ羅馬一ノ十七ニパウロハ此語ヲ引テ批准シタリ、アブラハムノ信仰ハ彼ノ義トセラレタリ、創世十五ノ六ニ曰アブラハムエホバヲ信シエホバ之ヲ彼ノ義トナシ給ヘリ、羅馬第四章並加拉第三章ニパウロハ信仰ニ由テ義トセラ

ル、コノ教理ヲ論ズル時ニアブラハムヲ以テ其例トナセリ、希伯來十一章ノ諸例ヲモ參考スベシ

第三 約束モ亦同一ナリ、此約束ハ贖主ニ由テ永生ヲ受ル事ナリ、始祖墮落ノ後直ニ神ハアダムニ贖罪ノ約束ヲ爲シ給ヘリ、彼ノ婦ノ裔(創世三ノ十五)トハ即チ福音ニ由テ生命ト壞ザルコトトヲ明カニシタル所ノキリストナリ、(後前提摩一ノ十)加拉三ノ八ニパウロ曰神ハ先ヅ福音ヲアブラハムニ傳ヘテ諸國ノ民ハ汝ニ由テ福ヲ獲ント云ヘリト、是レ即チアブラハムノ裔ト稱ヘラレタル者ヲ信ズルニ由テ救ハレ且永生ヲ受ルノ福音ナリ、(創世十二ノ三、加拉三ノ十二)又加拉三ノ十八ニハ神ハ約束ニ由テアブラハムニ嗣業ヲ賜ヘリトアリ、希伯十一ノ十二ニハ此嗣業トハ即チ神ノ造營メル所ノ基アル京城即チ天ノ京城ニシテ(希伯十一ノ十六ヲ見ヨ)哥羅一ノ十二ニパウロガ光ニアル聖徒ノ業ト

稱フル所ノ永生ナリ

蓋恩惠ノ契約ノ施行ハ分テ四期トナスコトヲ得ベシ

(第一) アダムヨリアブラハムニ至ル(第二) アブラハムヨリモー
セニ至ル(第三) モーセヨリキリストニ至ル(第四) キリストヨリ世
界ノ終ニ至ル

而シテ此等ノ期ニ於テキリストノ中保又贖主タルコトハ次第
ニ増ス明白ニ顯ハレタリ

(第一) 第一期ニ就テハ我儕ノ知ル所甚ダ少シ、此時ニ當テ救拯
ノ方法ハ如何程顯ハサレタルヤ又其顯ハサレタル所ノ者ハ如
何程保存セラレタルヤ之ヲ知ルニ由ナシ、蓋シ人々其理ヲ悟テ
信ズルニ足レル程ニ顯ハサレタルトハ疑ヲ容レズ、兎ニ角ニ此
時ニハ既ニ獻祭ナル者アリシガ獻祭ハ意味ナキ者ニ非ズ、信仰
ニ由テアベルハカインヨリモ優レル祭物ヲ神ニ獻ゲタリ云々

(希伯十一ノ四)

(第二) 第二期ニ至テハ既ニアブラハムノ家族ニ於テ有形ノ教
會ノ設立セラシテ而シテ最初ノ約束ノ一層確實ナル有様ニ改メ
ラレタルヲ見ル且救主ハ必ズアブラハムノ裔又其子イサクノ
裔ヨリ出ルヲ又キリストノ救ハ世界萬國ノ禍福ニ關係アルコ
ト顯ハレタリ

(第三) 第三期ハ道德律ノ著明ニセラレタル事、又來ラントスル
贖主ノ預表タル犧牲ヲ包メル禮拜式ノ設立セラレタル事、又神
ハ其人民ノ宰治者又保護者タルコトノ顯ハレタル事、又キリス
トニ就テ一層明白且充滿ナル預言ノアリタル事ニ由テ著ルシ、
モーセニ由テ立ラレタル律法並儀式中ニハ唯預表ニ屬スル所
ノ者少カラザリシガ此等ノ律法儀式モ亦恩惠ノ契約ニ由テ設
ラレタル事ヲ一層明白ニスルノ補助トナレリ

(第四) 第四期ハ凡テ前ノ時期トハ大ニ異ナレル所アリ、然レモ其差異ハ顯ハサレタル所ノ真理ニ在ルニ非ズンテ唯其顯示ノ方法ニ在ル耳、即チ更ニ新ナル契約アルニ非レバ唯墮落ノ後直ニ顯ハレ始メタル所ノ同シ恩惠ノ契約ノ愈明白且十分ニ顯ハレタル耳、罪ノ爲ニ大犠牲ノアルベキヲ即チキリストガ異日獻ゲ給フベカリシ所ノ贖罪ノ犠牲ノ事ハ先ニハ預表即チモーセノ命ジタル罪祭ニ由テ教ヘラレシガ此期ニ至テハキリストガ正シク此世ニ降り而シテ遂ニ十字架上ニ死シ給ヘル實事ヲ見ル也、凡テ前代ノ儀式ハ皆キリストノ預表ニ過ズ故ニ假設ニ屬ス、此期ニ至リテハ我解ノ禮拜ハ靈ニ屬ス、而シテ亦永遠此ノ如クナルベシ、前代ニ於テハ恩惠ノ契約ノ顯示ハ大抵一國民ニ限ラレタリ、然レモ今ハ此契約ノ中保ノ命令ニ由テ天下萬國ニ宣傳セラレ而シテ神ハ其聖靈ニ由リ失ヘル罪人ヲ救フノ道ヲ設

ルコニ於テ其慈悲恩愛ヲ増ス人類ニ顯ハシ給フ也

第八章 神子ノ成肉

(此章立論ノ體ハホツヂ氏組織神學第二卷三百七十八丁ヨリ三百九十七丁ニ由レル所アリ)

夫レ基督教ノ要旨ニシテ凡テ他ノ宗教ト異ナル所ノ者ハ即チ神ノ子ガ人ノ罪ヲ贖ハンガ爲ニ人ト成レル事ナリ、是故ニ神ノ子ニ就テ聖經ニ教フル所ハ最モ細心注意シテ之ヲ研究スベキ也、此神ノ子ハ即チ前章ニ於テ略說セル中保ニシテ我儕ガ救ハレン爲ニ必ズ我儕ト神トノ間ニ立ザルヲ得ザル所ノ者ナリ、此事タルヤ唯人間ノ道理ヲ以テ究ムベキ事ニ非ズ神ノ默示ニ由ル事ナリ

キリストニ就テ聖經ニ教フル所ノ實事左ノ如シ、第一キリスト

ハ眞ニ人タル事即チ完全ナル人性ヲ具有シタル事、第二キリス
トハ眞ニ神タル事即チ完全ナル神性ヲ具有シタル事、第三キリ
ストハ「ベルソナ」タル事はレ即チ聖經及ビ教會ノ信經ニ包容
スル所ノ神子成肉ノ教理ナリ
俗此教理ノ証據ハ三様ニ説クコトヲ得ベシ、即チ第一此教理ニ
包容スル所ノ箇條ニ就テ各々別々ニ證據ヲ立、第二聖經ニ於テ
或ハキリストヲ人ト倣シ或ハ之ヲ神ト倣シ或ハ一人ニシテ神
又人タル者ト倣ス所ノ本文ノ全體ヲ以テ證據ヲ立、第三聖經ニ
於テ此神子成肉ノ教理ヲ確言スル所ノ本文ヲ以テ證據ヲ立ツ
第一ノ證據 聖經ハキリストハ眞ニ人タリシ事即チ完全ナル
人性ヲ具有シタル事ヲ教フ、語ヲ更テ之ヲ言ヘバキリストハ實
ノ肉體アリ又道理ヲ知ル所ノ靈魂アリシコト又其眞ニ神タル事
又眞ニ人ニシテ又眞ニ神ナリト雖一ノ「ベルソナ」タル事ヲ教フ

也

一 キリストハ眞ノ肉體ヲ具有セリ、眞ノ肉體トハ即チ有形ノ
體ヲ云フ、キリストノ體ハ唯ニ外貌ニ非ズ吾人ノ身體ノ如ク血
肉ヲ以テ成立セル者ナリ、是レ其婦ヨリ生レタル事(加拉四ノ四)
處女マリヤノ胎ニ孕マレタル事(路加一ノ三十一)其身體ハ他人
ト同ク幼稚ヨリ少年ニ生長シ少年ヨリ大人ニ達シタル事(路加
二ノ四十ト五十二)又其或ハ飢渴疲勞飲食睡眠受苦死去シタル
事ニ由テ明白ナリ、聖經ハキリストノ體ハ即チ血肉ノ體タリシ
事ヲ明言ス、希伯二ノ十四ニ曰夫レ諸子ハ借ニ肉ト血トヲ具フ
レバ彼モ同ク之ヲ具フ(路加二十四ノ三十九)或ハキリストヲ婦
ノ裔(創世三ノ十五)或ハアブラハムノ裔(創世二十二ノ十八、加拉
三ノ十六)或ハダビデノ裔(馬可十二ノ三十五)或ハ憂苦ノ人(以賽
五十三ノ三)ナルキリスト(前提摩二ノ五)其他キリストヲ人ノ子

ト稱シタル例幾回ナルヲ知ラズ

二 キリストハ道理ヲ知ル所ノ靈魂ヲ具有セリ
 能ク思ヒ理ヲ辨ヘ(路加二ノ四十六、四十七)能ク喜ビ能ク憂ヘ(路
 加十ノ二十一、馬太二十六ノ三十八)其智慧ハ増シ(路加二ノ五十
 二)又審判ノ日ノ如何ニ來ル乎ヲ知ラザリキ(馬太二十四ノ三十
 六)凡テ此等ノ事ニ由テ觀レバキリストハ限アル人類ノ智識即
 チ限アル道理ヲ知ル所ノ靈魂ヲ具有シタル事明白ナリ

三 聖經ハ亦キリストノ眞ニ神タリシ事ヲ確言ス 此事ハ神
 性論百六十三丁乃至百七十四丁ニ詳論シタリ、聖經ハキリスト
 ニ神ノ名稱性徳行爲ヲ歸シ且之ヲ神トシテ敬ヒ神トシテ拜ス
 ヘキヲ教フ、又キリスト自ラモ父ト我トハ一ナリト明言シタ
 リ(約翰十ノ三十)

四 キリストハ眞ニ人ニシテ又眞ニ神ナリト雖亦惟一ノ「ベル

ソナナリ 三「ベルソナ」ノ秘義ニ於テハ三「ベルソナ」ノ間ニ各々
 彼我ノ區別アリ而シテ互ニ相對シテ語り我ト稱シ汝ト稱シ彼
 ト稱セラル、ト雖キリストニ在ル兩性相合ノ秘義ニ於テハ此
 ノ如キ區別ナク人ナルキリストガ神ナルキリストニ對シテ語
 ルト云フコナク神ナルキリストガ人ナルキリストニ對シテ又
 キリストガ自身ヲ指シテ語ル時ニモ我儕ト言給ヘルコナシ、反
 テキリストハ神トシテモ人トシテモ自身ヲ指シテ語ル時ハ惟
 一ノ「ベルソナ」トシテ我ト言ヒ汝ト云ハレ亦人ヨリハ彼ト言ハ
 レタリ、ユダヤ人キリストニ言テ曰汝ハ未ダ五十二モ及バザル
 ニアブラハムヲ見シヤイエス答テ曰我ハアブラハムノ有ラザ
 リシ先ヨリ在ル者ナリト、(約翰八ノ五十七ト五十八)又同キリス
 トヲ指シテ汝元始ニ地ノ基ヲ奠ク天モ汝ガ手ノ工ナリト言ヘ
 ルコトアリ(希伯一ノ十)

第二ノ證據 聖經ノ本文ノ文意ニ由テキリストハ神又人ナル事ヲ知ル、舊約ニ於テハキリストヲアブラハムノ裔(創世二十二ノ十八)ユダノ支派(創世四十九ノ十、希伯七ノ十四)ダビデノ家族(以賽十一ノ一、耶利二十三ノ五ト六)ベツレヘムニ於テ處女ノ胎ヨリ生ルベキ者(以賽七ノ十四、米迦五ノ二)憂苦ノ人、溫柔謙遜ニシテ我儕ノ罪ヲ負ヒ其靈魂ヲ注テ死ニ至ル者(以賽五十三章)ト説ケリ、此ノ如クキリストハ人タル者トシテ説ケリ、然レモ又同時ニ之ヲ神トシテ説ケリ、即チ神ノ子ト稱シ(但以三ノ二十五)或ハ「エンマヌエル」即チ我儕ト偕ニアル神(以賽七ノ十四)大能ナル神(以賽九ノ六)我儕ノ義タルエホバ(耶利二十三ノ六)永遠ヨリ存在スル者(米迦五ノ二)天ニ坐スル者(詩篇百三ノ十九、同百十ノ一)天使等ノ崇拜ヲ受ル者トシテ説ケリ、(詩篇九十七ノ七、希伯一ノ五ニ之ヲ引用セリ)新約ニ於テ説ク所モ亦此ノ如シ、キリスト自

ラ語ル時モ使徒等ガキリストニ就テ語ル時ニモ之ヲ人ト爲セリ即チ其ダビデノ後裔タルコトヲ證セン爲ニ其系圖ヲ掲ゲ(馬太一章、路加三章)又其誕生生涯死去ノ事モ之ヲ記セリ、キリストハ人ノ子ト稱セラレ又人タルキリストイエスト稱セラレタリ、然レモ亦キリスト自ラ神ト稱シ使徒等モ之ヲ神ト稱シタリ自ラ己ハ神ノ子ニシテ(約翰十六ノ二十八)永遠ヨリ存在スル者(約翰八ノ五十八)天地間ノ凡ノ權威ヲ有スル者(馬太二十八ノ十八)神ト均シク萬民ニ崇メラレ愛セラレ又從ハルベキ者ナリト明言シタリ、(約翰五ノ二十二、二十三、同十四ノ一)使徒等ハキリストヲ拜シ(馬太二十ノ二十、腓力二十ノ九ヨリ十一)大ナル神又救主ト稱シ(提多二ノ十三)キリストニ依頼シキリストニ對シテ責任アルヲ認ハシキリストニ由テ罪ノ赦ト潔ト永生ヲ求ムルナリ、(以弗二ノ二十、希伯十二ノ二、前彼得四ノ一、二、加拉二ノ二十、前

帖撒四ノ十三ヨリ十八)此同一ノ「ペルソナ」ヲ或ハ人トシ或ハ神トシテ説ク所以ハ唯能ク其成肉ニ由テ理會スル事ヲ得ベキ耳、蓋神子成肉ノ教ヲ拒ム者ハ此處ニ矛盾混雜ヲ發見スルノ外ナカラン、然レモ此成肉ノ眞理ヲ受ル者ハ聖經ノ光明ト和合ト能カトヲ以テ充滿スルコトヲ發見スベシ、キリストハ神又人ニシテ其兩性ヲ具有シ唯一ノ「ペルソナ」ヲ以テ永遠ニ存在スル者也、是即チ神ノ教ノ大奧義ナリ(前提摩三ノ十五)神ガ肉體トナリテ顯ハレタルコトハ聖經ノ教ノ他ノ宗教ニ大ニ異ナル所ナリトス

第三ノ證據 聖經ニ神子成肉ノ教理ヲ明言スル所アリ

一 約翰一ノ一ヨリ十四ニ曰太初ニ言アリ、言ハ神ト偕ニアリ、言ハ即チ神ナリ、此言ハ太初ニ神ト偕ニアリキ、萬物之ニ由テ造ラル、造ラレタル者ニ一トシテ之ニ由ラデ造ラレシハナシ、之ニ

生アリ、此生ハ人ノ光ナリ、光ハ暗ニ照リ暗ハ之ヲ曉ラザリキ、偕此ニ神ノ遣ハシ給ヘルヨハ子ト云ヘル者アリ、其來リシハ證ノ爲ナリ即チ光ニ就テ證ヲ爲サン爲ニ來レリ、夫レ凡人ヲ照ス眞ノ光ハ世ニ來レリ、彼世ニアリ彼ハ世ニ造ラレタルニ世之ヲ識ラス、彼己ノ國ニ來リシニ其民之ヲ接ザリキ、彼ヲ接ケ其名ヲ信ゼシ者ニハ權ヲ賜ヒテ之ヲ神ノ子ト爲セリ、斯ル人ハ血脈ニ由ルニ非ズ情慾ニ由ルニ非ズ人ノ意ニ由ルニ非ズ唯神ニ由テ生レシ也、夫レ言肉體ト成テ我儕ノ間ニ寄レリ、我儕其榮ヲ見ルニ誠ニ父ノ生給ヘル獨子ノ榮ニシテ恩寵ト眞理ニテ光リ、是ニ由テ觀レバ眞ニ神タル者永遠ノ「ロゴス」(言)天地ノ創造者ハ人ト成テ人間ニ寄リ自ラヲ神ノ永遠ナル子トシテ顯ハシタル也

二 第一約翰一ノ一ヨリ三ニ曰夫レ我儕ガ聞又目ニ見懇切ニ觀我ガ手捫リシ所ノ者即チ元始ヨリ在シ生命ト言ヲ汝等ニ傳

六十六
フ、此生命既ニ顯ハレタレバ我儕之ヲ觀テ證ヲ爲ス即チ原父ト
偕ニ在シ者ニテ我儕ニ顯ハレタル窮ナキ所ノ此生命ヲ汝等ニ
傳フ、我儕見シ所聞シ所ヲ汝等ニ傳フルハ汝等ヲ我儕ト共ナラ
シメン爲ナリ、我ハ父及ビ其子ノイエスキリストト共ナリト、是
レ即チ太初ニ在シ者神ト偕ニ在シ者永遠ニ在ス者其本質生命
ナル所ノ者世ニ顯ハレテ人ニ見ラレ聞カレ捫ラレタルヲ教
フル也、然ラバ神ニシテ見ルベカラズ永遠無窮ナル者ガ我儕ノ
性即チ實ノ肉體ト實ノ靈魂ヲ取リタルヲ明言スル也、又此書
ノ他ノ部分ニ神子成肉ノ教理ヲ以テ福音特別ノ教理ト爲セリ、
曰凡ソイエスキリストノ肉體トナリテ臨リ給ヘルコトヲ認ハ
ス靈ハ神ヨリ出ヅ之ニ由テ神ノ靈ヲ知ルベシ、凡ソイエスキリ
ストヲ認ハサマル靈ハ神ヨリ出ルニ非ズ即チキリストニ敵ス
ル者ノ靈ナリ、此者ノ將ニ來ラントスル事ハ汝等ガ聞ケル所ナ

リ今既ニ世ニ居レリ(第一約翰四ノ二、三)
三 前提摩三ノ十六ニ曰神肉體トナリテ顯ハレ靈ニ由テ義ト
セラレ天使ニ見ラレ異邦人ノ中ニ宣傳ラレ世ノ人ニ信ゼラレ
榮光ノ中ニ窈ラレ給ヘリト、此處ニ言フ所ハ即チキリストヲ指
スコト明白ナリ
四 腓立二ノ六ヨリ十一ニ曰彼ハ神ノ體^{カクチ}ニテ居シカドモ自ラ
其神ト匹シク在ル所ノ事ヲ乘難キコト思ハズ反テ己ヲ虛フシ
僕ノ貌ヲ取リテ人ノ如クナレリ、既ニ人ノ如キ形狀ニテ現ハレ
己ヲ卑クシ死ニ至ル迄從ヒ十字架ノ死ヲサヘ受ルニ至レリ、是
故ニ神ハ甚シク彼ヲ崇メテ諸ノ名ニ超ル名ヲ之ニ予ヘ給ヘリ、
此ハ天ニアル者地ニアル者及ビ地ノ下ニアル者ヲシテ悉クイ
エスノ名ニ由テ膝ヲ屈メシメ且諸ノ舌ヲシテ悉クイエスキリ
ストハ主ナリト認ハシテ父ナル神ニ榮ヲ歸セシメン爲ナリト

是ニ由テ觀ルニ此同一ノ「ベルツナ」ニ就テ(一)彼ハ神ノ形狀ニ於テ存在シタリト云ヒ(形狀トハ即チ人ノ由テ自ラヲ顯ハシ且由テ以テ其性情ノ定ル有様ヲ云フ)何人ト雖神ニ非ルヨリハ衆人ノ前ニ神ノ形狀ニ於テ存在スルコト即チ凡テ神ノ盛徳ヲ顯ハスコト能ハザル也(二)是故ニ此處ニ謂フ所ノ者ハ即チ神ト均シキ者ナリト云ヒ(三)又彼ハ他ノ人ノ如ク成リ僕トナリテ人間ニ顯ハレタリト云ヒ(四)又十字架上ニ死ヲ致ス迄從ヒタリト云ヒ(五)一切萬物ノ上ニ擧ラレテ天地ノ大權ヲ授ケラレタリト明言スル也、然ラバ則テ聖書ニ此ノ如ク説ク所ノキリストハ神性アリ又人性アリテ惟一ノ「ベルツナ」タリシコ知ルベキナリ

五 羅馬一ノ二ヨリ五ト同九ノ五參照並希伯二ノ十四參考

此キリストノ一「ベルツナ」ニ於テ神人兩性ノ相合スルコトハ各人ノ身ニ於テ靈性及ヒ肉性ノ相合スルコトニ比スルコトヲ得

ヘシ蓋人ハ靈魂肉體ノ二ヨリ成立スル者ナレバナリ

第一 此相合ノ性質

(一)是レ「ベルツナ」ノ相合ナリ、靈魂肉體ヲ離レバ即チ人ニ非ズ、肉體靈魂ヲ離レバ亦人ニ非ズ、靈魂肉體相合シテ而シテ始テ一個ノ「ベルツナ」ヲ作スナリ、(二)此相合ニ於テ肉體靈魂交雜スルニ非ズ混合スルニ非ズ又其性質相變遷スルニモ非ズ(三)此相合ハ人が家ニ住居シ身ニ衣服ヲ着スルガ如ク靈魂ガ肉體中ニ寓居スルニ非ズ但肉體モ人ノ一部分靈魂モ亦人ノ一部分ニシテ二者相合シテ而シテ後始テ完全ノ人ヲ作スナリ

第二 此相合ノ結果

(一)此「ベルツナ」ハ靈魂及ビ肉體ノ凡ノ性質ヲ具有ス、人ヲ指シテ或ハ身長シト云ヒ身短シト云ヒ或ハ疾病アリト云ヒ健康ナリト云フヲ得ベク或ハ又彼人ハ智者ナリ仁者ナリ學者ナリト

云フコトヲ得ベシ、固ヨリ肉體ニ就テ眞ニシテ靈魂ニ就テ眞ナ
ラザルコトアリ、又靈魂ニ就テ眞ニシテ肉體ニ就テ眞ナラザル
コトアラシ、例ヘバ人其身ニ傷ヲ受ルカ若クハ燒傷ヲ受ルトモ
其靈魂ハ更ニ害ヲ蒙ラザルコトアラシ、又靈魂ニ就テハ或ハ其
罪ヲ悔イタリト云ヒ信シタリト云ヒ喜ブト云ヒ愛ルト云フコ
トヲ得ベシト雖肉體ニ就テハ此ノ如ク云フコト能ハザルベシ、
然レモ人即チ其「ベルソナ」ニ就テハ凡テ此等ノ事ヲ云フナリ(二)
是故ニ皮想スレバ矛盾スル如キコトモ同一ノ人ニ就テ能ク云
フベキ事アリ、譬ヘバ人ハ死スル者ナリト云ヒ又永遠不滅ナル
者ナリト云フコトヲ得ベシ、人ハ靈ナリト云フコトヲ得ベシ、然
レモ亦人ハ飢渴スト云フ、人ニハ有形ノ性質アリ、然レモ亦新タ
ニ生ルト云フコトヲ得ベシ(三)肉體及ビ靈魂ノ活動ハ皆其人ノ
活動ナリ、夫レ人ノ活動中ニハ單ニ靈魂ノ所爲ニ屬スル者アリ

例ヘバ思想悔改信仰ノ如シ、或ハ單ニ肉體ノ所爲ニ屬スル者ア
リ、例ヘバ食物ノ消化血液ノ循環ノ如シ、或ハ亦肉體及ビ靈魂ノ
協力ニ屬スル者アリ、例ヘバ歩行發言ノ如シ、凡テ此等ノ活動ハ
肉體靈魂相和シテ爲ス所ニシテ我儕ハ正當ニ人ハ能ク思ヒ能
ク消化シ能ク言フト云フコトヲ得ルナリ(四)此相合ノ今一ノ結
果ヘ即チ之ニ由テ肉體ノ品位ノ貴クナルコトナリ、蓋人ノ肉體
ノ禽獸ノ肉體ノ上ニ位スル所以ノ者ハ即チ人ノ肉體ヘ知理不
滅ノ靈魂ト相合シ居ルガ故ナリ、禽族ノ美羽モ麋鹿ノ麗ハシキ
容貌モ人類ノ直立シタル形狀ト心靈ノ美妙ニ比スレバ論ズル
ニ足ラザル也

我儕之ヲ以テキリストノ「ベルソナ」ニ於テ神人兩性相合ノ完全
ナル譬喩トナスニ非ズ、但之ヲ理會スルノ一助トナス耳、蓋人ニ
於ケル肉體靈魂相合ノ不思議ナルコトハキリストノ「ベルソナ」ニ

於ケル神人兩性ノ相合ト異ナルコトナシ
我儕ハ是ヨリキリストニ於ル兩性ノ相合ヲ今一層詳説セシ、此
相合ノ實ナルコトハ既ニ聖經ノ教ニ由テ證明シタレバ之ヨリ
ハ唯此相合ノ性質及ビ結果ヲ論ゼン

第一 此相合ノ性質

一 此相合ハ「ベルツナ」ノ相合ナリ、夫レ神ノ子ハ神人間ノ中保
トシテ人トナリタレ、此之ニ因テ神ノ子タルノ性ヲ失ヒタルニ
非ズ、然レ中保ハ神タルキリストノミニ非ズ、又人タルキリス
トノミニ非ズ、但神タルキリストト人タルキリストトガ「ベル
ツナ」ニ於テ相合シタルナリ、空氣ニ於テハ酸素ト炭素ト相合ス
之ヲ機械的ノ相合ト云フ、水ニ於テ酸素ト水素相合ス之ヲ化學
的ノ相合ト云フ、心臟ト腦髓ノ相合スル之ヲ機械的ノ相合ト云
フ、即チ共ニ一機關ノ部分タルノ義ナリ、然レ此キリストニ於ル

神人兩性ノ相合ハ此等ノ相合ヨリモ更ニ不思議ナル者ナリ、是
レ即チ「ベルツナ」ノ相合ナリ、固ヨリ此相合ハ我儕ノ全ク理會シ
能ハザル所ナリト雖人ニ於ル肉體及ビ靈魂ノ相合ヨリモ不思
議ナル者ニ非ズ、實ニ上ニ舉ゲタル他ノ相合ト雖我儕ハ之ヲ全
ク理會スルコト能ハザルナリ、夫レ神ノ子ハ肉體ト成テ降生ス
ル前ヨリ既ニ殊別ノ「ベルツナ」タリシナリ、故ニ其人ト成レル時
ニハ神タル一ノ「ベルツナ」ヲ人タル他ノ「ベルツナ」ト相合シタル
ニ非ルコトヲ記憶スベシ、其人ト成レル時ハ處女マリヤヨリ生
レ人タル「ベルツナ」ヲ身ニ合セタルニ非ズ人タル性ヲ合セタル
耳、此相合ニ由テキリストハ尙惟一ノ「ベルツナ」タリシナリ、苟モ
殊別ノ「ベルツナ」アレバ殊別ノ理性ト殊別ノ意志アルコト必要
ナル耳ナラズ殊別ノ存在ナカル可ラザル也、然レ此キリストノ
人性ハ決シテ此ノ如キ殊別ノ存在アリタルニ非ズ何トナレバ

キリストノ人性ハ神タルキリストニ合スル迄ハ更ニ存在セザリシ者ナレバ也

二 此相合ニ於テ神人兩性ハ混合錯雜セズ、若シ然アリタランニハキリストハ神ニモ非ズ人ニモ非ズ但一種異様ノ存在者タリシナラン、神ハ無限ノ智慧意志アリ、人ハ有限ノ智慧意志アリ、故ニキリストハ成肉ノ後ハ神ノ智慧アリ、人ノ智慧アリ、神ノ意志アリ、人ノ意志アリ、其神ノ智慧ハ限ナク其人ノ智慧ハ其齡ト共ニ成長シタリ、其神ノ意志ハ能ハザル所ナク其人ノ意志ハ唯人ノ能力ナリキ

三 此相合ニ於テ其兩性相變遷セズ、キリストノ神性ハ其人性ノ上ニ附與セラレタルニ非ズ、又其人性變ジテ神性ト成タルニモ非ズ、若シ其人性ニ無限ノ性徳ヲ附與セラレタランニハ其人性ハ最早人性ニハ非ルベシ、若シ其神性有限ノ者ト成タランニ

ハ其神性ハ最早神性ニハ非ルベシ、聖經ハキリスト肉體トナリタル後ニ其神性人性共ニ各完全ニシテ且殊別ナリシコトヲ教フルナリ

四 或ハ神ノ子ハ自ラ人性ヲ被タリト云ヒ或ハ其人性ハ即チ其神タル「ベルツナ」ノ寓居セル殿ナリト云フコトアリ、是レ好キ譬喩ナリト雖此等ノ語ハ其真理ノ全體ヲ表明セル者ニ非ズ何トナレバ人ト其衣服並ニ神ト其殿トノ間ニハ我儕ノ中保ニ於ル神人兩性間ニ存スル如キ相合ハ存セザレバ也、又キリストノ靈ハ信徒ノ中ニ寓居スト云フコトアリ、實ニ信徒ハキリストト相合スル者ナリト云フベキノ義アリ、然レ此相合モ未ダ我儕ヲキリストト「ベルツナ」タラシムル相合ニハ非ル也

第二 此相合ノ結果

一 惟一ノ「ベルツナ」ニシテ兩性ニ屬スル凡ノ品質ヲ具有スル

事、我儕ハ其一性ガ他性ノ品質ヲ共享スト云フニ非ズ、唯兩性ノ品質惟一ノ「ベルソナ」ニ屬シ其「ベルソナ」ニ於テハ兩性相合スルガ故ニ其兩性ノ一ニ就テ云フベキ事ハ全「ベルソナ」ニ就テ云フコトヲ得ベシト云フ耳、人ノ靈魂ニ就テ真ナル所ノ事ト其肉體ニ就テ真ナル所ノ事ハ總テ其人ニ就テ云フコトヲ得ベキガ如ク其神性ニ就テ真ナル所ノ事又人性ニ就テ真ナル所ノ事ハ總テ肉體ト成レル神ノ子ニ就テ云フコトヲ得ベキ也、譬へバ人ニ就テ彼ハ壞果ツベキ者ト云フコトヲ得ベク又壞果ツベカラザル者ナリト云フコトヲ得ベキガ如クキリストニ就テ彼ハ有限ナル者ナリト云ヒ又無限ナル者ナリトモ云フコトヲ得ベク又彼ハ知ラザル所アリトモ知ラザル所ナシトモ云ヒ又ハ榮光ノ主トモ憂苦ノ人トモ稱スルコトヲ得ベシ、我儕若シ此事ヲ記臆セバ聖經ノ本文ヲ了解スル所少カラザルベシ、而シテ其本文ニハ數

種アリ(第一)其謂フ所キリストノ全「ベルソナ」ニ就テ真ナル者アリ譬へバ彼ヲ贖者、主、王、預言者祭司ト稱スル時ノ如シ、此等ノ名稱ヲキリストニ適用シタルハ唯神トシテ適用シタルニ非ズ、又唯人トシテ然セルニモ非ズ、但「ベルソナ」ニシテ神人兩性ヲ兼有スル中保トシテ斯クハ稱シタル也、或ハ又キリストハ自ラ卑謙シタリト云ヒ(腓立二ノ八)我儕ニ代テ己ヲ捨テタリト云ヒ(前提摩二ノ六)彼ハ教會ノ首ナリト云ヒ(以弗一ノ二十二)又彼ハ凡ノ政ト權威ノ上ニ置レタリト云ヒ(以弗一ノ二十一)神ノ右ニ坐スト云ヒ(羅馬八ノ三十四)世ヲ審判セン爲ニ再ビ來ラントスト(後提摩四ノ一)云フガ如シ、凡テ此等ノ本文ニ謂フ所ハ神タリ且人タル中保ヲ指セル者ナリ(第二)其謂フ所唯キリストノ神性ニ就テ真ナル所アリ譬へバ我ハアブラハムノ在ラザリシ先ヨリ在ル者ナリト云ヒ(約翰八ノ五十八)世ノ始ノ先ヨリ汝ト偕ニ有

シ所ノ榮(約翰十七ノ五)ト云フガ如シ(第三)其謂フ所唯キリストノ人性ニ就テ眞ナル所アリ譬ヘバ我渴ク(約翰十九ノ二十八)我心痛ク愛テ死ルバカリ也(馬可十四ノ三十四)榮ノ主ヲ十字架ニ釘ザリシナラン(前哥林二ノ八)其日其時ヲ知ル者ハ惟我父耳ナリ天ニアル使者モ子モ誰モ知ル者ナシ(馬可十三ノ三十二)ト云フガ如シ

二 此相合ノ第二ノ結果ハキリストノ人性ノ活動モ其神性ノ活動モ凡テ惟一ノ「ベルツナ」ノ活動タル事是也、人ニ就テ論シタル時既ニ述タルガ如ク(六十三、四丁)其活動ノ或者ハ靈魂ニ屬シ譬ヘバ思想悔改信仰等ノ如シ或者ハ其肉體ニ屬シ譬ヘバ食物ノ消化血液ノ循環等ノ如シ或者ハ肉體靈魂ノ二ニ屬ス譬ヘバ歩行發言ノ如シ、然レモ凡テ此等ノ活動ハ適當ニ其人ノ活動ト云フベキ也、キリストノ活動ニ於ルモ亦此ノ如シ、或ハ惟其神性

ニ屬スル者アリ譬ヘバ天地創造保存ノ如シ、或ハ惟其人性ニ屬スル者アリ譬ヘバ飲食睡眠ノ如シ、或ハ亦其神人兩性ニ屬スル者アリ譬ヘバ贖罪ノ行ノ如シ、然レモ凡テ此等ノ活動ハ惟一ノ「ベルツナ」タルキリストノ活動ナリトス、天地ヲ創造シタルハ即チキリストナリ、飲食睡眠シタルモ亦キリストナリ、黑暗ノ能力ヨリ我儕ヲ救フモ亦キリストナリ、其名稱ヲ屢々交換シテ相用井或ハ榮光ノ主ガ十字架ニ釘ラレタリト云ヒ或ハ人ノ子ハ罪ヲ赦スノ權アリト云フハ即チ此故ナリ

三 此相合ノ第三ノ結果ハキリストノ人性ノ貴クナリタル事ナリ、夫レ人ノ肉體ハ知理不滅ノ靈魂ト相合スルガ故ニ遙ニ禽獸ノ上ニ位スルナリ、此ノ如クキリストノ人性モ其神性ト相合シタルガ故ニ其威光、品位、權力ニ於テ凡ノ智慧アル受造物ノ上ニ位スルコト無限ノ者トナレル也(腓立二ノ六ヨリ十一)

要スルニキリストノ贖罪ニ於テ無限ノ功德アリ且キリスト一
 次萬民ノ救ノ爲ニ其身ヲ犠牲トナシテ二次之ヲ獻ズルヲ要セ
 ザル所以ハ即チ其一身ニ此兩性ヲ合セタルガ故ナリ、キリスト
 ノ救ヲシテ恰カモ罪人ノ要スル所ノ救ヲシムル者ハ即チ此
 故ナリ、キリストハ能ク我儕ノ弱キヲ體恤シ且能ク救ヒ能ク守
 リ能ク潔ムル者ナリ、(希伯四ノ十四ヨリ十六、同十ノ一ヨリ十四)
 キリスト若シ唯神タラバ死スルコト能ハザルベシ、若シ唯人タ
 ラバ其死ニ由テ人ヲ救フコト能ハザルベシ、キリスト若シ人タ
 ラズバ福音ハ架空ノ寓言ニ過ザルベシ若シ神タラズバ之ヲ拜
 スルハ偶像ヲ拜スルナリ、然レモキリストヲ拜セザルハ神ヲ崇
 バザルヲナリトアリ(約翰五ノ廿三參考)
 キリストハ萬物ノ上ニ在テ世々讚美ヲ得ベキ神也トシ(羅馬九
 ノ五)又人タルキリストイエストシ肉體トナリテ顯ハレタル神

トナシ(前提摩三ノ十六)又「インマヌエル」即チ我儕ト偕ナル神ト
 稱シタリ(馬太一ノ二十三)此教理ノ緊要ナル事ハ第一約翰四ノ
 二ト三ニ由テ明白ナリ曰凡ソキリストノ肉體トナリテ來リ給
 ヘルヲ認ハス靈ハ神ヨリ出ヅ、之ニ由テ神ノ靈ヲ知ルベシ、凡
 ソイエスキリストヲ認ハサミル靈ハ神ヨリ出ルニ非ズ、即チキ
 リストニ敵スル者ノ靈ナリト

謬見

蓋此教理ニ三ノ要點アリ、即チキリストノ神性ト其人性及ビ此
 兩性ノ一「ベルツナ」ニ於テ相合スル事是ナリ、我儕ヲ以テ見レバ
 聖經ノ教ハ明白ニシテ疑ナシト雖此三點ニ就テハ古來謬見ヲ
 懷キタル者少カラズ、或ハキリストニ完全ナル神性アルコトヲ
 拒ミ或ハ完全ナル人性アルコトヲ拒ミ或ハ此兩性ノ相合ニ就
 テ誤謬ニ陷リタル者アリ、今此等ノ誤謬ヲ考究セバ我儕ガ聖經

ノ教ヲ護リ且其教理ヲ一層完全ニ了解スルニ益アルベシ
 第一 キリストニ完全ノ神性アルヲ拒ミタル者
 初代ニ於テエピオン派ナザレ派アリアン派セミアリアン派ア
 リ
 エピオン派ハユダヤ信徒中ニ起レル一派ニシテキリストハ即
 チ約束ノメツンヤタルコトヲ承諾シタリト雖唯人ナリト信シ
 タリ而シテ其他人ト異ナル所以ハ唯其聖善ナルト非凡ノ能力
 ヲ具有スルニ在リトナセリ
 ナザレ派モ亦ユダヤ人ノ一派ナリシガ唯其エピオン派ト異ナ
 ル所ハキリストノ奇跡ニ由テ孕レタル事又其故ニキリストハ
 萬人ノ上ニ位スル者トナセル事也
 アリアン派ハ神ノ子ハ凡ノ受造物中ノ至尊ナル者ニシテ萬物
 ニ先テ造ラレタル者ナリトス、神ハ之ニ由テ凡テ他ノ物ヲ造リ

タリ、キリストノ神タル所以ハ即チ此處ニアリト云ヘリ且彼等
 ハキリストノ「ペルソナ」ニ超性的ノ元素アルコトヲ認メタレ
 父タル神トハ其本質ヲ異ニスル者ナリト信シタリ
 セミアリアン派ハ神ノ子ハ受造物ニ非ズト信シタレト父ナル
 神ト同意義ヲ以テ之ヲ神ト稱スルコトヲ拒ミタリ彼等ノ説ニ
 由レバキリストノ本質ハ父ナル神ノ本質ニ類似スト雖同一ナ
 ル者ニ非ズトス
 教法改革ノ時ニ當テツシナスト云フ人アリ、一派ヲ立テキリス
 トハ唯ノ人ニシテ處女マリヤヨリ生ル、迄ハ存在ナキ者ナリ
 ト唱ヘタリ、而シテ其他人ト異ナル所以ハ其異能ニ由テ孕マレ
 タル事又其完全無惡ナリシ事又バプテスマノ時ニ神ノ能力ヲ
 受ケタルニアリト爲セリ且彼等ノ説ニ由レバキリストハバプ
 テスマヲ受ル前ニ天ニ擧ラレテ神ヲ見神ヨリ直接ニ教ヲ受ケ

タルヲアリ而シテ其復活ノ後ニ至テ天地間ノ權能ハ悉ク彼ニ授ケラレタリ、是故ニキリストハ眞ニ神ト稱シテ拜スベキ者ナリトセリ、當今ノソシニアン派即チユニテリアンニハ一定ノ信條ナク各自ノ所説大ニ相徑庭セリ、或ハソシナスト殆ド同意見ヲ抱キ或ハキリストニ就テ超性的ノ事ハ更ニ信ゼザル者アリ、近時又一種ノ神學者アリ、此世ニ於テ神ノ存在スル形狀ハ即チ人ノ形狀ニアリ即チ人ハ神ノ發現ノ至上ナル者也ト唱フ、其説ニ曰アダムハ未ダ完全ナル者ニ非リキ然レモキリストハ完全ナル者ナリ何トナレバ神ト云フ意識ハキリストニ於テ始テ完全ニ開發シタレバ也、是故ニキリストハ亦神ナリト、此説ノ首唱者ハシラエルマケルニシテ其教理ハ凡神説ニ基ケル者ナリ

第二 キリストニ完全ノ人性アル事ヲ拒ミタル者

ノスチツク派ノ説ニ曰夫レ惡ノ原因ハ物質ニアリ、是故ニ人ノ

救拯ハ其靈魂ヲシテ全ク肉體ノ權ヲ脱セシムルニアリ、然リ而シテキリストハ靈ノ發現中ノ至上ナル者ニシテ此救拯ヲ成就センガ爲ニ此世ニ降リタル者ナリト、此派中ニハイエスキリストヲ區別シイエスヲ唯人トシキリストヲ以テイエスノバプテスマノ時ニ其上ニ降り而シテ常ニ之ヲ導キ護リ且奇跡ヲ行ハシメタル所ノ神靈或ハ神能トナス者アリ

ドシテ派ハノスチツク派ノ一種ニシテキリストノ人體ハ唯幻像ナリト説ケリ

アポリナリスノ徒ハ人ノ靈(スピリット)ト魂(ソウル)トヲ區別シ而シテキリストノ肉體ト魂トハ眞ニ人ノ肉體ト魂ナレモ其靈ハ即チ神ニシテキリストニ於テハ神性が知理的ノ靈ノ代トナリタル也ト云ヘリ

第十八世紀ニ於テス井デンボルグハ神ハ三「ベルソナ」ニ於テ存

在スル者ニ非ズト説キ神ハ惟一ノ「ペルツナ」ニシテ其「ペルツナ」ハ即チキリストタルコト又神ハ常ニ人ノ形體ヲ具有シタルコト形體ニ物質體ト靈氣體ノ二種アルコトキリストノ肉體ト成リタルハ即チ自ラ物質體ヲ取レル者ニシテ其物質體ガ生長受苦死去シタルコトヲ主張シタリ吾人ノ死スル時ハ吾形體ハ土中ニ葬ラレテ永遠其處ニアリ然レモキリストノ形體ハ漸々變化シテ遂ニ其物質的ノ性ヲ失ヒ全ク靈氣不窮ノ形體トナレリト教ヘタリ

第三 神人兩性ノ相合ニ就テ誤見ヲ抱キタル者

初代教會ニ於テネストリアス派ノ徒ハキリストニ於テハ二個ノ完全ナル性アルコトヲ信シタル耳ナラズ之ヲ主張シテ遂ニキリストニハ二個ノ「ペルツナ」アルコトヲ唱ルニ至レリ彼等ノ説ニ據レバキリストニ在テ神人兩性ノ相合スルコトハ猶信徒ノ衷ニ

聖靈ノ寓居スルガ如シトセリ

ユウテケス其他子ストリアス派ノ説ニ反對セル事ハキリストノ「ペルツナ」ノ惟一ナルコトヲ主張スルニ熱心ナルノ餘遂ニ誤テキリストノ肉體トナレル時ニ其人性ハ變化シテ神性トナレリ故ニキリストニ於テハ惟一性アル耳ト唱ヘタリ

教法改革ノ後ルウテル派ノ者ハ聖晚餐ノパン酒中ニキリストノ人性現在ストノ異説ヲ維持センガ爲ニキリストノ人性ハ其肉體ト成レル時崇メラレテ其神性ト齊キ者トナリ而シテ神性ト齊シク無所不在無所不能ニシテ生命ヲ與フルノ能ヲ有セリト云ヘリ

又近時「ケノシス」説ト稱スル者アリ「ケノシス」トハ腓立二ノ七ニ用キタルギリシヤ語ニシテ虚フスルノ義ナリ其本文ニ曰己ヲ虚フン云々此説ニ由レバ神ノ子ハ自ラ己ノ意識ト凡テ神タル

性徳ヲ棄テ人トナレリ、但罪惡ナク特別ノ恩寵ヲ受ケ神ノ靈ヲ以テ充滿シタリ而シテ其遂ニ死ヨリ甦リ天ニ昇リ榮メラレタル時ニ復ビ神ノ子トシテ己ノ意識ト神タル性徳ヲ受ケルナリト云フ

凡テ此等ノ説ニ就テ今ハ只左ノ一言ヲ陳テ以テ足レリトセシ即チ凡テ此事ニ關シテ聖經ノ教ニ悖ル所ノ説ハ誤謬ナリ、又凡テ神タル性徳ノ完全不變ナル事ヲ識認セズ或ハ兩性ヲ混雜スル所ノ説ハ誤謬ナリト云ハン耳、蓋此教理ハウエストミンステル信經第八章二節ニ最モ明白ニ叙述シタリ曰三「ペルソナ」ノ第二「ペルソナ」タル神ノ子ハ眞實且永遠ナル神ニシテ父ナル神ト同質同等タリ、時ノ滿タル時ニ自ラ人性ト凡テ之ニ必要ナル性質ト之ニ屬スル軟弱トヲ取リタレモ罪惡ナク聖靈ノ能ニ由リ處女マリヤノ胎内ニ於テ其質ヲ以テ孕マレ給ヘリ、是故ニ二ノ

第九章

キリストハ惟一ノ中保ナリ

完全殊別ナル性質即チ神タル性ト人タル性ト一ノ「ペルソナ」ニ於テ結合シテ分離スベカラズ、然レモ亦相變シ相雜ヘ相混ズルコトナシ即チ此「ペルソナ」ハ眞ノ神又眞ノ人ナレモ一人ノキリストニシテ神ト人トノ間ノ惟一ノ中保ナリ

我儕ハ是迄キリストハ眞ニ神タル事又眞ニ人タル事及ビ其神人兩性ハ一ノ「ペルソナ」ニ於テ相合シタル事ヲ講究シタルガ蓋此三者相備ハリテ始テキリストハ中保ノ任ニ耐ヘタルナリ

第一キリストハ人タルコト必要ナリ、蓋其成就セン爲ニ來レル働ノ性質之ヲ要スルナリ、其働タルヤ惟甲乙相和セザル人間ニ立テ調停スル如キ類ノ者ニ非ズ、此ノ如キ者ハ惟其間ニ立テ中裁シ双方ヲシテ各其要求スル所ノ幾分ヲ變更セシメテ遂

ニ相和睦セシムル耳、然レモ人類ト神トノ間ニ於テハ此ノ如キ和睦アルベカラズ何トナレバ神ハ毫モ其要求ヲ變更スルコト能ハザレバ也、神ハ太初ヨリ至正至眞ニシテ其約束シタル所ハ必ズ之ヲ成就シ威嚇シタル所ハ必ズ之ヲ行フナリ、人ハ己ノ罪ト祖先ヨリ受繼タル惡性ニ由テ神罰ヲ受クベキ者トナリ且神ノ律ヲ法全ク守ルコト能ハザリシニ由テ完全ナル從順ノ報賞トシテ約束セラレタル生命ヲ失ヒタリ、是故ニ誰カ神ノ聖旨ニ適ヘル者アリテ人ニ代リテ凡テ神ガ罪ニ對シテ加ヘント明言シタル所ノ罰ヲ負ヒ且人ガ守ラザリシ所ノ律法ヲ全ク守ルニ非レバ神ト人トノ間ニ和睦アルベカラザル也、聖經ノ教ニ由レバ神ノ公義ト眞理ノ要求ニ應ズルノ道ハ此外ニアラザルナリ、是故ニ恩恵ニ富ル神ハ世人ヲ愛シ給フノ深キ遂ニ己ノ子ヲ世ニ降シテ人トナシ人ニ代テ其律法ヲ守リ罪ノ罰ヲ負ハシメ而

シテ凡テ彼ヲ信ズル者ハ滅ルコナクシテ限ナキ生命ヲ得セシメント定メ給ヘリ(約翰三ノ十六)使徒パウロテモテニ書ヲ贈テ曰夫レ神ハ一位ナリ又神ト人トノ間ニ一位ノ中保アリ即チ人ナルキリストイエスナリト(前提摩二ノ五)又アダムガ我儕ノ代表者トシテ行ヒタル事ノ結果トキリストガ我儕ノ代表者トシテ行ヒタル事ノ結果トヲ相對シテキリストノ行爲ヲ羅馬五ノ十七ヨリ十九ニ明言シテ曰若シ一人罪ヲ犯シ、ニ由リ死此一人ニ由テ王タランニハ況テ溢ル、ノ恩ト義ノ賜ヲ受ル者ハ一人ノイエスキリストニ由リ生ニ在テ王タラザランヤ、是故ニ一ノ罪ヨリ罪セラル、コノ凡ノ人ニ及シ如ク一ノ義ヨリ義トセラレ生ヲ獲ルコトモ凡ノ人ニ及ベリ、夫レ一人ノ逆ニ由テ多ク罪人トセラレシ如ク一人ノ順ニ由テ多ク義トセラルベシト人若シ昔時神ノ人民ハ其命ニ遵ヒ牛羊ヲ犧牲ニ獻テ救レシニ

非ズヤト言ハ、我儕答テ曰此等ノ犠牲ハ人ヲ救フコト能ハザ
 ヲ也何トナレバ希伯來書著者明言シテ曰(希伯十ノ四)是レ牛
 ト羊ノ血ハ罪ヲ除クコト能ハザルニ因ルト但犠牲ナル者ハ恒
 ニ人民ニ血ヲ流スコト行ラザレバ赦サル、コトナシトノ真理
 ヲ記臆センメタル耳(希伯九ノ十四)即チ犠牲ハ神ノ公義ノ要求
 ハ未ダ休ムコトナク又變更スルコトナク人ノ生命ハ失ヘル者又
 上人ノ罪ナキ者ノ生命ヲ以テ罪人ノ失ヘル生命ノ代ニ獻ルノ
 必要ヲ記臆センメタル耳、犠牲ハ來ラントスルキリストヲ人ニ
 指示シタリ、キリストハ此實ノ犠牲ニレテ其他ハ凡テ預表ニ過
 ズ故ニ希伯來二ノ十四乃至十七ニハキリストガ天使ノ形狀ヲ
 取ラズシテ人ノ形狀ヲ取タル所以ハ人ノ罪ヲ贖ハンガ爲ナリ
 トアリ又パウロハ前哥林五ノ七ニキリストヲ指シテ我儕ノ爲
 ニ獻ケラレタル逾越ト云ヘリ、蓋方今聖經ノ明白ナル教即チキ

リストハ人ノ罪ヲ贖ハン爲ニ人トナレリト云フコトヲ記臆スル
 コト必要ナリ何トナレバ有名ノ學士中ニモ此教ニ悖リテ神子
 キリストガ人トナリタルハ神ト云フ意識ノ完全ナル開發アラ
 シメンガ爲ナリト説ク者アレバ也(第八章ノ終ヲ見ヨ)

第二 キリストハ人トシテ無罪無惡タルコト必要ナリ、若シ然
 ラザレバキリストノ生命ハ他人ノ生命ト同ク己ノ罪惡ニ由テ
 失ハルベク且自ラ永遠ノ義アルニ非レバ他人ニ永遠ノ義ヲ與
 フル者ト爲ル能ハザルベケレバ也、故ニキリストハ無罪無惡ナ
 ル者ナリトアリ、希伯來七ノ二十六ニ曰此ノ如キ祭司ノ長ハ我
 儕ニ當レル者ナリ、彼ハ潔クシテ惡キ事ナク垢レナクシテ罪人
 ニ遠レリ云々、前彼得二ノ二十二ニ曰彼罪ヲ犯サズ又其口ニ詭
 譎ナカリキ云々、夫レキリストハ眞ノ人性ヲ取ラン爲ニ處女マ
 リヤヨリ生レタル罪惡アル性情ノ垢ナカラシ爲ニ尋常ノ生

産法ニ由ラズ聖靈ノ大能ニ由テ生レ給ヘル也
 此處ニ一ノ注意ヲ加フベキ事アリ即チキリストノ無惡ナル性
 ハ垢ヲ受ガタカリシト是ナリ何トナレバ其人性ハ一ノ「ペルソ
 ナ」ニ於テ神性ト相合シタレバ也、或人ハキリストハ試惑ニ陥リ
 而シテ罪ヲ犯スコトヲ得シト説タリ、忠信ナルキリスト信徒中
 ニモ此説ヲ信シ且教ヘタル者少カラズ何トナレバ彼等ハ若シ
 試惑ニ陥ルコト能ハザレバ其試惑ハ實ノ試惑ニ非ルベシト思
 惟シタレバ也、然レモキリストノ人性其神性ト分離スルニ非レ
 バ決シテ此ノ如キ事アラントハ想像シ難シ而シテキリストノ
 人性ハ曾テ其神性ト分離シタルヲアラザル也、其人性ハ眞實ニ
 シテ完全ナルガ故ニキリストハ試惑ノ勢力ヲ感ズルコトヲ得
 タルナリ、キリストハ決シテ試惑ニ陥ルコト能ハズト雖其試惑
 ト争ヒタルコトハ眞實ニシテ又甚ダ烈シカリシ也、キリスト自

ラ曰(約翰十四ノ三十)此世ノ主來ル故ナリ彼我ニ與ルヲナシ(ハ
 イデルベルグ問答十六條ヲ見ヨ)

第三 其神タルコト必要ナリ

一 神ヲ人ニ顯ハサン爲ニ必要ナリ何トナレバ曰子及ビ其子
 ノ顯ハス所ノ者ノ外ニ父ヲ識ル者ナシ(馬太十一ノ二十七)

二 其神タル能力ニ由テ人性ニ在テ神ノ義罰ノ重荷ヲ負ヒ且
 我儕ノ爲ニ永遠ノ公義ト生命トヲ得ンガ爲ニ必要ナリ(ハイテ
 ルベルグ問答十七條)

三 キリスト若シ唯人タラバ己ノ身ヲ犠牲トシテ獻ルノ權理
 ナカルベシ且キリストハ永遠ノ靈ニ由リ己ヲ獻ゲタリトアリ
 (希伯九ノ十四)

四 神タルモノニ非レバ凡テ恩恵ノ契約ニ於テ備ヘラレタル
 所ノ事ヲ實行スルニ足ル知識智慧能力アルベカラズ、キリスト

ハ即チ此契約ノ保証人ナリ(第六章ヲ見ヨ)キリストハ即チ位ニ在テ祭司トナラン者ナリ(撒加六ノ十三)又萬人ヲ審判スル者(後提摩四ノ一)又一切萬物ノ上ニ首トナシテ教會ニ賜ハリタル者ナリ(以弗一ノ二十二)

五 神タル者ニ非レバ萬事ヲ管理シテ贖罪ノ法ヲ成就セシムルヲ能ハザルベシ、前哥林十五ノ二十四ト二十五ニ曰後彼レ諸ノ政及ビ諸ノ權威ト能ヲ滅シテ國ヲ父ノ神ニ付サン、是レ終ナリ、ソハ彼レ諸ノ敵ヲ其足ノ下ニ置ク時迄ハ王タラザルヲ得ザレバナリ(哥羅一ノ十六ヨリ十九ヲ見ヨ)

第四 キリストノ兩性ハ中保トシテ其一「ベルツナ」ニ於テ相合スルコト亦必要ナリ、是レ既ニ辨シタル所ニ由テ明白ナリ、然レ亦キリストハ惟其人性ニ於テ中保タラザルヲハ其肉體トナル久シキ前ヨリ既ニ中保タリシヲニ由テ顯ハル、是レ即チ默示

十三ノ八ニキリストヲ世ノ始ヨリ殺サレ給ヘル蓋ト稱シタルトニ由テ明カナリ、又其惟神性ニ於テ中保タラザリシコトハ其中保職ノ準備ヲナサン爲ニ人トナリタル事ニ由テ顯ハル、是レ即チ希伯二ノ十七、十八ニ由テ明カナリ、曰是故ニ神ニ屬ル事ニ付テ矜恤ト忠義ナル祭司長トナリテ民ノ罪ヲ贖ハン爲ニ諸事ニ於テ兄弟ノ如クナルハ宜ベナリソハ彼レ自ラ誘ハレテ苦ヲ受スレバ誘ハル、者ヲ助ケ得ルナリ

是ニ由テ觀レバキリストハ神人間ノ惟一ノ中保タルコト明白ナリ、且行傳四ノ十二ニ其明文アリ曰此外別ニ救アルコトナシソハ天下ノ人ノ中ニ我儕ノ依頼ヲ救ハルベキ他ノ名ヲ賜ハザレバ也ト、前提摩二ノ五ニ曰夫レ神ハ一位ナリ又神ト人トノ間ニ一位ノ中保アリ即チ人ナルキリストイエスナリ(希伯十ノ十四ヲ見ヨ)

曰マ教會ニ於テハ教會ノ諸祭司諸聖徒殊ニ處女マリヤヲ以テ
 中保トナス、彼等ハ己ノ教會ノ外ニハ眞ノ教會ナク己ノ教會ノ
 外ニハ救ナシトノ説ヲ主張シテ凡テ信徒ハ惟教會ニ由テキリ
 ストニ屬スルコトヲ得ル者トス、且己ハ其祭司監督ヲ以テ聖禮典
 ヲ施行スルノ權ヲ授ケラレタル者又聖禮典ニ由テキリストノ
 恩惠ヲ施與スルノ權ヲ授ケラレタル者ナレバ人ハ彼等ヲ中保
 トスルニ非レバキリストニ來ルコト能ハズトシ且彼等ハ「マス」ニ
 於テ人ノ罪ノ爲ニ眞實ノ犧牲ヲ神ニ獻ル者ト爲ス、此事ニ對シ
 テハ惟聖經ハキリストノ教會ニ於テハ一人モ祭司タル者アル
 コトヲ説カズ、惟凡ノ信徒ヲ指シテ齊シク祭司ト稱シタルコトアル
 耳ニシテ(前彼得二ノ五ト九)各人自ラ直ニ一人ノ中保イエスキ
 リストニ來リキリストニ由テ神ニ來ルベキコトヲ教フル也ト答
 シトス、彼等ガ「マス」ヲ以テ主ノ晚餐ノ禮典トナス誤謬ニ就テハ

聖禮典ヲ論ズル時ニ詳論スベシ

ロマ教會ノ説ニ曰我情ハ諸聖徒ヲ指シテキリストト同意義ヲ
 以テ中保トナスニ非ズ、惟己ノ祈禱ヨリモ彼等ノ功德ノ餘力ニ
 因リ其執成ニ由テ一層速ニ神ノ恩惠祐助ヲ得ント冀望スル耳
 ト云フ、蓋神ハ地ニ在テ求ムル者ヨリモ天ニ在ル聖徒ノ祈禱ニ
 ハ一層速ニ耳ヲ傾ケ地ニ在テ罪ヲ悔ル者ヨリモ天ニ在ル聖徒
 ハ一層容易ニ神ヲ説服シ得ルガ如クニ思フ也、蓋此誤謬ノ本ハ
 彼等ノ人ノ行ニ功德アリトノ教ニアリ即チ人ノ善行ハ神ノ賞
 美ヲ得ベキ者ニシテ人ハ善行ニ由テ己ノ爲ニ必要ナルヨリモ
 更ニ大ナル功德ヲ有シ其餘分ヲ以テ他人ノ不足ヲ補フコトヲ得
 ベシト教フル也、聖經ノ教ニ由レバ人ハ己ノ行ニ由テ決シテ罪
 ソ赦ヲ得ルコト能ハザル也、以弗所二ノ八、九ニ曰汝曹恩ニ由テ救
 ヲ得、是レ信仰ニ由テナリ、己ニ由ルニ非ズ神ノ賜ナリ、行ニ由ル

ニ非ズ此ノ如クナルハ誇ル者ナカラシム爲カリ、羅馬十一ノ六ニ
日若シ恩ニ由ラバ行ニハ由ラザル也、然ラザレバ恩ハ恩タラス、
若シ行ニ由ラバ恩ニ非ズ、然ラザレバ行ハ行タラザル也、羅馬三
ノ二十三、二十四ニ曰ソハ人皆既ニ罪ヲ犯セバ神ヨリ榮ヲ受ル
ニ足ラズ、只キリストイエスノ贖ニ由テ神ノ恩ヲ受ケ功ナクシ
テ義トセラル、也、加之ナラズ此教ハ神ハ人ノ勸告ニ由テ始
テ罪ヲ悔ル者ニ慈悲愛憐ヲ垂ル、者ノ如ク思惟スルナリ、然レ
而聖經ハ神ハ既ニ世ノ人ヲ愛シ(約翰三ノ十六)既ニ罪人ヲ救ハ
シト欲スル者トナス也、前提摩二ノ四ニ曰萬人救ヲ受ケ眞理ヲ
曉ルニ至ルハ神ノ望ニ給フ所ナリ、默示二十二ノ十七ニ曰靈ト
新婦ト云フ來レト、之ヲ聞ク者ニ來レト云ヘ、渴者ハ來ルベシ、願
ク者ハ來ルベシ、償ナレニ生命ノ水ヲ飲ムベシ(馬太七ノ十二參
考)罪ヲ赦シ生命トヲ受ルノ勸告ヲ要スル者ハ即チ罪人ナリ、神

ハ罪人ノ祈禱ヲ聞クノ勸告ヲ要スル者ニ非ズ
然レモ羅馬教會ハ處女マリヤヲ以テキリストニ對スル必ズ効
能アル中保ト稱シ且其執行ヲ確信シマリヤハキリストノ在世
中ニ之ニ對シテ大ナル勢力ヲ行シタルガ故ニ天ニ在テハ尙更
ニ大ナル勢力ヲ有スル者ト信シ而シテ其實處女マリヤヲ以テ
キリストト同等ノ權能アル者トナス也、法王パイアス第九世ハ
一千八百四十九年二月二日ヲ以テ遍傳書ヲ布告シタリ、此遍傳
書ハ獨法王一人ノ意見ニ非ズシテ羅馬教會中最モ有名ナル教
正等ノ意見ヲ表明セル者ナルガ其中ニ言フ所ニ據レバ羅馬教
會ハ處女マリヤヲ以テ神ノ滿圓ナル盛徳ヲ具有シ且教會ノ贖
主タル職ヲ有スル者トナス也、其書ニ曰處女マリヤハ其大ナル
功德ニ因リ天使ノ唱歌ノ上ニ神ノ寶座ノ下ニマテ舉ゲラレタ
ル者又其功德ノ足下ニ老蛇ノ首ヲ碎キタル者ナリ云々、又曰我

情ノ信仰ノ基礎ハ至聖ナル處女ニアリ何トナレバ神彼ノ中ニ
 萬善ヲ滿シテ而シテ若シ我儕ニ於テ幾分カ望アリ又靈魂ノ健
 全アラバ彼ヨリ之ヲ受ンコトヲ知レバナリ、是レ即チ凡テ我儕ノ
 受ル所ハマリヤニ由テ受ヘキコトヲ定メ給ヘル者ノ聖意ナレバ
 也、是レ明白ニマリヤヲ以テ救主トナス者ナリ何トナレバ(第
 一)創世記三ノ十五ノ預言ヲ彼ニ適用シ而シテ婦ノ裔ニ就テ預
 言セラシメタル事即チ蛇ノ首ヲ碎クコトヲ以テ彼ノ所爲トナシ又
 (第二)パウロガキリストニ就テ(哥羅二ノ九)神ノ充足レル徳ハ悉
 ク形體ヲナシテ其中ニ住リト云ヒシコトヲ取テマリヤニ適用シ
 而シテ彼ヲ中保又福ヲ施ス者トナセバナリ
 夫レキリストノ役者ハロマ教會ノ言フ如キ祭司ニハ非ズ、又神
 ノ前ニ在テハ如何ナル男モ女モ更ニ功德ナク殊ニ功德ノ餘力
 ハ更ニナキ者ナルガ故ニロマ教會ノ主張スル所ノ諸祭司諸聖

徒及ビ處女マリヤノ中保ノ教理ハ全ク倒ル、也、唯キリストハ
 神ト人トノ間ノ中保ナリ何トナレバ唯聖經ニ於テ其教アルノ
 ミナラズキリストノ外ニ我儕ヲシテ神ニ和睦セシムルニ必要
 ナル事ヲ成就シ得ル者ナク又之ガ爲ニ必要ナル資格ヲ具有ス
 ル者アラザレバ也

我儕ハ此處ニ聖靈トキリストノ中保ノ働トノ關係ヲ論ズベシ、
 夫レ神ノ子ガ人ト成リテ罪ヲ贖ヒ給フ事ハ創世ノ始ニ於テ神
 ガ墮落セル人類ヲ救ハン爲ニ其無限ノ慈愛ヲ以テ定メ給ヘル
 所ノ法ナリ、救ノ法ノ成就スル事ニハ父ナル神モ聖靈ナル神モ
 子ナル神ト共ニ關係アリ、故ニキリストノ働ニ就テ屢々聖靈ノ
 事ノアルハ怪ムニ足ラザル也、實ニキリスト昇天以後此世ニア
 ル所ノ救ノ働ハ凡テ聖靈ニ由テ成サル、也

第一 キリストノ不思議ニ孕マレタルハ即チ聖靈ノ能力ニ由

レリ、路加一ノ三十五ニ曰天使對テ曰ケルハ聖靈汝ニ來ル至上者ノ大能汝ヲ庇ハン是故ニ汝ガ生ム所ノ聖ナル者ハ神ノ子ト稱ヘラルベシ

第二 聖靈ノ働ハキリストノ人性ノ非凡ノ才能ニ由テ顯ハル、路加二ノ四十二曰其子稍成長シテ精神强健ニ知慧滿チ神ノ恩寵其上ニ居レリ(約翰三ノ三十四參考)

第三 キリストノバプテスマノ時聖靈鴿ノ形狀ニテ其上ニ降りタリ(路加三ノ二十二)

第四 キリストノ試惑ノ時ニ顯ハレタリ、馬太四ノ一ニ曰倍イエス聖靈ニ導カレ惡魔ニ試ミラレン爲ニ野ニ往リ

第五 其試惑ノ後ニモ顯ハレタリ、路加四ノ十四ニ曰イエス聖靈ノ能以テガリラヤニ歸リシニ其聲名普ク四方ノ地ニ廣リヌ

第六 又キリストガ己ヲ獻ゲ給ヘルハ聖靈ニ由レリトアリ(希

伯九ノ十四)

第七 キリストハ聖靈ヲ己ノ民ニ遣ハシテ彼等ト偕ニ寓セ彼等ヲ教ヘ導キ且慰メ潔ムトアリ、約翰十四ノ十六、十七ニ曰我父ニ求メン父必ズ別ニ慰ムル者ヲ汝等ニ賜ヒテ窮ナク汝等ト偕ニ居ラシムベシ、此ハ即チ真理ノ靈ナリ、約翰十四ノ二十六ニ曰我名ニ由テ父ノ遣ハサントスル慰ムル者即チ聖靈ハ凡ノ事ヲ汝等ニ教ヘ亦我が凡テ汝等ニ言シ事ヲ汝等ニ憶起サシムベシ、約翰十六ノ十三ニ曰然ド彼即チ真理ノ靈ノ來ラン時汝等ヲ導キテ凡ノ真理ヲ知ラシムベシ、前哥林三ノ十六、十七ニ曰汝等ハ神ノ殿ニシテ神ノ靈汝等ノ中ニ在スコトヲ知ラザル乎、若シ人神ノ殿ヲ毀タバ神彼ヲ毀ンヲハ神ノ殿ハ聖キ者ナレバナリ、此殿ハ即チ汝等ナリ(約翰十五ノ二十六、同十六ノ七參考)

第八 キリストハ天ニ於テ我儕ノ爲ニ代求スル所ノ惟一ノ中

保ナリトアリ(羅馬八ノ三十四、希伯七ノ二十五)而シテ聖靈ハ神ノ聖旨ニ遵テ我儕ノ中ニ志ヲ立テ望ヲ起サシメ而シテ言ガタキノ慨歎ヲ以テ我儕ノ爲ニ祈給フ也、羅馬八ノ二十六、二十七ニ曰聖靈モ亦我儕ノ荏弱ヲ助ク、我儕ハ祈ルベキ所ヲ知ラサレズ聖靈自ラ言ガタキノ慨歎ヲ以テ我儕ノ爲ニ祈ヌ人ノ心ヲ見給フ者ハ聖靈ノ意ヲモ知レリソハ神ノ心ニ遵ヒテ聖徒ノ爲ニ祈レハ也

第九 凡テ神ノ賜ハ聖靈ニ由テ與ヘラル、前哥林十二ノ十一ニ曰然ト凡テ此等ノ事ヲ行フ者ハ同ク一ツ靈ナリ、彼其心ノ儘ニ各人ニ願與フル也(行傳一ノ五ヲ見ヨ)

第十 世ト争ヒ人ヲシテ罪ヲ悟ラシメ(約翰十六ノ八)而シテ之ヲキリストニ導キキリストニ由テ父ニ導ク者ハ神ノ聖靈ナリ、以弗二ノ十八ニ曰夫レ彼ニ由テ我儕二者一ノ靈ニ在テ父ニ近ク

事ヲ得ル也(以賽六十三ノ十、以弗四ノ卅、前帖撒五ノ十九ヲ見ヨ)之ヲ要スルニ聖靈ハキリストガ世ニ在テ中保ノ働ヲ爲給フ時ニハ常ニ之ト偕ニ在リ而シテキリスト昇天シ給ヒテ後ハ其聖靈ニ由テ凡テ中保ノ働ノ利益ヲ人ニ與ヘ給フ也

第十章 中保ノ働

夫レ神ノ子ハ神ト人トノ間ノ中保トシテ凡テ人ノ贖罪ノ爲ニ必要ナル事ヲ成就センガ爲ニ肉體ト成給ヘリ、蓋墮落セル人類ハ不知ニシテ教訓ヲ要スル者ナリ、故ニキリストハ之ガ師即チ預言者タラン爲ニ來レリ、墮落セル人類ハ其性情腐敗シテ神ノ呪ノ下ニアリ、其義罰ヲ蒙ルベキ者ニシテ誰カ之ガ爲ニ代求シ之ガ爲ニ完全ナル犧牲ヲ獻ゲテ其罪ヲ贖フコトヲ要スル者ナリ、故ニキリストハ之ガ祭司タラン爲ニ來レリ、墮落セル人類ハ荏

弱無力ニシテ有能ナル治者ト保護者ヲ要スル者ナリ、故ニキリ
 ストハ之ガ王タラシ爲ニ來レリ
 ユダヤノ學士等ハメツシヤニ此三職アルヲ説シガキリスト
 教ノ教師等モ之ニ因テキリストノ中保ノ働ヲ論スル時ニハ初
 ヨリ預言者祭司王ノ三職トシテ之ヲ論ジタリ、然ラバ我儕モ其
 先例ニ從フベシ何トナレバ此事ヲ了解セント欲セバ此法ニ由
 ルニ如カザレバ也、夫レキリストハ神ノ言ヲ語ル所ノ我儕ノ大
 師ナリ、己ヲ完全ナル犧牲トシテ獻ゲタル我儕ノ大祭司ナリ、又
 神ノ權能ヲ以テ治ル所ノ我儕ノ大王ナリ
 其他聖經ニハキリストニ種々ノ名稱ヲ附シタル所アリ、例ヘバ
 羔ト云ヒ門ト云ヒ牧者ト云フガ如シ、是レ皆貴重ナル眞理ヲ顯
 ハサン爲ニ用ヰタル比喻ノ言ナリ、然レモキリストヲ指シテ預
 言者ト云ヒ祭司ト云ヒ王ト云フハ比喻ノ言ニ非ス、キリストト

其人民トノ間ニ存スル所ノ眞實ノ關係ヲ顯ハセル者ナリ、キリ
 ストト我儕トノ間ニ此等ノ關係アルニ非レバキリストハ神ニ
 對シテ我儕ノ中保タルコト能ハサルベシ、而レテ其ノ我儕ノ預言
 者トシ祭司トシ王トシテ爲給ヘル所ノ事ハ之ヲ合一シテ我が
 中保ノ働トナスナリ
 天下諸國民ノ歴史ヲ通觀スルニ古今東西ノ別ナク教師祭司治
 者ノ三職ハ常ニ民間ニ行ハレタル者ノ如シ、眞ノ神ヲ知ラザル
 國民中ニ於テモ然リトス、即チ其眞僞ハ姑ク置キ事物ヲ教訓預
 言スル所ノ預言者アリ、又其犧牲祈禱ノ有効ナルトナラザルト
 ハ姑ク置キ之ヲ獻グル所ノ祭司アリ、其政治ノ善惡ハ姑ク之ヲ
 置キ若シ國民アレバ必ズ之ガ治者アリシ也
 神ノ選民中ニモ神自ラ立給ヘル所ノ此三職アリキ、而シテ此三
 職ハ三種ノ人アリテ各其一ヲ有ツテ常トセリ、即チ預言者ハ唯

預言者ノ職ヲ爲シ祭司ハ唯祭司ノ職ヲ爲シ王ハ唯王ノ職ヲ爲シタリ然レモ或時ハ一人ニシテ其二或ハ三職ヲ兼ネタル者アリ例ヘバアブラハムハ己ノ家族ニエホバノ事ヲ教ヘ又犠牲ヲ獻ゲ族長トシテ之ヲ治メタルガ如ク又モーセハ預言者ニシテ祭司同ノ職ヲ爲シ且神ノ命ヲ蒙テイスラエル人ヲ治メダビデモ王位ニ在テ預言者ノ職ヲ兼タルガ如シ神ハ屢々預言者ヲ起シ神ノ名ニ由テ人民ヲ教訓譴責獎勵警戒セシメ且レビノ支派ヲ舉テ祭司トナシ又ユダヤノ諸王ヲ興廢シ給ヘリ博士スミス氏ガキリスト教組織神學四百三十三丁ニ云フガ如クイスラエル人ノ歴史ハモーセト諸預言者アロント祭司職ダビデト其王室ト云フ三言ノ中ニ含有セリ(中略)ユダヤ人ノ歴史ハ概言スレハ此預言者祭司國王ト云フ三言ノ光ニ照シテ知ルコトヲ得ベキ者ナリ

夫レ此三職ハメツシヤガ人類ノ救ノ爲ニ成スベキ働ノ舊約ノ時ニ顯ハレタル預表ナリ復傳十八ノ十五ニ曰汝ノ神エホバ汝ノ中汝ノ兄弟ノ中ヨリ我ノ如キ一人ノ預言者ヲ汝ノ爲ニ興シ給ハン汝等之ニ聽クベシ(行傳三ノ二十二參考)詩篇百十ノ四ニ曰エホバ誓ヲ立テ聖意ヲカヘサセタマフコトナシ汝ハメルキセデクノ狀ニテ均シク永遠ニ祭司タリト(希伯五ノ五、六、同六ノ二十參考)前哥林五ノ七ニ曰夫レ我儕ノ逾越即チキリストハ既ニ宰ラレ給ヘリ行傳二ノ三十、三十一ニ曰彼ハ預言者ニシテ神之ニ導ヲ立テ其血統ノ中ヨリ一人ヲ舉テ位ニ即シメント誓ヒ給ヘルヲ知ル預メ此事ヲ悟ルガ故ニキリストノ甦ル事ニ就キ語テ彼ハ陰府ニ遺置レズ亦其肉體モ朽果ズト云ヘルナリ(詩篇三十二ノ十一參考)ザカリヤキリストニ就テ曰(撒加六ノ十三)即チ彼ハエホバノ宮ヲ建テ尊榮ヲ帶ビ其位ニ坐シテ政ヲ施シ其

位ニ在テ祭司タラントイサヤノ預言ノ後半ハ全クキリストガ
 神ノ僕トナリ人ヲ教訓シ苦ヲ受テ死シ而シテ後ニ大權ヲ以テ
 世ヲ治ルコトヲ説ケル者ナリ、又キリストハ萬國ノ民ヲ教フル
 者(馬拉四ノ一ヨリ三)我儕ニ永遠ノ義ヲ與フル者(但以九ノ二十
 四)我儕ノ憂苦ヲ負フ者羔ノ如ク屠所ニ導カル、者ナリト云ヒ
 (以賽五十三ノ四ヨリ七)其政ヘ永遠窮ナク(以賽九ノ七)又彼ハ異
 邦人ヲ嗣業トナシ他ノ極ヲ所有トナス者ナリトアリ(詩篇二ノ
 一)
 新約ニ於テモ我カ中保ノ三職ニ關スル教ハ極メテ明白ナリ、舊
 約ニ於テ約束セラレタルメツシヤハ即チ我儕ガ新約ニ於テ讀
 ム所ノキリストナリ、メツシヤトハヘブライ語ニシテ受膏者ノ
 義ナリ、キリストハギリシヤ語ニシテ其義亦同シ、舊約ノ時代ニ
 ハ預言者祭司國王ガ其職ニ就ク時ニ當リ神ノ名ニ由テ其頭ニ

膏ヲ塗ルヲ以テ禮式トナセリ、是レ即チ彼等ハ神ニ聖別セラレ
 テ特別ノ勸ヲナス者トナリ、且彼等ヲシテ其任ニ耐レムル所ノ
 目ニ見ヘザル聖靈ヲ蒙リタル表徴ナリキ、然レモキリストガ其
 職ニ就キ給フ時ニハ膏ヲ受ケ給フノ要ハアラザリキ何トナレ
 バヨルダン河ニ於テヨハチヨリバプテスマヲ受ケ給ヒシ時ニ
 聖靈鶴ノ形ニ顯ハレテ其上ニ降り且天ヨリ父ノ聲アリテ是ハ
 我が愛子ナリト認メタレバ也、即チ父ナル神ハキリストガ肉體
 トナリテ其働ヲ始ント爲シ給フ時ニ之ヲ其心ニ適フ愛子ト認
 メ給ヒシ也(馬太三ノ十七)
 而シテキリストハ實ニ預言者ノ働ヲ爲シ人々ニモ預言者ト認
 メラレ給ヘリ、未ダ曾テキリストノ如ク言シ人ナク(約翰七ノ四
 十六)キリストハ神ヲ人ニ顯ハシタリ(馬太十一ノ二十七)又神ノ
 言ナリ(約翰一ノ一)神ノ名ニ於テ語り且神ノ旨ヲ教ヘ(約翰五ノ

四十三ト六ノ四十已ノ死ト(馬太十六ノ十七ヨリ十九)エルサレムノ滅亡(馬太二十四)及ビ己ノ王國進歩普及(馬太十三)ヲ預言シ給ヘリ

キリストハ又我儕ノ大祭司及ビ犠牲トシテ顯ハル即チ永遠ノ靈ニ由リ瑕ナクシテ已ヲ神ニ獻ゲタリ(希伯九ノ十四)實ニ希伯來書ハ全クキリストノ祭司タルコトキリストノ外ニ眞ノ祭司ナク又眞ノ犠牲ナキヲ證明セル者ナリ凡テキリスト前ノ者ハ其預表ニ過ズトス前哥林五ノ七ニ曰我儕ノ逾越即チキリストハ既ニ宰ラレタリ
キリストハ又我儕ノ永遠ナル王トシテ顯ハル、預言者ザカリヤハ彼ハ位ニ在テ祭司タラント云ヒ(撒加六ノ十三)希伯來書著者ハ我儕ニ此ノ如キ祭司長アリ彼ハ天ニ於テ大ナル威光アル者ノ位ノ右ニ坐シ云々(希伯八ノ一)又キリストハ自ラピラトニ向

テ我ハ即チ王ナリト明言シタリ(約翰十八ノ三十七)使徒パウロモ腓立二ノ九ヨリ十一ニ神ハ甚シク彼ヲ崇メテ諸ノ名ニ超ル名ヲ之ニ予ヘタリト言ヘリ

又主自ラ約翰十七ニ記載スル祈禱ニ於テ此三職ノ己ニ屬スルコトヲ示シ給ヘリ何トナレバ弟子等ニ神ノ名ヲ顯ハシメリト云ヒ(是レ預言者ノ職ナリ)其愛ヲ以テ弟子等ノ爲ニ祈リ(是レ祭司ノ職ナリ)且彼等ヲ守護シタルガ故ニ(是レ王ノ職ナリ)之ヲ己ノ有トシテ要メ給ヒタレバ也

要スルニキリストノ中保ノ働ハ此三職中ニ包含セリ、故ニ此三者ヲ特別ニ講究スレバ一層明白ニ知ルコトヲ得ベシ、然レモ我儕ハ此三職ヲ殊別獨立ノ者ト思惟ス可ラズ、其目的成迹ニ於テハキリストノ働ハ即チ惟一ノ働ナリ、而シテ或ハ預言者ノ職ノ著明ナルコトアリ、或ハ祭司ノ職ノ著明ナルコトアリ、或ハ王ノ職

ノ著明ナルコアリト雖キリストハ常ニ此三職ヲ兼給ヘルナリ、
 其在世中ハ重ニ預言者トシテ顯ハレ十字架上ニ在テハ祭司及
 ビ犧牲トシテ顯ハレ昇天ノ時ニハ王トシテ顯ハレ給ヘリ、然レ
 正我儕ヲ教フル所ノ者ハ即チ祭司及ビ王ニシテ贖罪代求スル
 所ノ者ハ即チ預言者及ビ王ナリ、又治ル所ノ者ハ即チ預言者及
 ビ祭司ナリ、次ノ數章ニ於テハ此三職ノ事ヲ別々ニ講究セン

第十一章 キリストノ預言職

聖經ノ慣例ニ由レバ預言者トハ他人ニ代リ其權威ヲ以テ宣ル
 者ノ義ナリ、例ヘバアロンハモーセノ預言者タリシガ如シ即チ
 モーセハアロンニ由テ神命ヲパロト人民ニ傳ヘタルガ如シ(出
 埃及四ノ十ヨリ十七、同七ノ一)神曰汝彼ニ語リテ言フ、其口ニ授
 クベシ我汝ノ口ト彼ノ口ニアリテ汝等ノ爲スベキ事ヲ教ヘン

彼汝ニ代テ民ニ語ラン彼ハ汝ノ口ニ代ラン汝ハ彼ノ爲ニ神ニ
 代ルベシト

然ラバ神ノ預言者トハ神ソノ旨ヲ宣傳セシメン爲ニ委任ヲ授
 ケタル所ノ者ノ義ナリ、既ニ預言者ト譯スレバ未來ノ事ヲ前言
 スル者ノ義タルコト勿論ナレ正原語ハ強チニ將來ノ事ニ關シテ
 神旨ヲ預言スルノ義ニ非ズ、屢々其意ヲ含ムコトアリ、然レ正亦當
 時ノ事ニ關シテ神旨ヲ顯ハスノ意ヲ含ムコトアリ、神ハ其旨ヲ
 預言者等ニ授ケ給ヒ而テ彼等ハ之ヲ神ノ名ニ由テ人民ニ宣傳
 シタル也、例ヘバ其預言者エレミヤニ汝我ガ口ノ如クナラント
 告ゲ給ヘルガ如シ(耶利十五ノ十九、復傳十八ノ十八、十九參考)
 凡テ預言者ハ教師タリ、然レ正預言者タラザル教師モ亦少カラ
 ス、預言者等ニハ神自ラ其旨ヲ直ニ授ケ而シテ彼等ノ宜ブベキ
 言ヲ彼等ノ口ニ置キ給ヘリ是故ニ預言者等ハ即チ神ノ默示ヲ

受ケタル教師ナリ即チ彼等ノ宣タル言ハ彼等自身ノ言ニ非ズ
レテ神ノ言ナリ是故ニ預言者等ガ神ノ命令ヲ傳フル時ニハエ
ホバ此ノ如ク謂テ曰云々ト云フヲ常トス(以賽一ノ一、耶利一ノ
一等)

神ノ命令ヲ奉ジテ預言者等ガ其旨ヲ宣傳シタル時ニハ神ハ其
言ニ加フルニ其權威ヲ証スルニ足ル程ノ証據ヲ以テシ給ヘリ、
或ハ其命令ノ性質ト之ヲ受タル者ノ良心ニ顯ハル、結果ニ由
リテ其神ヨリ出タルコト明白ナリキ、例ヘバヨナノ事ノ如シ或ハ
預言者ノ聖潔ナル行ニ加ヘテ他ノ人々ガ其証據ヲ立タル事
アリ例ヘハサムエルノ幼年ノ時ノ如シ、前撒母三ノ二十二日ダン
ヨリベニエルシバニ至ルマデイスラエルノ人皆サムエルガエホ
バノ預言者ト定マレルヲ知レリト、又其事ノ必要ナル時ハ彼等
ノ實ニ神ヨリ遣ハサレタル事ヲ証セン爲ニ彼等ニ奇跡ヲ行フ

ノ能ヲ賜ハリタルコトアリ、例ヘバモーセニ於ルガ如シ、出埃及四
ノ十七ニ曰汝此杖ヲ手ニ執リ之ヲ以テ奇跡ヲ行フベシ(出埃及
第七章ヨリ十一章並列王下二章等參考)復傳十八ノ廿二ニ
モ又一例アリ曰汝或ハ心ニ謂ヘン我儕如何ニシテ其言ノエホ
バノ言給フ者ニアラザルヲ知ラント、然レバ若シ預言者アリテ
エホバノ名ヲ以テ語ルヲ爲スニ其言遂メ又效アラザル時ハ
是レエホバノ語リ給フ言ニ非ザルナリ
ヤリストノ預言者タル事ハ既ニ前章ニ於テ略説シタレモ今此
ニ其證據ヲ加シ、夫レキリストノ預言者タルコトハ舊約ニ於テ其
預言アリ、以賽六十一ノ一二曰主エホバノ靈我ニ臨メリ此ハエ
ホバ膏ヲツ、キテ貧キモノニ福音ヲノベ傳フルコトヲ委子我ヲ
遣シテ心ノ傷メル者ヲ愈シ俘囚ニ赦免ヲ告ゲ縛メラレタル者
ニ解放ヲ告ント、此預言ハ即チキリストヲ指ス者ナリト路加四

ノ十七ヨリ二十一ニキリスト自ラ明言シ給ヘリ
復傳十八ノ十五ニ曰汝ノ神エホバ汝ノ中汝ノ兄弟ノ中ヨリ我
ノ如キ一箇ノ預言者ヲ汝ノ爲ニ起シ給ハント、使徒ペテロハ行
傳三ノ二十ニ此預言ヲ引テ是レ即テキリストヲ指ス者ナリト
明言シタリ、實ニ我ノ如キ預言者ト云フ事ハキリストニ非ズレ
テ他ノ者ニ於テ感ズルコト能ハザルナリ、モイセガイストラエル
ノ諸預言者中ニ在テ獨特異ノ地位ヲ占ルガ如クキリストモ亦
一種特異ノ地位ヲ占ル者ナリ、神ガ其僕モイセヲイスラエルノ
子孫ニ遣ヘシタルハ彼ニ由テ彼等ニ其聖キ律法ノ新ナル顯現
ヲ授ケ且彼等ノ教師教導ヲシメンガ爲ナリ、而テ神ハモイセ
ヲシテ彼等ヲエジプトノ苦役ヨリ救出サシメ且之ヲ一箇ノ國
民トオシテカナンノ地ニ導カシメ給ヘリ、此ノ如ク神ハ其子イ
エスキリストヲ降シテ全世界ニアル其人民ノ教師教導トナシ

彼等ニ其聖キ律法ノ尙更ニ新ナル顯現ヲ授ケ彼等ヲ罪惡ノ苦
役ヨリ救出シ且之ヲ聖ナル一箇ノ人民トシテ天國ニ導入ラシ
メ給フナリ、キリストノ神ノ律法ノ説明ハ前代未曾有ニシテ一
次ハ之ヲ新シキ誠命ト稱シ給ヘリ、馬太二十二ノ三十七ヨリ四
十ニ曰汝心ヲ盡シ精神ヲ盡シ意ヲ盡シ主ナル汝ノ神ヲ愛スベ
シ是レ第一ニシテ大ナル誠ナリ第二モ亦此ニ同シ己ノ如ク汝
ノ隣ヲ愛スベシ凡ノ律法ト預言者ハ此ニシテ誠ニ因レリ、約翰十
三ノ三十四ニ曰我新シキ誠ヲ汝等ニ予フ即チ汝等相愛スベシ
トノ是レナリ我汝等ヲ愛スル如ク汝等モ亦相愛ススベシト、キ
リストハ神ノ預言者トシテ神ノ愛ヲ人ニ顯ハシ給ヘリ而テ未
ダ曾テキリストノ言語ノ如ク愛ヲ以テ充滿セル言語ハアラザ
ル也、且キリストヲ信ズル者ハ其聖善ナル王國ノ子輩トナリキ
リストハ彼等ノ爲ニ父ノ家ニ於テ所ヲ備ヘタリ、馬太十三ノ三

十八ニ曰善種ハ是レ天國ノ諸子ナリ、同十三ノ四十三ニ曰此時
 義人ハ其父ノ國ニ於テ日ノ如ク輝カシ、路加二十二ノ二十九ニ
 曰我父ノ我ニ任ゼシ如ク我モ汝等ニ國ヲ任ズベシ、約翰十四ノ
 二ニ曰我父ノ家ニハ住居多シ然ラズバ我預テ汝等ニ之ヲ告グ
 ベキ也我汝等ノ爲ニ所ヲ備ヘニ往ク(馬太二十五ノ三十四、希伯
 十二ノ二十八、雅各二ノ五、後彼得一ノ十一參考)
 キリストハ自ラ預言者ト稱シ給ヘリ、路加十三ノ卅三ニ曰然レ
 而今日明日又次日ハ我必ズ往クベシツハ預言者ハエルサレム
 ノ外ニ殺サル、コアラ子バ也、約翰十四ノ二十四ニ曰汝等ノ聞
 ク所ノ言ハ我言ニ非ズ我ヲ遣ハシ、父ノ言ナリト、又人ヨリ預
 言者ト稱セラレタル時ニ之ヲ拒絕シ給ヘズ馬太二十一ノ十一
 ニ曰人々云ケルハ此ヘガリヲヤノナザレヨリ出タル預言者イ
 エス也、約翰四ノ十九ニ曰婦云ケルハ主ヨ我汝ヲ預言者ト知レ

リ、キリストトピラトニ答テ曰我是レガ爲ニ生レ是レガ爲ニ世ニ
 來レリソハ眞理ニ就テ証ヲナサン爲ナリ(約翰十八ノ三十七)且
 其教ノ品性ト其行ヒタル奇跡モ亦其神ノ預言者タルコトヲ証
 明シタリ、約翰三ノ一、二ニ曰ユダヤ人ノ宰ニテパリサイノニコ
 テモト云ル人アリ彼夜イエスニ來テ曰タルハ「ラビ」我儕汝ハ神
 ヨリ來リシ師ナリト知ルツハ神若シ人ト信ナラズバ汝ガ爲セ
 ル此休徴ハ人之ヲナスコト能ハザレバ也、約翰六ノ十四ニ曰人
 タイエスノナシ、奇跡ヲ見テ此ハ誠ニ世ニ來ルベキ預言者ナ
 リト云フ(馬太七ノ二十八、二十九、約翰七ノ四十六、同八ノ三十)
 復傳十八ノ二十一、二十二ニ記載セル試験ハキリストノ充分ニ
 應シ給フ所ナリ何トナレバキリストノ預言シ給ヘル事ニシテ
 既ニ應シタル者アレバ也例ヘバ(一)弟子等ガキリストヲ捨テ、
 逃レタルコト、約翰十六ノ三十二ニ曰時將ニ至ラン今至リヌ汝等

散リテ各人其屬スル所ニ往キ我ヲ一人殘サント、馬太二十六ノ五十六參考(二)己ノ死ト復活ノ事、馬可九ノ三十一ニ曰ツハ其弟子ニ教ヘテ人ノ子ハ人ノ手ニ付サレ彼等ニ殺サレ殺サレテ後第三日ニ甦ルベシト曰給ツガ故ナリ(三)僞キリスト僞預言者ノ顯ヘル、事、馬太二十四ノ二十三、二十四ニ曰其時若レキリスト此處ニアリ彼處ニアリト汝等ニ云フ者アリトモ信ズル勿レソハ僞キリスト僞預言者等起テ大ナル休徴ト異能ヲ行ヒ選レタル者ヲモ欺クヲ得バ之ヲ欺クベケレバ也或人ハ此預言ハ行傳五ノ三十六、三十七並廿一ノ卅八ニ記載スル所ニ由テ既ニ幾分カ應ジタリト思惟セリ(四)エルサレム及神殿ノ亡滅、馬太二十四ノ二ニ曰イエス彼等ニ曰ケルハ汝等凡テ此等ヲ見ザルカ我誠ニ汝等ニ告ン此處ニ一ノ石モ石ノ上ニ圮サレズンテハ遺ラシ(馬太二十六ノ十八、馬可十三ノ十四ヨリ三十、同十四ノ十三ヨ

リ十六、約翰二十一ノ十八、十九)

是ヨリ我儕ハキリストガ如何ニシテ預言者ノ職ヲ成シ給ヒンヤヲ考フベシ而シテ我儕ハ之ヲ區別シテ三期ト爲スベシ、第一其降世以前、第二其在世間、第三其昇天以後是レ也
 第一 其降世以前、實ニ天地創造ノ前ヨリキリストハ「ロゴス」即チ言タリ、約翰一ノ一ヨリ四ニ曰元始ニ言アリ言ハ神ト僭ニアリ即チ神ナリ此言ハ元始ニ神ト僭ニアリキ萬物之ニ由テ造ラル造ラレル者ニ一トシテ之ニ由ラテ造ラレシハナシ之ニ生アリ此生ハ人ノ光ナリ、夫レ人ハ言ニ由テ己ト己ノ思想目的ヲ顯ハスモノナリ而シテキリストハ即チ神ト其思想目的ヲ大ニ顯ハス者ナリ故ニ神ノ言ト稱セラレ給フ也(默示十九ノ十三參考)是故ニ元始ヨリ凡テ神ノ眞理ノ顯現ハキリストニ由レル者ト做サマルベカラズ、舊約ノ時代ニハキリストト自ラ形體ヲ取テ列祖預

言者等ニ現ハレテ神ノ聖旨ヲ示シ給ヘルコアリ創世三十一ノ
 十一、士師六ノ十二、撒加三ノ一ト二等参考、然レモ通常ハ其默示
 ヲ記録スルノ任ヲ受タル者ヲ感動シ人民ノ心ヲ感化シ聖靈ニ
 由テ神ノ聖旨ヲ人ニ顯ハシ眞理ヲ知ラシメテ以テ彼等ニ救ヲ
 得セシメ給フ也、前彼得一ノ十、十一ニ曰汝等ガ受ル所ノ恩ヲ預
 言セシ預言者等ハ此救ニ係ル事ヲ探索メ且推究タリ即チ彼等
 〇。裏ニ居ルキリストノ靈キリストノ受ントスル苦難ト其後
 得ントスル神ヲ預メ証シタル此ハ何ノ日如何ナル時ヲ示セル
 ト推究タリト、舊約時代ニ於テモ預言者マラカイガ所謂義ノ大
 陽ヨリ直接或ハ間接ニ出タル所ノ光明ノ外ニ眞ノ道徳ノ光明
 ハアラザリキ、約翰一ノ四ニ曰之ニ生アリ此生ハ人ノ光ナリ(馬
 拉四ノ二一參考)
 第二キリストハ在世中ニモ尙續テ預言者ノ職ヲナシ給ヘリ、

其談話說教譬喩及ビ律法預言ノ解説ニ於テモ神ノ聖旨ヲ顯ハ
 シ殊ニ己ニ由ル救ノ道ト贖罪ノ犧牲ニ就テ之ヲ顯ハシ且後ニ
 聖靈ノ感動ニ由テ新約書ヲ著述スルノ任ヲ受タル者ニ眞理ノ
 知識ヲ授ケタリ
 第三キリストハ昇天ノ後モ尙其言ト聖靈ヲ以テ神ノ愛ト其
 言ノ意義ヲ増ス顯ハシ以テ人ノ心ヲ安慰聖潔ニシ教師ト教會
 トヲ教導維持スル事ニ由テ預言者ノ職ヲ成シ給フ也、馬太二十
 八ノ十九、二十ニ曰是故ニ汝等往テ萬國ノ民ニバプテスマヲ施
 シ父ト子ト聖靈ノ名ニ入テ弟子トシ且我が凡テ汝等ニ命ゼシ
 言ヲ守レト彼等ニ教ヘヨ夫レ我ハ世ノ末迄常ニ汝等ト偕ニ在
 ル也(約翰十四ノ二十五、二十六)夫レキリストハ今モ尙其人民ノ
 義又聖又贖タルノミナラズ其智慧ニシテ(前哥林一ノ三十)永遠
 無窮ニ至ル迄贖ハレタル者ノ光タル也(默示廿一ノ廿三)

キリストノ凡テ他ノ預言者ニ卓越スル所以如何
 第一 キリストノ神タル事、是レ唯其凡テ他ノ預言者ニ卓越スル所以タルノミナラズ他ノ預言者等ノ衆人ニ卓越スル所以ナリ、キリストヲ唯人ト做ス輩モ其舊約ノ最大預言者ニ卓越スルコトヲ拒ム能ハザルナリ何トナレバキリストハ凡テ彼等ノ美德ヲ合セ更ニ彼等ノ環瑾ナケレバ也、然レモ我が中保ハ神ノ子ニシテ凡テ他ノ預言者ニ卓越スルコトハ猶忠信ナル子ガ忠信ナル僕ヨリモ貴キガ如ク然リ、キリストハ神ノ子ナルニ自ラ謙卑シテ僕トナリ彼等ハ僕ナルニキリストノ功德ニ由テ神ノ子輩トナレリ、彼等ハ自ラ説キタル真理ニ全ク通曉スルコト能ハザリシガキリストハ即チ真理ニシテ神ノ意ノ永遠ノ思想ヲ顯ハレタル永遠ノ言ナリ、彼等ハキリストヨリ知識ト權威ヲ受ケテ數年ノ間働キタリ、キリストハ元始ヨリ又永遠無窮ニ至ル迄己ト

父ト天地創造ノ先ヨリ人ノ救ニ就テ相語レル所ノ事ヲ宣給フ也、彼等ハ生命ノ道ヲ示シタレモキリストハ自ラ生命ノ道ナリ、彼等ハ眞ノ光明ヲ人ニ顯ハシタレモキリストハ自ラ眞ノ光明ナリ、約翰一ノ九ニ曰夫レ凡ノ人ヲ照ス眞ノ光ハ世ニ來レリ、同三ノ三十一ニ曰上ヨリ來ル者ハ萬物ノ上ニアリ、舊約ノ列祖預言者等ハ皆キリストヲ佇望シタリアブラハムハ其日ヲ見ントヲ願ヒ之ヲ見テ喜ビタリ(約翰八ノ五十六)ヤコブハ將ニ死ントシテキリストノ事ヲ謳ヒタリ(創世四十九ノ十)實ニ舊約全書ヲ研究スレバ使徒ペテロガ凡ノ預言者モ彼ニ就テ證セリト云ルコトノ眞ナルヲ知ルベシ(行傳十ノ四十三)
 第二 神タル中保トシテキリストガ神ヲ顯ヘシ給ヘル所ハ凡テ他ノ預言者ノ顯ハシタル所ニ比較シテ更ニ満圓ナリ、蓋他ノ預言者ハ神ノ聖旨ヲ宣ルニ止レモキリストハ神ノ性徳ヲ顯ハ

躬自ラ神ガ罪人ノ罪ヲ赦シ且贖ヒ給フ所ノ大愛ヲ顯ヘシ給
 ヘリ、キリストハ救拯ニ關スル神ノ永遠ノ聖旨ヲ顯ハシ而テ己
 ノ身ヲ以テ人ガ父ニ來ルノ無二ノ道ト做シ給ヘリ、約翰十四ノ
 六ニ曰我ハ途ナリ真ナリ生命ナリ人若シ我ニ由ラザレバ父ノ
 所ニ往クコト能ハズ、馬太十一ノ二十七、二十八ニ曰父ハ我ニ萬
 物ヲ予ヘ給ヘリ父ノ外ニ子ヲ知ル者ナク又子及ビ子ノ顯ヘス
 所ノ者ノ外ニ父ヲ知ル者ナシ凡テ勞レタル者又重ヲ負ヘル者
 ハ我ニ來レ我汝ヲ息マセン

第三 キリストノ榮光ハ其教ノ性質ニ由テ顯ハル、キリストハ
 哲學ヲ以テ教ヲ説カズ權威ヲ以テ説給ヘリ、馬太七ノ二十九ニ
 曰ソハ學者ノ如クナラズ權威ヲ有ル者ノ如ク教ヘ給ヘバナリ、
 又キリストノ教ハ秘密ニアラズシテ明白ナリ且實際ニ適當セ
 リ、其宣タル教ハ凡テ神ノ國ト之ニ屬スル者トノ義務トニ關係

アリ又人生一切ノ事即チ其罪惡困苦一切ノ需用人類ノ起源有
 様終極ニ適當スル者ナリ
 是故ニ眞ニ我儕ノ中保ハ我儕ノ預言者又教師ナリトス、實ニキ
 リストハ是ノ如キ者タラザレバ得ザルナリ何トナレバ我儕先
 ゴ神ノ眞理ヲ知ルニ非レバ豈能ク贖罪ト神國ノ設立ノ事ヲ論
 スルコトヲ得シヤ

第十二章 キリストノ祭司職

我儕ノ中保イモスキリストハ唯預言者タル耳ナラズ亦祭司タ
 リ、何ノ國ヲ問ハズ何ノ世ヲ論ゼズ世界ニ祭司ナル者即チ犧牲
 又ハ其他ノ供物又ハ祈禱又ハ凡テ此等ノ物ヲ捧ゲ以テ神ニ復
 和スルコトヲ職務ト爲セル者アリ、彼等ハ即チ神ト人トノ間ニ立
 テ神ノ怒ヲ避ケ其恩惠ヲ人ニ降サシメシ爲ノ中保人ナリトス、

何ノ國ニ於テモ何ノ世ニ於テ祭司ナル者ノ行ハズハ即チ茲ニ
 天下普通ノ需用アリ而テ人々此方法ヲ以テ之ヲ満足セント試
 ミタル證據ナリ、然ラバ則チ神ノ選民ト神ガ彼等ニ垂レ給ヘル
 其啓示中ニ於テ祭司タル者ノ最モ完全ナル説明アラント豫期
 スルハ當然ノ事ナルベシサテ聖經ノ教ニ由レバ祭司ニ必用ナ
 ル事數ヶ條アリ

第一 祭司ハ人民ノ中ヨリ出テ、神ノ前ニ彼等ヲ代表スルヲ
 要ス、出埃及二十八ノ九ト十二ニ曰汝二ノ葱珩ヲ取テ其上ニイ
 スラエルノ子等ノ名ヲ鐫クベシ云々此二ノ玉ヲエホデソ肩
 帶ノ上ニ付テイスラエルノ子等ノ紀念ノ玉トナラシムベシ即
 チアロンエホバノ前ニ於テ彼等ノ名ヲ其兩ノ肩ニ負テ紀念ト
 ナラシムベシ、又エホデノ胸牌ナル玉ニ關シテ同章二十一節并
 九節ニ左ノ如ク記サレタリ曰其玉ハイスラエルノ子等ノ名ニ

循ヒ其名ノ如クニ之ヲ十二ニスベシ而シテ其十二ノ支派ノ各
 ヲノ名ハ印ヲ刻ル如クニ之ヲ鐫クベシ云々、アロン聖所ニ入
 ル時ハ其胸ニアル審判ノ胸牌ニイスラエルノ子等ノ名ヲ帶テ
 之ヲ其心ノ上ニ置キエホバノ前ニ恒ニ記念トナラシムベシ云
 ヲ、希伯五ノ一ニ曰人ノ中ヨリ選バル、諸ノ祭司ノ長ハ人ノ爲
 ニ神ニ屬クコトヲ任ゼラレテ罪ノ供物ト犧牲ヲ獻ルヲ爲ニ
 スルモノナリ

第二 祭司ハ道德上聖潔ナル者ニシテ且神ニ奉事セン爲ニ聖
 別セラル、ヲ要ス、利未二十一ノ六ト八ニ曰其神ニ對ヒテ聖ク
 アルベク又其神ノ名ヲ瀆スベカラズ彼等ハエホバノ火祭即チ
 其神ノ食物ヲ獻グル者ナレバ聖クアルベキ也、汝彼ヲ以テ聖者
 トスベシ彼ハ汝ノ神エホバノ食物ヲ獻グル者ナレバナリ、汝即
 チ之ヲ聖者トナスベシ其ハ我エホバハ汝等ヲ聖別スル者聖ケ

レバ也、出埃及十九ノ二十二、同三十九ノ三十、歷代上二十三ノ十三參考)

第三 祭司ハ神ノ認可シ且選擇シ給フ者タルヲ要ス然ラザレバ神ニ近クノ權理ナシ、民數十六ノ五ニ曰ヤガテコラト其凡ノ黨類ニ言ケルハ明日エホバ己ノモノハ誰、聖者ハ誰ナルカヲ示シテ其者ヲ己ニ近カセ給ヘン即チ其選ビ給ヘル者ヲ己ニ近カセ給フベシ、希伯五ノ四ニ曰其尊貴ハアロンノ如ク神ノ召ヲ受タル者ニ非レバ自ラ之ヲ取ル者ナシ
蓋祭司ノ要務ニアリ即チ左ノ如シ
一 神ニ贖罪ノ犧牲ヲ獻スル事、歷代上十六ノ四十二日毎日朝暮燔祭ノ壇ノ上ニ在テエホバニ燔祭ヲ獻ケ且凡テ其オスラエルニ命ジタル所ノエホバノ律法ニ記サレシ事ヲ行ハシムベシ、希伯五ノ一二日人ノ中ヨリ選ル、凡テ祭司ノ長ハ人ノ爲ニ神

ニ屬クコヲ任ゼラレテ罪ノ供物ト犧牲ヲ獻ルコトヲスル者ナリ、出埃及二十九章三十三章并民數記二十八章二十九章參考
二 人ノ爲ニ執成ス事、民數記十六ノ四十六ヨリ四十八ニ曰斯テモ―セアロンニ曰ケルハ汝火盤ヲ執リ壇ノ火ヲ之ニ入レ香ヲ其上ニ盛テ速ニ之ヲ會衆ノ中ニ持行キ之ガ爲ニ贖罪ヲ爲セ其ハエホバ震怒ヲ發シ給ヒテ疫病既ニ始リタレバ也、アロン即チモ―セノ命ゼシ如クニ之ヲ執テ會衆ノ中ニ奔セ行キケルニ疫病既ニ民ノ中ニ始リ居タレバ香ヲ焚テ民ノ爲ニ贖罪ヲ爲シ既ニ死ル者ト尙生ル者トノ間ニ立ケレバ疫病止マレリ、路加一ノ八ヨリ十二曰ザカリヤ其班次ニ當テ神ノ前ニ祭司ノ職ヲ行フ時祭司ノ例ニ從ヒ籤ヲ抽テ主ノ殿ニ入り香ヲ燒クコトヲ得、香ヲ燒ケル時集會ノ人々ハ皆外ニ居テ祈レリ、此本文ト默示五ノ八ニ香ヲ盛タル金ノ香爐ヲ執テ羔ノ前ニ俯伏シタリ此香ハ聖

徒等ノ祈禱ナリトアルコトヲ参考スベシ

三 人民ヲ祝福スル事即チ神ガ與ント約束シ給ヘル祝福ヲ職權ヲ以テ宣ル事、民數六ノ二十三ヨリ二十七ニ曰アロント其子等ニ言ヘ汝等斯ノ如クイスラエルノ子孫ヲ祝シテ言フベシ願クハエホバ汝ヲ恵ミ汝ヲ守リ給ヘ、願クハエホバ其面ヲ以テ汝ヲ照シ汝ヲ憐ミ給ヘ、願クハエホバ其面ヲ舉テ汝ヲ眷ミ汝ニ平安ヲ賜ヘト斯クシテ彼等吾名ヲイスラエルノ子孫ニ蒙ラスベシ然ラバ我彼等ヲ恵マン

キリストハ其人民ノ大祭司タル事ハ聖經ニ明文アリ

第一 キリストハ祭司タラントノ預言アリ

(一) 其明文アリ、詩篇百十ノ四ニ曰エホバ尊ヲ立テ聖意ヲカヘサセ給フコトナシ、汝ハオムルキゼテクノ狀ニテ永遠祭司タリト語リタレバ自ラ悔ザルベシ、撒加六ノ十三ニ曰彼ハ其位ニ在テ祭

司トナラン

(二) 其行ハント預言セラレタル所ノ行ハ即チ祭司ノ行ナリ、以賽五十三ノ十二ニ曰彼ハ多人ノ罪ヲ負ヒ愆アル者ノ爲ニ代求給ヘリ(但以九ノ二十四參考)

(三) 舊約ノ祭司職并會幕神殿ノ拜禮式ハキリストノ祭司職ト行爲トヲ預表セン爲ニ神ノ設ケ給ヘル所ナリ、此事ハ希伯來全書殊ニ第五章乃至第七章ニ詳論シタルガキリスト在世中ノ行ノ終レル時ニ神殿ノ儀式ノ廢セラレタルハ即チ其明証ナリトス

第二 凡テ祭司職ニ必要ナル事ハキリストノ身ニ備ハレリ

(一) キリストハ人ノ中ヨリ出テ、神ノ前ニ彼等ヲ代表スル者ナリ、希伯二ノ十六、十七ニ曰實ニ天ノ使等ヲ助スアブツハムノ子孫ヲ助ク是故ニ神ニ屬ル事ニ付テ矜恤ト忠義ナル祭司ノ長トナリテ民ノ罪ヲ贖ハン爲ニ諸事ニ於テ兄弟ノ如クナルハ宜

ナリ(復傳十八ノ十八參考)

(二) キリストハ全ク聖潔ナリ、路加一ノ三十五ニ曰是故ニ汝ガ生ム所ノ聖ナル者ハ神ノ子ト稱ラルベシ、希伯七ノ二十六ニ曰此ノ如キ祭司ノ長ハ我儕ニ當レル者ナリ彼ハ聖潔シテ悪キ事ナク汚穢ナクシテ罪人ニ選レリ且天ヨリモ高シ

(三) キリストハ神ニ選擇嘉納セラレテ神ニ近クノ權理アル者ナリ、約翰十六ノ二十八ニ曰我父ヨリ出デ、世ニ來レリ復世ヲ離レテ父ニ往カン、希伯一ノ三ニ曰彼ハ神ノ榮ノ光輝其質ノ像ニテ己ガ權能ノ言ヲ以テ萬物ヲ扶持チ我儕ノ罪ノ潔ヲ爲シテ上天ニ在ス威光ノ右ニ坐シヌ、同三ノ一ヨリ二ニ曰是故ニ同ク天ノ召ヲ蒙リシ潔キ兄弟ヨモセガ神ノ全家ニ忠義ヲセシ如ク己ヲ立シ者ニ忠義ナル我儕ガ信ズル所ノ使者タル祭司ノ長タルイエスヲ深ク思フベシ同九ノ十一、十二、二十四ニ曰今キリ

スト既ニ至レリ彼ハ來ラントスル善事ノ祭司ノ長ニシテ手ニテ造レル幕屋即チ此世ニ屬ル所ノ者ナラヌ愈リタル大ナル全キ幕屋ニ由リ羊羶ノ血ヲ用非ズ己ガ血ヲ以テ一次聖所ニ入テ永遠贖罪ヲナス事ヲ得タリ云々、キリストハ眞物ノ摸ナル手ニテ造レル聖所ニ入ラズ今ヨリ永ク我儕ノ爲ニ神ノ前ニ顯ハレントテ眞ノ天ニ入ヌ、馬太三ノ十七、約翰八ノ五十四、羅馬八ノ三

參考

第三 キリストハ世ニ在テ祭司ノ職ヲ行ヒ給ヘリ

(一) 普通ノ意義ニ由テキリストハ我儕ノ中保タリ、約翰十四ノ六ニ曰我ハ途ナリ眞理ナリ生命ナリ人若シ我ニ由ラザレバ父ノ所ニ往クヲ能ハズ

(二) キリストハ衆人ノ罪ヲ贖ヒ給ヘリ、希伯九ノ二十六ヨリ二十八ニ曰己ヲ犧牲トナシテ罪ヲ除ンガ爲ニ今世ノ季ニ一次現

ハレタリ云々、キリストモ多人ノ罪ヲ負ハシ爲ニ一次犠牲ト
セラル云々、第一約翰二ノ二ニ曰彼ハ我儕ノ罪ノ挽回ノ祭物ナ
リ唯ニ我儕ノ爲ノミナラズ徧ク世ノ爲ノ祭物ナリ(以弗五ノ二、
希伯十ノ十二参考)

(三) キリストハ其人民ノ爲ニ執成シ給ヘリ、路加二十二ノ三十
二ニ曰汝ノ信仰絶ザルヤウ汝ノ爲ニ祈レリ、約翰十七ノ九ニ曰
我彼等ノ爲ニ祈ル我ガ祈ルハ世ノ爲ニ非ズ汝ノ我ニ賜ヒシ者
ノ爲ナル耳(約翰第十七章参考)

(四) キリストハ自ラ神ノ最大ノ賜ナリ、使徒パウロハ後哥林九
ノ十五ニ彼ヲ指シテ言盡サレメ神ノ賜ト稱シタリ、又キリス
トハ人民ヲ祝福シタリ、路加二十四ノ五十二曰イエス彼等ヲ導
テベタニヤニ至リ手ヲ舉テ彼等ヲ祝ス(馬太五ノ一ヨリ十一參
考)

第四 キリストハ既ニ昇天シタリト雖尙祭司ノ職ヲ行ヒ給フ

(一) キリストハ常ニ其人民ノ爲ニ代求^{トリ}シ給フ、希伯七ノ二十五
ニ曰是故ニ彼ハ己ニ頼テ神ニ來ル者ノ爲ニ代求セントテ恒ニ
生レバ彼等ヲ全ク救ヒ得ル也(羅馬八ノ三十四、希伯九ノ二十四
参考)

(二) キリストハ父ノ前ニ我儕ノ保惠師ナリ、第一約翰二ノ一ニ
曰若シ人罪ヲ犯セバ我儕ノ爲ニ父ノ前ニ保惠師アリ即チ義ナ
ルイエスキリスト云々

(三) キリストハ其人民ヲ體恤シ給フコ完全ナルガ故ニ能ク其
事情ニ隨テ彼等ノ爲ニ代求シ給フ而シテ其代求ハ自ラ父ニ從
ヒ給フ事ニ基キ且父ノ旨ニ適フ事ヲ求メ給フガ故ニ彼等ト彼
等ノ行爲ハ神ニ嘉納セラル、也、希伯二ノ十七、十八ニ曰是故ニ
神ニ屬ル事ニ付テ矜恤ト忠義ナル祭司ノ長トナリテ民ノ罪ヲ

贖ハンガ爲ニ諸事ニ於テ兄弟ノ如クナルハ宜ナリソハ彼自ラ誘ハレテ艱難ヲ受タレバ誘ハル、者ヲ助ケ得ル也、同四ノ十四ヨリ十六ニ曰然レバ我儕ニ雲霧ヲ通テ昇シ大ナル祭司ノ長即チ神ノ子イエスアリ、故ニ我儕信ズル所ノ教ヲ固ク持ツベシ、ソハ我儕ガ荏弱ヲ體恤コト能ハザル祭司ノ長ハ我儕ニ非ズ、彼ハ諸事ニ我儕ノ如ク誘ハレタレド罪ヲ犯サマリキ、是故ニ我儕恤ヲ受ケ機ニ合フ助トナル恩恵ヲ受ン爲ニ憚ラズシテ恩寵ノ座ニ來ルベシ

(四) 是故ニキリストハ全世界ニ爲ニ非ズシテ惟己ノ人民ノ爲ニ代求シ給フ也、約翰十七ノ九ト二十ニ曰我彼等ノ爲ニ祈ル我が祈ルハ世ノ爲ニ非ズ汝ノ我ニ賜ヒシ者ノ爲ナル耳、夫レ彼等ハ汝ノ者ナレバ也云々、我々、彼等ノ爲ニ耳祈ラズ彼等ノ教ニ由テ我ヲ信ズル者ノ爲ニモ祈ル也(約翰十ノ十六參考)

(五) キリストハ其人民ヲ祝シ且之ニ聖靈ヲ予ヘ給フ、詩篇六十八ノ十九ニ曰日々ニ我儕ノ荷ヲ負ヒ給フ我儕ノ救ノ神ハ讚美ベキカナ、約翰十六ノ七ニ曰若シ往ズバ訓慰師汝等ニ來ラシ若シ往カバ彼ヲ汝等ニ遣ラン(行傳二ノ三十三、羅馬五ノ十參考)

(六) 此ノ如ク我儕ノ中保祭司タルキリストハ天ニ在テ我儕ノ爲ニ代求シ給ヒ其遣シ給フ聖靈ハ我儕ノ衷ニ在テ我儕ノ心意ヲ感化シキリストノ事ヲ顯ハシ我儕ノ願望祈禱ヲシテ神ノ聖旨ニ適ハシメ以テ我儕ノ爲ニ代求スル也、約翰十四ノ二十六ニ曰我が名ニ由テ父ノ遣ハサントスル訓慰師即チ聖靈ハ凡ノ事ヲ汝等ニ教ヘ亦我が凡テ汝等ニ言シ事ヲ汝等ニ憶起サシムベシ、羅馬八ノ二十六、二十七ニ曰聖靈モ亦我儕ノ荏弱ヲ助ク、我儕ハ祈ルベキ所ヲ知ラザレド聖靈自ラ言難キノ慨歎ヲ以テ我儕ノ爲ニ祈ル、人ノ心ヲ見給フ者ハ聖靈ノ意ヲモ知レリ、ソハ神ノ

心ニ遵ヒテ聖徒ノ爲ニ祈レバ也

(第五) キリストノ祭司職ニハ特別ノ榮光アリ即チ其榮光ハ左ノ事ニ於テ顯ハル

(一) キリスト自ラニ於テ キリストハ天使ヨリモモ一セヨリモアロント其子等ヨリモ愈レル尊榮ヲ有シ給フ、希伯一ノ四ニ曰彼ガ受シ名ノ天ノ使ノ名ヨリモ愈レル如ク彼等ヨリハ愈レリ、同三ノ三ニ曰ソハ家ヲ作りシ者ノ家ヨリ愈リテ尊榮アルガ如ク彼モモ一セヨリハ愈リテ尊榮ヲ受クベキモノトセラレタリ、同八ノ三ニ曰諸ノ祭司ノ長ノ立ラレタルハ禮物ト犠牲ヲ獻ル爲ナルガ故ニ彼モ亦必ズ獻ル所ノ物アルベシ、夫レアロント其子等ハ人ナレモキリストハ神ノ子ナリ又彼等ハ罪アル者ナレモキリストハ無罪完全ナル者ナリ、希伯五ノ一ヨリ三ニ曰人ノ中ヨリ選バル、諸ノ祭司ノ長ハ人ノ爲ニ神ニ屬クコトヲ任せ

ラレテ罪ノ供物ト犠牲ヲ獻ルコトヲ爲ル者ナリ、己レ自ラ荏弱ニ周ルレバ亦愚ナル迷ヘル者ヲ憐ムコトヲ得ルナリ、是ニ由テ民ノ爲ニナス如ク己ガ爲ニモ罪ノ禮物ヲ獻ケザルヲ得ズ、同七ノ二十六ヨリ二十八ニ曰是ノ如キ祭司ノ長ハ我儕ニ當レル者ナリ、彼ハ聖潔シテ悪キ事ナク汚穢ナクシテ罪人モ遠ザカレリ且天ヨリモ高シ又彼ノ祭司ノ長等ノ如ク先ヅ己ノ罪ノ後民ノ罪ノ爲ニ日毎ニ犠牲ヲ獻グベキ由ナシ、ソハ既ニ一次己ヲ獻テ之ヲ成セバナリ、夫レ律法ハ弱キ人ヲ立テ祭司ノ長トナセリ然ド律法ノ後ノ誓ノ言ハ全キ子ヲ立タリ

(二) 神ノ誓ト聖靈ヲ沃ガル、事ニ由テ聖別セラレ給ヘル事ニ於テ、希伯七ノ二十一、二十二ニ曰彼ノ人々ハ誓ナクシテ祭司トナレド彼ハ誓ヲ以テ祭司トナレリ、是レ主^{カハ}ヲ立テ汝ハメルキセデクノ班ノ如ク窮ナク祭司タリト語レル者ニ由ル、是

ノ如クイエスハ誓ニ非レバ祭司トナラザルホド善キ契約ノ保
証人トナレリ、同一ノ九ニ曰神即チ汝ノ神ハ喜樂ノ膏ヲ以テ汝
ノ侶ヨリモ愈リテ汝ニ沃ゲリ

(三) アロント其子等ハ各數年間祭司ノ職ニ居タレキリスト
ハ永遠不易ノ祭司職アリ、希伯七ノ二十三、二十四ニ曰彼等ハ死
アルニ因テ永ク存ツコト能ハズ、故ニ祭司トナリタル者多カリ
キ、然レドイエスハ窮ナク存ツガ故ニ易ルコトナキ祭司ノ職ヲ
有リ(黙示十三ノ八參考)

(四) キリストガ事給ヘル所ノ聖所ノ榮光ニ於テ、希伯九ノ十
一ト廿四ニ曰今キリスト既ニ至レリ、彼ハ來ラントスル善事ノ
祭司ノ長ニシテ手ニテ造レル幕屋即チ此世ニ處ル所ノ者ナラ
ズ愈リタル大ナル全キ幕屋ニヨリ云々、キリストハ眞ノ物ノ模
ナル手ニテ造レル聖所ニ入ラズ今ヨリ永ク我儕ノ爲ニ神ノ前

ニ顯ハレントテ眞ノ天ニ入ヌ

(五) キリストノ犠牲ハ無量ノ價直アリ、キリストハ即チ己ノ身
ヲ捧ゲタル也、アロント其子等ハ幾回反覆スルモ人民ノ罪惡ヲ
潔ムルコト能ハザル所ノ犠牲ヲ獻ゲキリストノ犠牲ハ天下萬
民ノ罪ヲ贖フノ功德アリ且一回ニシテ足レリ、希伯九ノ二十六
ニ曰己ヲ犠牲トナシテ罪ヲ除カンガ爲ニ今世ノ季ニ一次現ハ
レタリ、同十ノ一ヨリ四ニ曰律法ハ來ラントスル善事ノ影ニシ
テ實ノ形ニ非レバ毎年ニ斷ズ獻ル所ノ祭物ヲ以テ神ニ來ル者
ヲ恒ニ全フスルコト能ハズ、若シ全フスルコトヲ得バ獻ル者一
タビ潔メラレ復罪ヲ覺ヘザルガ故ニ獻ルコトヲ止ザランヤ然
ト年毎ニ此祭ヲナスニ由テ罪ヲ覺ユルヲ現ハル、也、同十ノ十
一ヨリ十四ニ曰諸ノ祭司ハ日ゴトニ立テ勤ヲ爲シ聊カ罪ヲ除
クヲ能ハザル同シ犠牲ヲ屢々獻グ、然ト此人ハ一次罪ノ爲ニ一

ノ儀牲ヲ獻テ窮ナク神ノ右ニ坐シ其敵ヲ承足ト爲シ時ヲ俟リ
 (六) キリストハ王タル祭司ナリ即チ其王位ニ在テ人民ノ爲ニ
 代求シ給フ也、撒加六ノ十三ニ曰彼ハ其位ニ在テ祭司タラント、
 希伯八ノ一、二ニ曰我が云ヘル所ノ肝要ハ是ノ如キ祭司ノ長ノ
 我儕ニ在ルコトナリ、彼ハ天ニ於テ大ナル威光アル者ノ位ノ右
 ニ坐シテ聖所ニ役フ即チ人ノ建ル所ニ非ズ主ノ建給ヘル所ノ
 眞ノ幕屋ナリ
 凡テ此等ノ事ニ於テキリストハ我儕ノ特別ノ榮光アル祭司ナ
 リ、夫レアロント其子等ノ祭司職ハキリストノ祭司職ノ預表ナ
 リト雖其預表ニ二ノ欠典アリ、第一アロント其子等ノ祭司職ハ
 死スル人類ガ數代相變テ繼續スルコトヲ得タリ、第二彼等ハ王
 タル祭司ニ非リキ、然レモ茲ニ亦神ガダビデノ口ヲ以テ示シ給
 ヘル所ノ一ノ稍完全ナル預表アリ、詩篇百十ノ四ニ曰エホバ怒

ヲ立テ聖意ヲカヘサセ給フヲナシ、汝ハメルキセデクノ狀ニ等
 ク永遠ニ祭司タリト、而シテ此メルキセデクノ事ハ希伯七ノ一
 ヨリ三ニ明文アリ曰此メルキセデクハサレムノ王ニシテ至高
 キ神ノ祭司ナリシガアブラハム王等ヲ殺シテ歸リシ時彼アブ
 ラハムヲ迎テ祝セリ、アブラハム之ニ所獲ノ十分ノ一ヲ分タリ、
 先ツ其名ヲ解ケバ義ノ王、次ニサレムノ王ト云フ、コレ即チ平康
 ノ王ナリ、彼ハ父ナク母ナク系圖ナク生ノ始ナク亦終モナシ、神
 ノ子ニ象ラレテ恒ニ祭司タリキト、此メルキセデクハ何人ナリ
 シ乎我儕之ヲ知ラズ但其王且祭司ニシテアブラハムト同時代
 ノ人ナリシヲ知ル耳(創世十四ノ十八以下參考)イスラエルノ祭
 司族タルレビノ族ニ於テハ恒ニ各人ノ系圖誕生ノ年月等
 ヲ明細ニ登記セリ、是レ其祭司職ニ就ク時ニ其血統及ビ年齡等
 ニ就テ律法ニ抵觸スル所ナカラン爲ナリ、希伯七ノ三ニ父母ナ

ク系譜ナク云々トアルハ即チ此記録ヲ指セル者ナリ、蓋彼ハ神
 ガイスラエル人ニ祭司職ニ關スル律法ヲ授ケ給フ教百年前ニ
 生存シタル者ナレバ固ヨリイスラエルノ祭司族ノ系譜ニ其名
 ノ顯ハルベキニ非ズ、彼ハ血統ニ由テ至上ノ神ノ祭司トナリタ
 ルニ非ズ又其職モ繼續シタル者ナシ、是故ニ彼ハ死スル人類ノ
 能スル所ニ於テハ我儕ノ大祭司ノ完全ナル預表ニシテキリス
 トノ永遠不易ニシテ且王タル祭司職ヲ顯ハセル者ナリトス
 前文論シタル所ニ由テキリスト教ノ教師ハ羅馬教會ニ於テ主
 張スルガ如ク神人間ノ祭司タル中保ニ非ルコヲ知ルベシ
 (一) キリストハ獨一無二ノ祭司タル中保ナリ、前提摩二ノ五ニ
 曰夫レ神ハ一位ナリ、又神ト人トノ間ニ一位ノ中保アリ即チ人
 ナルキリストイエスナリト、キリスト降世前ニ於テハ人ニシテ
 眞ノ祭司タル者アルコヲ得ベシト雖其降世後ニ於テハ決シテ

之アル可ラズ且其降世前ト雖唯其職ニ於テ神子キリストノ祭
 司職ヲ預表シタル耳、而シテ此イスラエルノ祭司職ヲ設立セラ
 レタル目的ハキリストニ於テ既ニ成就シタルガ故ニ此職ハ全
 ク廢セラレタル也、希伯十ノ十八ニ曰既ニ此等ノ赦アランニハ
 復罪ノ爲ニ獻ルコナシ

(二) キリストハ我儕ノ爲ニ一切ノ祭司ノ職ヲ行ヒ給フ故ニ苟
 クモ其職ヲ行ハント主張スル者ハキリストノ祭司職ヲ犯ス者
 ナリ、是レ凡テ我儕ノ救主ノ行ノ成就シタル事ト其我儕ノ無二
 ノ中保タルニ堪タルコヲ教フル所ノ聖經ノ本文ニ由テ明白ナ
 リ
 (三) 人タル祭司ハ不用ナリ、聖經ノ教ニ由レバ我儕ハ唯キリス
 トニ由テ神ニ來ルコヲ得ル者ナリ、約翰十四ノ六ニ曰我ハ途ナ
 リ眞理ナリ生命ナリ、人若シ我ニ由ラザレバ父ノ所ニ往クヲ能

ハズ、且我儕ハ自由ニ又直接ニキリストノ所ニ往クヲ得ルコトモ明白ナル教アリ、馬太十一ノ二十八ニ曰凡テ勞レタル者又重ヲ負ル者ハ我ニ來レ我汝等ヲ息マセン、約翰五ノ四十二ニ曰汝等我ガ所ニ生命ヲ得ンガ爲ニ來ルヲ欲ズ、同七ノ三十七ニ曰人若シ渴カバ我ニ來リテ飲メ

(四) 聖經ニ於テキリスト教會ノ役者或ハ其他ノ役員ヲ指シテ祭司ト稱シタル例ナシ但凡テノ信徒ヲ指シテ祭司ト稱シタルコアリキ、前哥林十二ノ二十八、以弗四ノ十一、十二、前提摩三ノ一ヨリ三、前彼得ノ五ノ二等ニキリスト教ノ種々ノ役者及ビ其職務ヲ記載シタルモ更ニ祭司ノ名稱ナク又祭司ノ職ヲ行フベキ教訓ナシ

凡テ信徒タル者ハ何處ニ在ルモキリストト一體タルノ故ヲ以テ均シク祭司ニシテキリストニ由テ自由ニ神ニ近クコトヲ得ル也、

彼等ハ贖罪ノ犧牲ヲ獻セズト雖讚美ト感謝ノ祭物ヲ獻ケ且神ノ命令ニ遵テ萬民ノ爲ニ祈禱ヲ捧ル也、希伯十ノ十九ヨリ二十ニ曰是故ニ兄弟ヨ我儕イエスノ血ニ由テ其我儕ノ爲開キタル新シキ生路ヨリ幔ナル其肉體ヲ過リ憚ラズシテ至聖所ニ入ルコトヲ得且神ノ家ヲ治ル大ナル祭司アレバ我儕眞ノ心ト疑ヲ懷カザル信仰ヲ保チ云々、前彼得二ノ五ト九ニ曰汝等彼ニ來リ活石ノ如ク建ラレテ靈ノ室トナリ又潔キ祭司トナリイエスニ由テ神ニ悦バル、靈ノ祭物ヲ獻グベシ云々、汝等ハ選レタル族王ナル祭司云々、希伯十三ノ十五ニ曰是故ニ我儕彼ニ由テ恒ニ讚美祭物ヲ神ニ獻グベシ即チ其名ヲ頌ル唇ノ果ナリ、前提摩二ノ一二曰我殊ニ勸ム萬人ノ爲ニ願告祈禱懇求感謝セヨ云々(默示一ノ六、五ノ十參考)

第十三章 復和

既ニ我儕ノ中保タルキリストノ行爲ヲ論ズル時ニキリストハ即チ神ニ由テ立ラレタル我儕ノ預言者タリ祭司タリ王タル事ヲ明示シタリ且其ノ我儕ノ預言者タルノ行爲並ニ我儕ノ祭司タルノ行爲モ幾分カ之ヲ明示シタリ是ヨリハ特別ニ其復和ノ行爲ヲ論ゼザル可ラズ此キリストノ祭司タルノ行爲ハ何ノキリスト教神學ニ於テモ最モ緊要ナル部分ヲ占ル者ナリ何トナレバキリストガ降世シ給ヘルハ即チ此行爲ヲ成就センガ爲ニシテ此行爲ハ即チ其世ニ在テ從事シ給ヘル所且其十字架上ノ痛苦ト死ニ由テ成就シタル者ナレバ也
キリストノ事跡中ニ就テ其死ノ事ハ特別ニ明白ニ著ハセリ是ニ由テ之ヲ觀レバ其死ハ其降世ノ目的ヲ達スルニ直接特別ノ効アリシコト知ルベキナリ使徒パウロハキリストノ死ヲ以テ

福音ノ大旨ノ要領トナセリ前哥林二ノ二ニ曰我イエスキリストトト彼ノ十字架ニ釘ラレシ事ノ外ハ汝等ノ中ニ在テ何ヲモ知ルマジト意ヲ定メタレバ也同十五ノ三ニ曰我が汝等ニ傳ヘシハ我が受シ所ノ事ニテ其第一ハ即チ聖書ニ應テキリスト我儕ノ罪ノ爲ニ死云々加拉六ノ十四ニ曰然ド我ニハ惟我儕ノ主イエスキリストノ十字架ノ外ニ誇ル所ナカラシ事ヲ願フ云々前哥林一ノ十八ニハ福音ノ教ヲ十字架ノ教トシ羅馬六ノ三ニハキリスト教ノバプテスマヲキリストノ死ニ合ン爲ノバプテスマト稱シ、腓立三ノ十八ニハ福音ニ敵スル者ヲ十字架ニ敵スル者ト稱シタリ是等ノ本文ニ由テ之ヲ觀レバキリストノ死ハ惟ニ福音中ノ一大事件タルノミナラズ福音教ノ緊要ナル一ヶ條タルコト明白ナリ
イスラエルノ祭司等ハ其行爲終レバ死シタレモキリストハ固

ヨリ死セン爲ニ此世ニ降給ヘルナリ而テ十字架上ニ於テ首ヲ垂レテ「事竟ヌ」ト呼ビ給ヘル時ニハ父ヨリ委托セラレ給ヘル處ノ行爲ノ其死ニ由テ成就シタルコトヲ明言シ給ヘル也

我儕ガ此行爲ヲ觀察スル方向ニ從テ之ニ種々ノ名稱アリ人既ニ罪ヲ犯シテ神ノ怒ヲ蒙リ其性全ク神ヲ離レタル者トシテ考フル時ハキリストノ行爲ヲ復和ト稱ス、特別ニ人ノ罪惡ニ就テ云フ時ニハ償^{ツク}ト稱シ、神ノ怒ニ就テ云フ時ハ寛^{ユル}ト稱シ、人類ガ罪ニ由テ奴隸トナレル者トシテ考フル時ハ之ヲ贖罪ト稱ス、又人類ガ犯シタル所ノ神ノ律法ト人ノ刑罰ヲ要求スル所ノ神ノ無限ナル公義ト眞理ニ就テ云フ時ハ之ヲ満足ト稱ス、即チ神ノ律法ノ要求ヲ全ク満足スルノ義ナリ、然レモ復和ト云フ語ノ意義ヲ擴充スレバ凡テ他ノ名稱ニ含ム所ノ意義ヲ含ムガ故ニ此語ヲ以テ此章ノ標題トナセリ

按ズルニ聖經ニ載スル所ノ復和ノ教左ノ如シ

(一) キリストノ死ハ神人兩性ヲ兼有シタル我儕ノ中保ガ自ラ甘ンシテ獻ゲタル所ノ贖罪ノ犠牲ナリ、夫レキリストハ恩惠ノ契約ニ由テ其人民ノ首又代表者タルガ故ニ此犠牲ニ由テ凡テ神ノ律法ト公義ノ要求ヲ全ク満足セシメテ彼等ノ罪ノ爲ニ受ベキ刑罰ヲ免レシメタル也(二) 然レモキリストノ死ハ其在世中ノ完全ナル從順ト分離スベカラズ而テ其生ト死ト相合シテ神ノ律法ガ凡テ其人民ニツキ要求スル所ヲ満足セシムルニ堪タル義トナルナリ、是レ唯彼等ノ受ベキ刑罰ノ爲ノミニ非ズ彼等ノ盡スベキ從順ノ爲ナリ、故ニ神ハ彼等ヲキリストノ爲ニ義人トシテ受納レ給フ也(三) 是故ニキリストノ復和ノ犠牲ハ人ノ罪ニ就テハ償タリ神ノ怒ニ就テハ寛タリ且代贖ノ性質アリ即チキリスト其人民ニ代リテ之ヲ行ヒ給ヘルナリ、又此犠牲ハ完全

ノ犠牲ナリ
 今聖經ニ由テ之ヲ證スルコト左ノ如シ
 第一 キリストノ死ハ贖罪ノ犠牲ナリ、夫レ贖罪ノ爲ニ禮物ヲ
 供ヘ犠牲ヲ獻ズルハ祭司ノ本職ナリトス(希伯五ノ一)然リ而テ
 キリストハ己ノ身ヲ獻グタル時ニ之ヲ爲給ヘリトアリ、希伯七
 ノ二十六、二十七ニ曰此ノ如キ祭司ノ長ハ我儕ニ當レル者ナリ、
 彼ハ潔クシテ悪キコトナク穢ナクシテ罪人ニ遠レリ且天ヨリ
 モ高シ又彼ノ祭司ノ長等ノ如ク先ヅ己ノ罪ノ後民ノ罪ノ爲ニ
 日毎ニ犠牲ヲ獻グベキ由ナシトハ既ニ一次己ヲ獻テ之ヲ成セ
 バナリ(希伯九ノ十一、十二參考)
 是ニ由テ之ヲ觀レバキリストハ惟道ノ爲ニ死シタルニ非ズ又
 例ヲ示サン爲ニ非ズ或ハ又之ニ由テ人心ヲ教化セン爲ニモ非
 ズ其人民ノ大祭司トシテ彼等ノ罪ノ爲ニ己ヲ犠牲ニ獻ゲタル

也

聖經中ニハ明白ニキリストヲ犠牲又ハ罪祭ト做ス所アリ、バプ
 テスマノヨハ子ノ語ノ如キモ其一例トナスベシ、彼曰世ノ罪ヲ
 負フ神ノ羔ヲ見ヨト(約翰一ノ二十九)但キリストヲ我儕ノ罪ノ
 寬ト稱シタル所ハ後ニ至テ舉述スベシ
 前哥林五ノ七ニ曰夫レ我儕ノ逾越即チキリストハ既ニ宰ラレ
 タリト、或人ノ説ニ逾越ハ犠牲ニ非ズト云ヘリ然レモ明白ニ之
 ヲ犠牲ト稱シタル所出埃及記ニ三回(十二ノ二十六ト二十七、二
 十三ノ十七ト十八、三十四ノ二十四ト二十五)復傳律例十六ノ一
 ヲリ六ニ四回アリ且此祭物ハ他ノ犠牲ノ如ク最初ニハ會幕ニ
 於テ獻シ其後ハ神殿ニ於テ獻シタリ且犠牲ノ血ヲ流シテ神ニ
 獻ゲ祭司之ヲ祭壇ノ上ニ灌ギタリ、逾越ハエジプトニ於テ未ダ
 他ノ犠牲ノ設ケラレザル前ニ設ケラレタル者ナレモ其時ハ其

血ヲ凡テイスラエル人ノ家ノ門ノ楣ト門柱ニ灌デ以テイスラ
 エル人ノ首出者ト主ノ使トノ間ニ立シメタリ、主ノ使ハ人類畜
 類ノ別ナクエシブト國中ノ首出者ヲ殺サン爲ニ遣ハサレタリ
 シガ只門柱ニ犠牲ノ血アル家ハ之ヲ逾越シタリ、是レ即テ犠牲
 ノ血ガ滅亡使ノ行爲ヲ休メタル者ナリ、然ラバ逾越ヲ以テ寛ノ
 犠牲トナスベキハ勿論ニシテパウロガキリストヲ我儕ノ逾越
 ト稱シタルハ即チ其死ハ寛ノ死タルコトヲ教ヘン爲ナラザル
 ヲ得ンヤ
 以弗五ノ二ニ曰愛ヲ以テ行ヒキリストノ我儕ニ代テ己ヲ供物
 トナシ犠牲トナシテ神ノ前ニ馨香アラシメントテ獻ゲ給ヒシ
 ガ如クスベシ
 此所ニハキリストハ我儕ヲ愛スルガ爲ニ己ノ身ヲ捨テ、我儕
 ノ爲ニ寛ノ犠牲トナセリト云リ、蓋馨香アラシメントハ創世八

ノ二十一ノ語ヲ指ス者ナラン、彼ノ所ニハノワガ諸ノ潔キ獸ト
 潔キ鳥トヲ犠牲ニ獻ゲタル後ニエホバ其馨香ヲ開給ヒテエホ
 バ其意ニ謂給ヒケルハ我再ビ人ノ故ニ因テ地ヲ誼フコトヲセ
 シトアリ(馨香ヲ聞クトハ其犠牲ヲ受ルト云フ義ナリ)
 前彼得一ノ十八ト十九ニ曰ソハ汝等贖ハレテ先祖ヨリ傳ハリ
 タル徒^レキ行ヨリ離レシハ銀ヤ金ノ如キ壞ル物ニ非ズ疵ナク汚
 ナキ羔ノ如キキリストノ寶血ニ由ルコトヲ知レバナリト、是レ
 明白ニイスラエル人ノ犠牲ヲ指ル者ニシテ恐クハ逾越ヲ指ル
 者ナリ、イスラエル人ガエシブトニ在テ滅亡ヲ免ル、ニ逾越ノ
 羔ノ血ヲ要セシガ如ク世ノ人ガ神ノ義罰ヲ免ル、ニモ亦キリ
 ストノ寶血ヲ要スルナリ
 黙示一ノ五ト六ニ曰願クハ我儕ヲ愛シ其血ヲ以テ我儕ノ罪ヲ
 洗濯メ我儕ヲシテ王トナシ祭司トナシテ其父ノ神ニ屬セシム

ル者ニ榮光ト權力世々窮ナクアラシムコトヲ、同五ノ九ト十二日
 ヲハ汝曾テ殺サレ其血ヲ以テ諸族諸音諸民諸國ノ中ヨリ我儕
 ヲ贖ヒテ神ニ歸セシメ且我儕ノ神ノ爲ニ我儕ヲ王トナシ祭司
 トナシ給ヘバナリ彼等ハ地ニ王タリ、同七ノ十四ト十五ニ日彼
 等ハ大ナル艱難ヲ經テ來レリ曾テ羔ノ血ニテ其衣ヲ洗ヒ之ヲ
 白クセルモノナリ、此故ニ彼等ハ神ノ寶位ノ前ニ在リ且神ノ殿
 ニテ晝夜神ニ事フ、寶位ニ坐スル者ハ彼等ノ中ニ居給フベシ、是
 等ノ本文ハ犧牲ヲ指ス言語ニ用ルコトヲ得ベキ耳ナラズ罪ヲ
 洗潔ムルト云ヒ且神ガ其人民ヲ受ケ給フコト、彼等ニ權威榮
 光ヲ與ヘラル、コトヲ説キ而テ是等ハ皆キリストノ寛ノ犧牲
 ニ由テ彼等ニ與ヘラル、者トナセリ
 希伯九ノ十二ヨリ十四ニ日羊贖ノ血ヲ用非ズ己ガ血ヲ以テ一
 次聖所ニ入テ永遠ノ贖ヲナスコトヲ得タリ、若シ汚穢ニ漚テ牛

及ビ羊ノ血又焚ル牝贖ノ灰ナド肉体ヲ潔ムルコトヲ得バ況テ
 永遠ノ靈ニヨリ瑕ナクシテ己ヲ神ニ獻シキリストノ血ハ汝等
 ニ活神ヲ祭ラセンガ爲ニ死ノ行ヲ改テ其心ヲ潔ムルコトヲ爲
 ザランヤ、希伯九ノ二十二ヨリ二十八ニ日凡ソ律法ニ循ニ諸ノ
 物ハ血ヲ以テ潔メラル血ヲ流スコト有ザレバ赦サル、事ナシ、
 是故ニ天ニアル者ニ象リタル物ハ必ズ此等ヲ以テ潔メラレシ
 カド天ニ在ル者ハ此等ヨリモ愈リタル犧牲ヲ以テ潔メラルベ
 キ也、キリストハ眞ノ物ノ模ナル手ニテ造レル聖所ニ入ラズ、今
 ヨリ永ク我儕ノ爲ニ神ノ前ニ顯ハレントテ眞ノ天ニ入ヌ、又彼
 ハ祭司ノ長ノ年毎ニ他ノ物ノ血ヲ以テ聖所ニ入ルゴトク屢々
 己ヲ獻ルコトヲセズ、若シ然ラズバ彼創世ヨリ以來屢々苦難ヲ
 受ベキナリ、然ド己ヲ犧牲トナレテ罪ヲ除カンガ爲ニ今世ノ季
 ニ一次顯ハレタリ、一次死ルコト、死テ審判ヲ受ルコト、ハ人

ニ定レルコトナリ斯ク、キリストモ多ノ人ノ罪ヲ負ンガ爲ニ一
 次犠牲トセラル彼ハ復罪ヲ負フコトナク己ヲ望ム者ニ再ビ顯
 ハレテ救ヲ施スベシ(希伯七ノ廿六、廿七、同十ノ十一ヨリ十四參
 考)
 希伯來書著者ハキリストノ死ニハユダヤ人等ガ彼等ノ犠牲ニ
 屬スルト思惟シタルト同種類ノ効力アルコトヲ明言スルナリ、
 但キリストノ死ハ舊約ノ犠牲ニ比シテ其適用ノ區域ト其結果
 ノ美妙永久ナル事ニ於テ無限ニ愈レル者トナセリ、即チキリス
 トノ血ハ一次罪ノ爲ニ獻ゲタル犠牲ニシテ永遠効力アル者又
 重複スルコトヲ要セザル者、惟肉ヲ潔ルノミナラズ心ヲ潔ムル
 ノ効力アル者、罪ヲ除去ル者、永遠ノ贖ヲ得ル者、潔メラル、者ヲ
 永遠ニ全フスル者トナセリ
 希伯來書中ノ此等ノ本文並凡テ此種類ノ本文ノ切要ヲ感ズル

ニハ當時ユダヤ人モ其他ノ國民モ各其拜スル所ノ神ニ犠牲ヲ
 獻ジテ以テ其震怒ヲ寬ムルノ慣習アリシコトヲ知ラザルベカ
 ラズ、新約書ノ著ハサレタル時ニモ此慣習ハ一般ニ行ハレ世人
 ノ詳知スル所ニシテ諸國ニ於テ此等ノ犠牲ヲ指シテ用非タル
 特別ノ詞アリキ、而シテ新約書ニキリストノ死ヲ指シテ此詞ヲ
 用非テ其用方ノ通常ニ異ナルコトヲ説カザル以上ハキリスト
 ノ死ハ即チ贖罪ノ犠牲タルコトヲ教フルト爲スヲ以テ至當ノ
 見解トス

此犠牲的ノ詞ヲキリストニ適用シタルハ譬喩ニ過ズト云フ輩
 ニ對シテハ我儕ハ左ノ如ク答フルナリ(一)此問題タルヤ此詞ハ
 譬喩ノ語ナルヤ否ヤト云フニ非ズ、其意味如何ト云フニアリ、縱
 令譬喩ノ詞トスルモ其意味ナキヲ得ズ、而テ犠牲ト云ヒ罪祭ト
 云ヒ贖罪ト云フ詞ニシテキリストノ死ノ眞性ヲ表スルニ足ラ

ズトセバ反對論者ハ其理由ヲ明示セザルベカラズ(二)イスラエ
 ル人中ニ於テハ犠牲ヲ獻ジテ神ト復和スルコトハ舊約時代ニ
 於テ最モ緊要ノ一事タリキ、故ニ若シ福音ノ宣傳ニ於テモ此事
 ニ之ト均シキ緊要アルニ非レバ使徒及ビ其他ノ人ガ救主ノ苦
 難ト死トヲ表スル時ニ此ノ如キ詞ヲ用ユベキ所以アラザル也
 (三)加之新約書著者等ハ單ニ犠牲的ノ詞ヲ用ルノミナラズ十字
 架上ニ獻ゲラレタル犠牲ト古ノイスラエル人等ガ獻ゲタル犠
 牲トノ異同ヲ論シ以テ此等ノ詞ヲ用ユル所以ヲ説キタリ、例ヘ
 ババプテスマヨハチガキリストヲ指シテ神ノ羔ヲ見ヨト告ル
 時ニ世ノ罪ヲ負フト云フ語ヲ加ヘタルハ即チ彼ガ此犠牲的ノ
 詞ヲ用タル所以ヲ表ハシタル也又キリストガシナイ山ニ於テ
 舊約ノ立ラレタル時ノ犠牲ノ事ヲ引キ己ノ血ヲ指シテ是レ即
 チ新約ノ血ナリト告ル時ニ多ノ人ノ罪ヲ赦サレン爲ニ流ス所

ナリト云ヒテ其意味ヲ顯ハシ給ヘリ(羅馬三ノ二十五ト二十六、
 第一約翰二ノ一ト二、希伯七ノ二十七、同九ノ九ト十三、十四ト二
 十六ト二十八、同十ノ十四參考)

然ラバキリストノ死ハ罪ノ爲ノ犠牲ナリト云フハ譬喩ノ詞ニ
 非ズシテ實事ヲ指セル者ナリ、即チキリストハ一次十字架上ニ
 獻ゲラレタル犠牲ニシテ惟ニ此世ノ生命ヲ潔ムルノミナラズ
 心ヲ潔メ且凡テ之ニ依頼スル者ニハ永遠ノ贖ヲ得セシムルノ
 効能アル者ナリト知ルベシ

第二 此犠牲ハ神人兩性ヲ兼有シタル我儕ノ中保ガ自ラ甘ン
 ジテ獻ゲタル者ナリ、夫レキリストハ一身ニ於テ祭司ト犠牲ト
 ヲ兼ル者ナリ、キリストハ己ヲ獻ゲタリ、約翰十ノ十七ト十八ニ
 曰我父我ヲ愛スソハ我再ビ命ヲ得ンガ爲ニ命ヲ捨ルガ故ナリ、
 我ヨリ之ヲ奪フ者ナシ我自ラ之ヲ捨ルナリ、我之ヲ捨ルノ權ア

リ亦能ク之ヲ得ルノ權アリ、我父ヨリ我此命令ヲ受タリト、キリ
 ストガ神人兩性ヲ兼有シ給ヘルコト其贖罪ノ行爲トノ關係ニ
 就テハ希伯十ノ五ヨリ十二左ノ明文アリ曰是故ニ彼世ニ臨ル
 時曰ケルハ汝犧牲ト禮物ヲ好マズ、唯我ガ爲ニ肉體ヲ備フ、汝燔
 祭ト罪祭トヲ悦バス、其時我曰ケルハ神ヨ我汝ノ旨ヲ行ハント
 テ來ル即チ我ニ就テ書ニ錄サレタリ、先ニハ犧牲ト祭物ト燔祭
 ト罪祭即チ律法ニ循テ獻ル者ヲ欲マズ又悦バズト云ヒ後ニハ
 神ヨ我汝ノ旨ヲ行ハントテ來レリト云ヒ其後ナル者ヲ立ン爲
 ニ其先ナル者ヲ除ケリ、此旨ニ適ヒテ我儕ハ潔メラル是ハイエ
 スキリストノ一次己ガ肉體ヲ獻ゲシニ由テナリト、此我ガ爲ニ
 肉體ヲ備フト云ヒ又神ヨ我汝ノ旨ヲ行ハントテ來レリト云フ
 言ニ由テ神ノ子ハ降世ノ先ヨリ中保タリシコトヲ知ルベシ、然
 リ而テ凡テ律法ニ循テ獻ケタル犧牲禮物ガ能シアタハザリシ

所ノ事ヲ爲ンガ爲ニ神ノ子ガ人ト成テ世ニ降臨シ給フコトハ
 神ノ聖旨ニ於テ預メ定メラレ居タル也、而シテキリストハ唯人
 タルノミナラズ神タルガ故ニ其犧牲ニハ神ト人トヲ復和セシ
 ムルニ足ルノ尊榮權能アル也
 第三 此犧牲ニ由テキリストハ恩惠ノ契約ニ於テ父ト約束シ
 タル事ヲ成就シ給ヘリ、我儕ノ既ニ論ジタルガ如ク救世ノ道ハ
 契約ノ形ニ於テ立ラレ其對手ハ即チ父ナル神ト子ナル神トナ
 ルガ故ニ(第一章第二章)キリストノ贖罪ト恩惠ノ契約トノ關係
 ヲ記應スルコト必要ナリ何トナレバ此關係ニ由テキリストノ
 死ハ即チ神ノ定ニ因ルコト顯ハルレバ也、夫レキリストノ死シ
 給ヘルハ自ラ死スルコトヲ諾シタルガ故ニシテ又自ラ約束シ
 タル目的ヲ達センガ爲ナリ、而シテ其目的ハ即チ其人民ノ一人
 トナリテ彼等ガ自ラ爲シ能ハザル所ノ事ヲ彼等ノ爲ニ爲シテ

以テ之ヲ救フニアリ、蓋彼等ハ神ヲ己ニ復和セシムルヲ能ハズ
 又自ラ神ニ復和スルコト能ハズ己ノ罪ノ罰ヲ負フテ尙生命ヲ
 保ツコト能ハズ神ノ律法ヲ全ク守テ永生ヲ得ルコト能ハザル者
 ナリ、然レモ恩恵ノ契約ノ中保タルキリストハ彼等ノ爲ニ凡テ
 此等ノ事ヲ爲サント父ナル神ト約束シ給ヒシ也、我儕若シキリ
 ストノ贖罪ノ行爲ト恩恵ノ契約ノ關係ヲ記慮セバ此不思議ナ
 ル救世ノ道ハ即チ神ノ無限ナル愛ニ基クコトヲ知ルベシ、約翰
 三ノ十六ニ曰夫レ神ハ其生給ヘル獨子ヲ賜フホドニ世ノ人ヲ
 愛シ給ヘリ、此ハ凡テ彼ヲ信ズル者ニ亡ルコトナクシテ永生ヲ
 受シメンガ爲ナリ、羅馬五ノ八ニ曰然レドキリストハ我儕ノ尙
 罪人タル時我儕ノ爲ニ死給ヘリ、神ハ之ニ由テ其愛ヲ彰ハシ給
 フ、同八ノ三十二ニ曰己ノ子ヲ惜ズシテ我儕凡ノ爲ニ之ヲ付セ
 ル者ハ豈彼ニ添テ萬物ヲモ我儕ニ賜ハザランヤ、第一約翰四ノ

九ト十二曰神ハ其生給ヘル獨子ヲ世ニ遣ハシ我儕ヲシテ彼ニ
 由テ生ヲ得シム、是ニ於テ神ノ愛我儕ニ顯ハレタリ、我儕神ヲ愛
 スルニ非ズ、神我儕ヲ愛シ我儕ノ罪ノ爲ニ其子ヲ遣ハシテ挽回
 ノ祭物トセリ、是レ即チ愛也、蓋此等ノ本文ハ皆キリストノ中保
 ノ行爲ト苦難ハ其父ノ大愛ニ基クコトヲ顯ハス者ナリ、且之ニ
 由テ神ガ我儕ヲ愛シ給フハキリスト我儕ノ爲ニ死給ヘル故ニ
 非ズシテ神我儕ヲ愛シ給フガ故ニキリスト我儕ノ爲ニ死給ヒ
 シコト明白ナリ、且キリストノ苦難ハ神ガ罪人ヲ救ハント欲シ
 給フノ結果ニシテ其原因ニ非ルコトモ亦明白ナリ、贖罪ノ犧牲
 ハ人ノ罪ノ爲ニ必要ナリキ、人既ニ神ニ對シテ罪ヲ犯シタルガ
 故ニ神ハ無限ノ慈愛ヲ以テ其子ヲシテ其罪ヲ贖ハシメタル也
 第四 キリストハ此犧牲ニ由テ凡テ神ノ律法ト公義ガ人類ノ
 罪惡ニ對シテ要求スル所ヲ満足セシメタリ

夫レ人ノ第一最大ノ必要ハ神ト復和スルノ必要ナリ、其他ニモ種々ノ必要アリト雖此必要ヲ以テ第一最大トス、元來人ハ神ト交通セン爲ニ造ラレタル者ナルニ罪ニ由テ其交通ハ破レタリ、既ニ神ヨリ離レタルガ故ニ至上最大ノ幸福ヨリ離レ而シテ罪人トシテ永死ニ陥ルノ恐レアリ、是故ニ人ハ先ヅ第一ニ神ト復和スルヲ要スル者也

然レ此復和ハ人罪ノ償ニ基カズシテ之アリト思惟スベカラズ、是レ上古ヨリ人類ガ贖罪ノ犠牲ト祭司ノ中保トノ必要ヲ感シタル實事ニ由テモ彰ハル、也、加之ナラズ聖經ニモ血ヲ流スコト非ザレバ赦サル、コトナシトノ明文アリ(希伯九ノ二十二)神ハ既ニ罪ハ必ズ罰スヘシト宣ベ給ヘリ、然ラバ即チ其公義ノミナラズ其眞實ニ於テモ罪人自ラ其罰ヲ負フカ或ハ神ガ之ニ代ルコトヲ許シ給フ所ノ者其罰ヲ負ハザル可ラザル也(第四章

三節參考)是故ニキリストノ苦難ト死ハ人ノ罪ノ償ナリ夫レ償ハ凡テ犠牲ノ基ク所ノ主意ニシテ凡テ犠牲ハ人ノ罪ヲ償ヒ神ノ震怒ヲ寛ン爲ノ主意ニ基カザル者ナシ、キリストノ死ハ即チ人ノ罪ヲ償ハン爲タル事ハ其死ノ性質ト結果トヲ表スル所ノ許多ノ本文ニ由テ明白ナリ

(一) キリストノ苦難ト死ニ由テ我儕ノ罪ノ除カレ且我儕ガ罪ノ爲ニ受クベキ罰ヲ免カル、事ヲ示ス所ノ本文アリ
約翰一ノ二十九ニ曰世ノ罪ヲ負フ神ノ羔ヲ視ヨ、此處ニキリストヲ指シテ神ノ羔ト稱シタルハ犠牲ノ意タルコト疑ヲ容レズ
(前彼得一ノ十九、默示五ノ九)ヨハ子ノ意若シキリストハ其教訓若クハ約束若クハ模範ニ由テ世ノ罪惡ヲ洗滌セントスト云フニアラバ神ノ羔ト云フヨリモ世ノ光ヲ視ヨ若クハ義ヲ教フル者ヲ視ヨトコソ云フベキナレ、然レ此然カセズシテ神殿ニ於テ

犠牲ヲ獻ズルコトヲ詳知スルユダヤ人等ニ向テ世ノ罪ヲ負フ
 神ノ羔ヲ祝ヨト云ヘリ、之ヲ觀レバキリストハ己ノ身ヲ犠牲ト
 シテ人ノ罪ヲ償ハントスル者ナリトノ意ニ解セザルヲ得ザル
 也
 希伯九ノ二十六ニ曰然下己ヲ犠牲トナシテ罪ヲ除カンガ爲ニ
 今世ノ季ニ一次顯ハレタリ、此處ニ謂フ所ノ「罪ヲ除ク」トハ世ノ
 惡習或ハ罪惡ノ勢力ヲ除クノ意タルヲ得ズ何トナレバ是レ其
 福音ノ宣傳ト聖靈ノ働ニ由テ常ニ爲ス所ナレバ也、此ニ謂フ所
 ハ何カ其一次爲セン所ノ者ニシテ罪ノ刑罰ヲ除クノ意タラザ
 ルヲ得ザル也、約翰三ノ十四ヨリ十七ニ曰「モ―セ野ニ蛇ヲ舉シ
 如ク人ノ子モ舉ラルベシ、凡テ之ヲ信ズル者ニ亡ルコトナクシ
 テ永生ヲ受シ」ンガ爲ナリ、夫レ神ハ其生給ヘル獨子ヲ賜フホ
 トニ世ノ人ヲ愛シ給ヘリ、此ハ彼ヲ信ズル者ニ亡ルコトナクシ

テ永生ヲ受シメンガ爲ナリ、羅馬八ノ一ト三、四ニ曰是故ニイエ
 スキリストニ在ル者ハ罪セラル、コトナシ夫レ律法ハ肉ニ由
 テ弱ク其能ハザル所ヲ神ハ爲シ給ヘリ、即チ己ノ子ヲ罪ノ肉ノ
 狀トナレテ罪ノ爲ニ遣ハシ其肉ニ於テ罪ヲ罰シヌ、夫レ律法ノ
 義ハ肉ニ從ハテ靈ニ從ヒテ行フ我儕ニ成就セン爲ナリ
 第一約翰一ノ七ニ曰其子イエスキリストノ血凡ノ罪ヨリ我儕
 ヲ潔ム、或人ノ説ニ曰是レ道德上ニ於テ罪ノ惡習ヨリ我儕ヲ潔
 ルノ意ナリト、然レモキリストノ血ハ犠牲ニ於テ流サレタル血
 ナリ、故ニ之ニ由テ直ニ得ル所ノ利益ハ即チ罪ノ赦ナリ、加之ナ
 ラズ如何ナル信者ト雖其世ニ在ル中ハ未ダ凡ノ罪ノ汚穢ヨリ
 潔メラレタリト云フコト能ハザル也(第一約翰一ノ八ト九)
 馬太二十六ノ二十八ニ曰是レ新約ノ我血ニシテ罪ヲ赦サント
 テ多ノ人ノ爲ニ流ス所ノ者也、此語ハ上ニ引キタルバプテスマ

ヨハ子ノ語、如ク神殿ニ於テ罪ノ爲ニ犠牲ヲ獻ズル事ト神ガ
 シナイ山ニ於テイスラエル人ト契約ヲ立ル時ニ犠牲ニ由テ之
 ヲ確定シタル事(出埃及二十四ノ八)ヲ熟知セル者ニ向テ述ラレ
 タル者ニシテ血ヲ流ス事トハ即チ神ガモーセニ由テ命ジタル
 所ノ犠牲ト其類ハ同シテ其効力ハ遠カニ廣大ナル所ノ贖罪ノ
 犠牲ノ意義タラザルヲ得ザル也(路加二十四ノ四十六、四十七、行
 傳十ノ四十三、同十三ノ三十八、三十九、以弗一ノ六ト七、哥羅一ノ
 十三ト十四、黙示一ノ五ト六參考)
 此等本文ニ由テキリストニ我儕ノ罪ヲ除キ且其赦免ヲ得テ神
 ノ義罰ヨリ我儕ヲ救給フ事ヲ知ルベシ、即チキリストハ我儕ノ
 罪ヲ償フコト且之ヲ償フニ己ノ教ノ美妙或ハ言行ノ純潔或ハ約
 束ノ貴重ナルヲ以テセズ己ノ血ヲ流シ「己ヲ犠牲」ニシテ其罪ヲ
 償ヒタル也

(二)

キリストヲ指シテ明白ニ罪ノ挽回ノ祭物ト稱シタル所アリ、此等ノ本文ハ即チ前ニ講究シタルト同一ノ真理ヲ示ス者ナリ
 第一約翰二ノ一ト二ニ曰我小子ヨ我此等ノ事ヲ書贈ルハ汝等
 ヲシテ罪ヲ犯スコト莫ラシメン爲ナリ、若シ人罪ヲ犯セバ我儕
 ノ爲ニ父ノ前ニ保惠師アリ即チ義ナルイエスキリスト彼ハ我
 儕ノ罪ノ挽回ノ祭物ナリ、唯ニ我儕ノ爲ノミナラズ徧ク世ノ爲
 ノ挽回ノ祭物ナリ、同四ノ十二曰我儕神ヲ愛スルニ非ズ神我儕
 ヲ愛シ我儕ノ罪ノ爲ニ其子ヲ遣ハシテ挽回ノ祭物トセリ是レ
 即チ愛ナリ、羅馬三ノ二十五、二十六ニ曰神ハ忍テ既往ノ罪ヲ寬
 容ニ爲給シカド其義ヲ彰ハサントテイエスヲ立テ、挽回ノ祭
 物トナセリ、即チ其血ヲ信ズル者ノ挽回ノ祭物タル也、神ハイエ
 スヲ信ズル者ヲ義トスルトモ尙自ラ義タラン爲ニ今其義ヲ彰

ハサントス
 夫レ挽回ノ祭物トハ神又ハ人ノ怒ヲ除キ其恩寵ヲ挽回セン爲
 ニ神又ハ人ニ對シテ或事ヲ爲シ又ハ或物ヲ與フルノ義ナリ是
 故ニキリストヲ指シテ挽回ノ祭物ト云フ時ハキリストハ神ニ
 對スル吾人ノ仇恨ヲ除ク者ナリト解スルコト能ハズ何トナレ
 バ第一約翰二ノ一ニモキリストヲ指シテ我儕ノ爲ニ父ノ前ニ
 保惠師アリト云ヘリ、然ラバ其除クベキ所ノ怒ハ人ノ怒ニ非ズ
 シテ父ノ怒ナリト知ラル、加之ナラズ此等ノ本文ニ由テキリス
 トハ我儕ノ罪。ノ爲ノ挽回ノ祭物タルコト明白ニシテ神ト我儕
 トノ間ノ親睦ヲ妨ル所ノ者ハ我儕ノ罪ニシテ唯ニ此罪ヲ除ク
 ベキノミナラズ我儕ノ罪ニ對スル神ノ義怒ヲモ除クノ必要モ
 亦明白ナリトス
 是故ニキリストハ「我儕ノ罪ノ爲ノ挽回ノ祭物ナリ」トアリ又神

ハイエスヲ立テ其血ヲ信ズル者ノ挽回ノ祭物トナセリトアル
 ヲ見レバ神ハ人類ヲ愛スルガ故ニキリストノ從順ト死トヲ以
 テ凡テ其律法ノ我儕ニ對シテ要求スル所ヲ満足スル者トナシ
 テ其震怒ヲ息メ我儕ト復和シテイエスヲ信ズル者ヲ義トスル
 モ尙自ラ義タルコトヲ顯ハシ給フ也

(三) 罪人ノ神ト復和スルハ即チキリストノ苦難ニ因ルト明言
 スル所アリ

羅馬五ノ十、十一ニ曰若シ我儕敵タリシ時ニ其子ノ死ニ由テ神
 ニ和グコトヲ得タランニハ況テ和ヲ得タル今其生ルニ由テ救ハ
 ル、コトヲ得ザランヤ、惟是レ耳ナラズ我儕ニ和ヲ得サセ給ヒ
 シ我主イエスキリストニ由テ亦神ヲ喜ベリ、曾テ不和タリシ者
 二人相和睦ストハ即チ双方ニ於テ仇恨ノ心ヲ去テ相親ムノ義
 ナリ、然レ或時ハ惟一方ノ心ニ於テ此ノ如キ變化ノ生シタル

コトヲ指シテ此語ヲ用ルコトアルガ故ニ此等ノ本文ニ所謂挽回トハ誰ノ挽回ナルヤ其挽回メラル、者ハ神ナルカ將タ人ナルカトノ問題アリ、蓋上ニ引タル語ノ直ニ前ノ節(九節)ニ由テ其挽回メラル、所ノ者ハ人ニ非ズシテ神タルコト明白ナリ、即チ日今其血ニ由テ我儕義トセラシムレバ況テ彼ニ由テ怒ヨリ救ハル、コトナカラシヤト、蓋十節ノ其子ノ死ニ由テ神ニ和グト云フ事ハ即チ九節ノ其血ニ由テ義トセラル、ト云フ事ト同義タラザル可ラズ、縱令全ク同義ナラズトスルモ其中ニ此意ヲ含有セザルベカラズ、然レモキリストノ血ニ由テ義トセラル、トハ神ニ對シテ我儕ノ心情ノ變化スル事ヲ指スニ非ズシテ神ガ我儕ノ律法ノ下ニアル者トシテ遇スル方法ニ於テ變化ヲ生ジタルコトヲ指セル者ナリ(第六ヲ見ヨ)即チキリスト我儕ニ代テ我儕ノ犯シタル律法ノ要求ヲ十分ニ満足セシメタルガ故ニ我

儕ヲ義人ト見做ス事ヲ指ス者ナリ、然ラバ則チ其子ノ死ニ由テ神ニ和グトハ我儕ガ神ニ對シテ懷ク所ノ仇恨ヲ去タルニハ非ズシテ我儕ガ再ビ神ノ恩寵ニ復シタルノ意ニ解セザルヲ得ズ、第十一節ニ我儕ニ和ヲ得サセ給ヒシ我主イエスキリストニ由テ神ヲ喜ベリト云ヒタルハ即チ此意ナリ、此處ニ謂フ所ノ復和トハ我儕ノ承諾シタル事ニハ非ズ我儕ノ受領シタル者ナリ、即チ我儕ハ神ニ和ギタルニ非ズシテ神我儕ニ和ギ給ヘル也、後哥林五ノ十八ヨリ二十ニ曰凡ノ物神ヨリ出ヅ、彼キリストニヨリ我儕ヲシテ己ト和ガシメ且其和ガシムル職ヲ我儕ニ授ク、即チキリストニ在テ世ヲ己ト和ガシメ其罪ヲ之ニ負セズ且和ガシムル言ヲ我儕ニ委子給ヘリ、是故ニ我儕召サレテキリストノ使者トナレリ、即チ神我儕ニ由リ汝等ヲ勸メ給フガ如シ、我儕キリストニ代テ汝等ガ神ニ和ガンコトヲ汝等ニ願フト、此ニ由

テ觀レバ左ノ事明白ナリ

(一)我儕ガキリストニ由テ神ニ和グハ先ヅ神ヨリ始レル事ニシテ且神ガ使徒等ニ復和ノ職ヲ授ケ之ニ由テ罪人ヲ己ニ和ガセ給フ其先ヨリアル事(二)神ガ世ヲ己ト和ガセシメ給フハ我儕ガ神ニ對シテ懷ク仇恨ヲ除去ルニ非ズシテ我儕ニ對スル神ノ義怒ヲ除去ルニアル事是レ其罪ヲ之ニ負ハセズト云フ語ニ由テモ顯ハルナリ(三)我儕ガ神ニ和グベキ事モ眞實ニシテ第二十節ニ其教アリ然レモ是ハ神ガ授ケ給フ所ノ復和ノ法ニ由ルニ非レバ能ハザル也
以弗二ノ十六ニ曰又十字架ヲ以テ仇恨ヲ滅シ又之ヲ以テ二ツノ者ヲ一體トナシテ神ト和ガシメンガ爲ナリト此處ノ主意モ前後ノ文勢ニ由テ明白ナルガ如ク吾人ガ神ニ和グ事ヨリモ吾人ガ再ヒ神ノ恩寵ニ復スル事ニアリ何トナレバ既ニ第十二節ニモ

ベツ人ハ曾テキリストナクイスラエルノ籍ニ非ル異邦人ニシテ夫ノ約束ニ就テ結ビ給ヒシ契約ニ與ナク望ナク又世ニ在テ神ナキ者ナリトシタレバ也然レモ彼等ハキリストノ血ニ由テ導カレテ遂ニ靈魂ノ平和ト神ノ家族ニ屬スルノ幸福ヲ受ル者トナリタル也

哥羅一ノ二十ニ曰父ナル神ハキリストニ由テ萬物ヲシテ己ト和ガシムルコトヲ嘉ント爲シ給ヘリト又同章二十一ト二十二ニ曰夫レ汝等ハモト惡行ヲ行フニ由テ神ニ遠カリ心ニテ其敵トナレルモノナリシガ神今キリストノ肉ノ身體ヲ以テ其死ニ由リ汝等ヲシテ己ト和ガセ潔ク玷ナク咎ナクシテ己ノ前ニ立シメントスト此處ニハコロサイ人ハモト神ニ遠カリ神ニ背レル者ナリシガ遂ニ聖潔ナル者トナレリトアレバ復和ニハ神ニ對シテ吾人ノ心情ノ一變スルコトヲ含ムコト明白ナリ然レモ

復和トハ是事ノミニ非ズ何トナレバ第二十節ニ其十字架ニ由テ平和ヲナシ。萬物ヲシテ己ト和ガシムルトアレバ也、サテ此平和ハ罪人ガ平和ヲ得ル前ニアリ且之ヲ得セシムル爲ノ者ナレバナリ、然ラバ則チ此平和トハ十字架ノ皿ニ由レル平和ニシテ吾人ニ對スル神ノ平和ヲ指ヘル者タラザルヲ得ズ而シテ其結果ハ即チ罪人ガ神ニ對シテ和グコトナリトス

然レモ或人ハ聖經ニ教フル所ノ復和トハ吾人ガ神ニ和グ事ニシテ神ガ吾人ニ和グ事ニ非ズト主張セリ

(一) 其説ニ曰神ハ人ニ對シテ和グノ必要ナシ何トナレバ神ニ於テハ仇恨アルコトナケレバ也ト、我儕答テ曰聖經ハ明白ニ神ハ義キ審判者ニシテ毎日怒ル神ナリト云ヒ(詩篇七ノ十一)又神ノ怒ハ凡ノ不虔不義ニ向テ天ヨリ顯ハルトアリ(羅馬一ノ十八)

聖經ニ於テ神ガ罪人ニ對シテ震怒シ給フコトヲ云フハ即チ何カ。神ガ罪人ニ恩寵ヲ施シ給フ前ニ神ノ方ニ於テ除去ルベキ物アルコトヲ教フル者也

(二) 又其説ニ曰此キリストノ苦難ニ基ク所ノ復和ハ唯吾人ガ神ニ對シテ懐ク所ノ仇恨ノ心ヲ除去ル事ニ過ズ何トナレバ此復和ヲ謀リ之ヲ勸ムル者ハ即チ神ナルガ故ニ神ガ我儕ヲ救ハシガ爲ニ其子ヲ世ニ遣シタル前ヨリ既ニ其震怒ハ息マザルヲ得ザル也ト、之ニ答フルニ當テ我儕ハ惟父タル神ト審判者タル神トノ別ヲ記憶スルヲ要ス、夫レ神ハ人類ヲ憐ミ愛シ給フ故ニ己ガ子ノ死ヲ以テ之ガ爲ニ救ノ道ヲ立給ヘリ、然レモ亦眞實公義ナル審判者トシテ惡人ヲ怒リ給フ故ニ彼等ハ義罰ノ下ニアル也、神ガ罪人ヲ愛スルト云ヒ又同時ニ之ヲ怒ルト云フコトヲ思想スルハ困難ナキニ非ズ、然レモ其例遠カラズ、父ハ其子ヲ愛

スト雖亦其行ノ惡キ時ハ之ヲ怒ルニ非ズヤ、國王ハ國法ヲ犯ス者アレバ必ズ怒テ之ヲ罰スト雖之ヲ免スベキ十分ノ理由アレバ喜テ之ヲ赦スニ非ズヤ、神ガ罪人ト和グヲ要シ給フ所以ハ神ハ永遠ノ王ニシテ又萬國ノ審判者タルガ故ナリ

(三) 又其說ニ曰聖經ニ於テ神ガ我儕ニ和グト云ヘル所ナシ唯吾人ガ神ニ和グベキコトヲ説クノミト、此説ノ取ルニ足ラザルコトハ上ニ舉述シタル本文ニ由テ明白ナリ、又馬太五ノ二十三ト二十四ニ用非タル和ギト云フ語ノ意味ヲモ其一証トナスヲ得ベシ、曰是故ニ汝等若シ禮物ヲ携ヘテ壇ニ往タル時彼處ニテ兄弟ニ恨マル、コトアルヲ憶起サバ其禮物ヲ壇ノ前ニ置先ツ往テ汝ノ兄弟ト和ギ後來テ汝ノ禮物ヲ獻ケヨト、此處ニ云フ「恨マル、者ハ」即チ他ノ者ガ之ニ對シテ和ヲ求ムベキ者ニシテ「兄弟ト和グト云フハ」即チ彼ガ心ノ變化セルコトヲ指セル者ナラ

ザルヲ得ズ

之ヲ要スルニ聖經ニキリストハ我儕ヲ神ニ和ガシメタリトアルハ惟我儕ハ之ニ由テ神ノ恩寵ヲ蒙ルコトヲ確信シ而テ神ニ對シテ仇恨ヲ棄ルノ意ニ非ズキリストノ死ニ由テ神ノ義怒轉ジテ我儕ハ其恩寵ヲ蒙ルコトヲ指ス也

(四) キリストガ曾テ世ニ在テ受タル所ノ困難ト今天ニ在テ爲ス所ノ代求トノ間ニ親密ナル關係アル事ヲ説ク所ノ本文アリパウロハ前提摩二ノ五ト六ニ我儕ノ贖タル者ハ即チ我儕ノ中保タルコトヲ示シ第一約翰二ノ一ト二ニハ我儕ノ罪ノ挽回ノ祭物ハ即チ我儕ノ保惠師タルコトヲ説キ腓力二ノ六ヨリ十一ニハキリストガ崇メラレタルハ其死ニ至ル迄順ヒタル故ニシテ其崇メラレタル一ノ目的ハ其我儕ニ代求センガ爲ナリトアリ曰此ハ悉クイエスノ名ニ由テ膝ヲ屈シメン爲云々

キリストノ代求ハ唯友人ノ代求ニ非ズキリストハ我儕ノ大祭司トシテ之ヲ爲給フ也、希伯四ノ十四ヨリ十六ニハ我儕ニハ我が荏弱ナルヲ體恤ルコトヲ得ル大祭司アルガ故ニ憚ラズシテ恩惠ノ座ニ來ルベシトアリ、同書七ノ二十四ト二十五ニハキリスト永遠無易ノ祭司職アルガ故ニ已由テ神ニ來ル者ノ爲ニ代求^ト爲ニ生レバ彼等ヲ全ク救得ル也トアリ、然レモキリストノ代求ハ其祭司職ノ一部分ナルガ故ニ其自ラ獻ゲタル所ノ犠牲ニ基カザルヲ得ズ、是レ希伯九章ニ由テ明白也、此章ニハキリストノ大祭司タル職トユダヤノ大祭司ノ職トヲ比較セリ七節ニハ唯ユダヤノ大祭司ノミ能ク年ニ一次血ヲ携ヘテ與ナル幕屋ニ入ルヲ得タルコトヲ説キ而シテ十一節十二節ニハキリストハ來ラントスル善事ノ祭司ノ長ニシテ手ニテ造レル幕屋即チ此世ニ屬ル所ノ者ナラス愈リタル大ナル全

キ幕屋ニヨリ羊羴ノ血ヲ用ス己ガ血ヲ以テ一次聖所ニ入テ永遠贖ヲナスヲ得タリト云ヒ、又二十三節以下二十六節ニハ天ニアル者ハ必ズ之ニ象リタル者ヲ潔ル犠牲ヨリモ愈リタル犠牲ヲ以テ潔メラルベキコトヲ説キ而シテ後ニキリストハ眞ノ者ノ摸ナル手ニテ造レル聖所ニ入ラズ今ヨリ永ク我儕ノ爲ニ神ノ前ニ顯ハレントテ眞實ノ天ニ入メ又彼ハ祭司長ノ年毎ニ他ノ物ノ血ヲ以テ聖所ニ入ル如ク屢々己ヲ獻ルコトヲセズ若シ然ラズバ彼創世ヨリ以來屢々苦難ヲ受ヘキ也然レ已由テ犠牲トナシテ罪ヲ除ンガ爲ニ今世ノ季ニ一次顯ハレタリト云ヘリ然ラバキリストノ犠牲ハ其常ニ天ニ在テ我儕ノ爲ニナス所又之ニ由テ凡テ己ニ由テ父ニ近ク者ヲ全ク救得ル所ノ代求ノ基礎タルコト明白ナリトス

(五) キリストノ苦難及ビ死ハ我儕罪人ニ代テ受タル者ナリ、語

ヲ更テ之ヲ言ヘバキリストハ罪人ノ受クベキ神ノ詛ト死ノ罰トヲ彼等ニ代テ自ラ受タル也

一 是レ以賽五十三章ニ由テ明白ナリ即チ四節ニ曰誠ニ彼ハ我儕ノ病患ヲ任ヒ我儕ノ愁苦ヲ擔ヘリ、五節ニ曰彼ハ我儕ノ愆ノ爲ニ傷ラレ我儕ノ不義ノ爲ニ碎カレ自ラ懲罰ヲ受テ我儕ニ平安ヲアタフ其ウタレシ痕ニ由リテ我儕ハ愈サレタリ、六節ニ曰エホバハ我儕凡テノ者ノ不義ヲ彼ノ上ニ置キタマヘリ、八節ニ曰彼ハ我が民ノ愆ノ爲ニ鞭扑レシナリ、此等ノ語ハ我儕が受クベキ罰ヲキリストガ我儕ニ代テ受タルコトヲ表明スル者ナリ、我儕ノ平和ノ罰トハ其罰ニ由テ唯能ク神ト復和スルコトヲ得ル所ノ罰ノ義ナリ

二 キリストノ苦難及ビ死ヲ指シテ價又ハ贖ニ比シ而シテ其苦ニ由テ得タル所ノ者ヲ指シテ買ハレタル者又ハ贖ハレタル

者ト稱シタル所アリ

馬太二十ノ二十八ニ曰此ノ如ク人ノ子ノ來ルモ人ヲ役フ爲ニハ非ズ反テ人ニ役ハレ又多ノ人ニ代テ生命ヲ予ヘ其贖トナラシ爲ナリ(馬可十ノ四十五參考)行傳二十ノ二十八ニ曰主ノ己ガ血ヲ以テ買給ヒシ所ノ教會ヲ牧フベシ、前哥林六ノ十九ニ曰汝等ハ汝等ノ者ニアラザルコトヲ知ラザル乎ソハ汝等ハ價ヲ以テ買ハレタル者ナレバ也、以弗一ノ七ニ曰ソノ恩ノ豊カナルニ由テ彼ニアル我儕其血ニヨリ贖即チ罪ノ赦ヲ得ル也、哥羅一ノ十四ニ曰我儕其子ニ由リ贖即チ罪ノ赦ヲ得ル也、前提摩二ノ六ニ曰彼凡ノ人ニ代リ己ヲ棄テ贖トナセリ、提多二ノ十四ニ曰キリスト我儕ノ爲ニ己ノ身ヲ棄給ヘリ是レ我儕ヲ諸ノ罪ヨリ贖ヒ出シ且己ノ爲ニ一ノ民ヲ潔メ之ヲシテ熱心ニ善事ヲ行ハシメン爲ナリ、前彼得一ノ十八ト十九ニ曰ソハ汝等贖ハレテ先祖

ヨリ傳ハリタル徒シキ行ヨリ離レシハ銀ヤ金ノ如キ壞ル物ニ由ルニ非ズ疵ナク汚ナキ羔ノ如キキリストノ寶血ニ由ルコトヲ知レバ也(羅馬三ノ二十三ト二十四、加拉三ノ十三、同四ノ四五、希伯九ノ十二、默示五ノ九參考)

キリストガ人類ヲ救ハン爲ニ行シタル事ヲ世人ノ熟知スル種々ノ取引ニ比シタルコトアリ、例ヘバ贖罪ヲ罪ノ赦ト同義ニ説キタル所ニハ之ヲ負債ヲ償還スルコトニ比シキリストガ己ガ身ヲ贖トナシタルコトヲ説キタル所ニハ之ヲ奴隸又ハ囚人ノ放釋セラレタルコトニ比シタリ、又贖ハレタル者ノ得ル所ノ自由ヨリモ贖ハレタル者ハ即チ贖主ノ所有ニ屬スルコトヲ説キタル所アリ、例ヘバ我儕ハ神ニ贖ハレタル者ニシテ己ノモノニ非ズ價ヲ以テ買ハレタル者ナレバ也トアルガ如シ、凡テ此等ノ比喻ハ唯一ヲ以テ其全體ヲ表明スル者ニ非ズ只各其一部分ヲ

表明スル耳、然レ凡テ此等ノ比喻中ニ常ニ含有スル所ノ者ハ我儕ノ贖罪ノ爲ニ價ヲ要セシコト是レ也、即チ我儕ガ神ニ對シテ負フ所ノ者ハ銷サレタルニ非ズ我儕ノ贖者ニ由テ我儕ノ爲ニ全ク償ハレタル也、罪ニ束縛セラレ、者ハ唯救主ガ罪ニ勝タルガ故ニ自由ヲ得ルニ非ズ又唯其束縛ヲ釋カル、ガ故ニ自由ヲ得ルニモ非ズ現ニ其罪ノ贖ハレタルガ故ニ自由ヲ得ル也、是レ蓋前ニ引タル本文ノ緊要ナル教ナリ

是故ニキリストハ己ノ血ニ由テ我儕ヲ贖ヒタリト云ヒ又多ノ人ヲ贖ハンガ爲ニ己ノ生命ヲ棄タリト云ヒ又我儕ハ其血ニ由テ贖即チ罪ノ赦ヲ得トアルヲ見レバキリストハ單ニ何カ一ノ緊要ナラザル方法ニ由テ罪ノ罰ヨリ我儕ヲ救ヒタリト云フノ意ニ非ズシテキリストハ正シク我儕ニ代テ價ヲ出スト即チ罪ヲ贖フコトニ由テ我儕ヲ救ヒタリト意ナルヲ知ル也、而シ

テ其價ハ即チ其血又ハ生命ナリト明示セララル、也

(三) キリストハ罪人ノ爲ニ死シタリト説ク所アリ

路加二十二ノ十九ト二十ニ曰又パンヲ取リ謝シテ擘キ彼等ニ予ヘテ曰ケルハ此ハ汝等ノ爲ニ予ル我ガ身體ナリ、我ヲ記シ爲ニ之ヲ爲セ、又食シテ後杯ヲ取リ曰ケルハ此杯ハ汝等ノ爲ニ流ス。我血ニシテ立ル所ノ新約ナリ、羅馬五ノ六ヨリ八ニ曰我儕尙弱カリシ時キリスト定リタル日ニ及テ罪人ノ爲ニ死給ヘリ、夫レ義人ノ爲ニ死ル者殆ド少レナリ、仁者ノ爲ニハ死ルコトヲ厭ハザル者モヤアラン、然ドキリストハ我儕ノ尙罪人タル時我儕ノ爲ニ死給ヘリ、神ハ之ニ由テ其愛ヲ彰ハシ給フ、後哥林五ノ十四ト十五ニ曰キリストノ愛我儕ヲ勵セリ我儕思フニ一人凡人ニ代テ死タレバ凡人既ニ死タル也、其凡人ニ代テ死シハ生者ヲシテ以後己ガ爲ナラズ己ニ代リ死テ甦シ者ノ爲ニ世ヲ

過サシメントテ也、前彼得三ノ十八ニ曰キリストモ一次罪ノ爲ニ苦ヲ受ク、義者不義者ニ代レリ、是レ我儕ヲ引テ神ニ至ラン爲ナリ、第一約翰三ノ十六ニ曰主ハ我儕ノ爲ニ生命ヲ棄給ヘリ(約翰十五ノ十二ト十三、以弗五ノ二、希伯二ノ九參考)
其他此類ノ本文枚舉ニ違アラズ、然レ此之ニ由テキリストハ唯罪人ノ爲ニ死シタル耳ニ非ズ彼等ニ代テ即チ彼等ノ代表者トシテ死シタルヲ明白ナルベシ

(四) キリストガ苦難ヲ負タル所以即チキリストハ我儕ノ罪ノ爲ニ苦難ヲ負タルヲ説ク所アリ

羅馬四ノ二十五ニ曰イエスハ我儕ガ罪ノ爲ニ付サレ又我儕ガ義ト爲ラレン爲ニ甦ラサレタリ、羅馬八ノ三ニ曰神己ノ子ヲ罪ノ肉ノ狀トナシテ罪ノ爲ニ遣ハシ其肉ニ於テ罪ヲ罰シヌ、前哥林十五ノ三ニ曰我が汝等ニ傳ヘシハ我が受シ所ノ事ニシテ其